

平成30年8月16日

高等教育局長 殿

国立大学法人佐賀大学長
宮 崎 耕 治

佐賀大学大学院農学研究科設置報告書

このたび、佐賀大学大学院農学研究科を設置することについて、別紙書類にて報告いたします。

設置計画の概要

事 項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の設置
フリガナ者	コリツダイガクホウジン サガダイガク 国立大学法人 佐賀大学
フリガナ名称	サガダイガク ダイガクイン 佐賀大学大学院 (Graduate School of Saga University)
新設学部等に 養成する人材像	<p>【農学研究科】</p> <p>①養成する人材像 農学の専門分野における知識と技術を修得し、分野の枠を超えた知識及び考え方を取り入れた、創造性豊かな優れた研究者や技術者等の高度な人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 農学分野に関する高度な知識・技術に加え、科学的思考や洞察力に基づく問題解決能力、異分野の知識や考え方を含んだ分野の枠を超えた視点及び実践力、さらに、倫理観、知的財産に関する知識を習得させる。</p> <p>【生物資源科学専攻】</p> <p>①養成する人材像 生物資源の開発と生産、農業生産環境の制御、或いは、国内外の地域産業に関わる諸分野において、その社会的要請にこたえうる高度な専門性と問題解決能力を身につけた人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 生物資源科学専攻の各コースやそれぞれの専門分野に関する高度な知識・技術に加え、科学的思考や洞察力、企業等や地域において活躍するための幅広い視点及び実践力、研究者等として身に着けておくべき倫理観、知的財産に関する知識を修得させる。</p> <p>(生物科学コース)</p> <p>②習得させる能力 ・生物科学の領域における先端の高度な専門知識 ・生物資源の生産と制御に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力</p> <p>③修了後の進路 ・農業関連産業のリーダー人材 ・食品、医薬品業界を先導する新技術開発 ・研究者、大学教員、専任教員 ・農業試験場、農業改良普及員、上級公務員</p> <p>(食資源環境科学コース)</p> <p>②習得させる能力 ・食資源環境科学の領域における先端の高度な専門知識 ・農業生産や環境に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力</p> <p>③修了後の進路 ・農業関連産業のリーダー人材 ・食品、医薬品業界を先導する新技術開発 ・研究者、大学教員、専任教員 ・農業試験場、農業改良普及員、上級公務員</p> <p>(生命機能科学コース)</p> <p>②習得させる能力 ・生命機能科学の領域における先端の高度な専門知識 ・食料や健康に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力</p> <p>③修了後の進路 ・農業関連産業のリーダー人材 ・食品、医薬品業界を先導する新技術開発 ・研究者、大学教員、専任教員 ・農業試験場、農業改良普及員、上級公務員</p> <p>(国際・地域マネジメントコース)</p> <p>②習得させる能力 ・国際・地域マネジメントの領域における先端の高度な専門知識 ・農学を基盤とした地域振興と国際協力に関する諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力</p> <p>③修了後の進路 ・農業関連産業のリーダー人材 ・経営コンサルタント、農業協同組合、地元農業法人 ・NGO、NPO、国際協力事業団 ・地元農業経営</p>
既設学部等に 養成する人材像	<p>【農学研究科 生物資源科学専攻】</p> <p>①養成する人材像 研究科は、地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力、高い倫理意識及び国際的視野を有し、多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し、活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・高い倫理意識と国際性豊かな教養を有し、情報収集・分析能力及び優れたコミュニケーション能力を活かして、企業や社会において指導的立場で活躍できる能力 ・生物資源の開発と制御、環境保全と持続的農業生産、生命化学と食糧科学、地域社会の持続可能な開発などの分野で、先端的・応用的・実用的な能力 ・中北部九州及びアジアの諸地域における地域農業組織・企業・団体・行政・研究所等の職場で、実行力をもって活躍できる能力</p> <p>③修了後の進路 ・農業 ・食品関連製造業 ・情報通信業</p>
新設学部等において 取得可能な資格	<p>【農学研究科 生物資源科学専攻】</p> <p>・中学校教諭専修免許状（理科）、高等学校教諭専修免許状（理科、農業）</p> <p>① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要</p>

既設学部等において取得可能な資格		【農学研究科 生物資源科学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（理科），高等学校教諭専修免許状（理科，農業） ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
						学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
新設学部等の概要	農学研究科 [Graduate School of Agricultural Science] 生物資源科学専攻 (修士課程) [Department of Biological Resource Sciences]	2	32	-	64	修士(農学)	農学関係	平成31年4月	生物資源科学専攻	39	17
									計	39	17
既設学部等の概要	農学研究科 生物資源科学専攻 (修士課程)	2	40	-	80	修士(農学)	農学関係	平成22年4月	先進健康科学研究科先進健康科学専攻	10	3
									農学研究科生物資源科学専攻	39	17
									その他	3	0
									計	52	20

【備考欄】

・大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施

理工学部 数理科学科 物理科学科 知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科 ※平成31年4月学生募集停止	[廃止] (入学定員 30) [廃止] (入学定員 40) [廃止] (入学定員 60) [廃止] (入学定員 90) [廃止] (入学定員 90) [廃止] (入学定員 90) [廃止] (入学定員 90)	→	理工学部 理工学科 (入学定員 480) (平成30年4月申請)
農学部 応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科 ※平成31年4月学生募集停止	[廃止] (入学定員 45) [廃止] (入学定員 60) [廃止] (入学定員 40)	→	農学部 生物資源科学科 (入学定員 145) (平成30年4月申請)
工学系研究科 (博士前期課程)[廃止] 数理科学専攻 物理科学専攻 知能情報システム学専攻 循環物質化学専攻 機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 都市工学専攻 先端融合工学専攻 ※平成31年4月学生募集停止	[廃止] (入学定員 9) [廃止] (入学定員 15) [廃止] (入学定員 18) [廃止] (入学定員 27) [廃止] (入学定員 28) [廃止] (入学定員 27) [廃止] (入学定員 24) [廃止] (入学定員 36)	→	理工学研究科 (修士課程) 理工学専攻 (入学定員 167) (平成30年4月申請)
医学系研究科 (修士課程)[廃止] 医科学専攻 看護学専攻 ※平成31年4月学生募集停止	[廃止] (入学定員 15) [廃止] (入学定員 16)		先進健康科学研究科 (修士課程) 先進健康科学専攻 (入学定員 52) (平成30年4月申請)

【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体 借地面積 16,116 m ²		
	校 舎 敷 地	332,968 m ²	0 m ²	0 m ²	332,968 m ²			
	運 動 場 用 地	96,879 m ²	0 m ²	0 m ²	96,879 m ²			
	小 計	429,847 m ²	0 m ²	0 m ²	429,847 m ²			
	そ の 他	400,449 m ²	0 m ²	0 m ²	400,449 m ²			
合 計	830,296 m ²	0 m ²	0 m ²	830,296 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体		
		153,878 m ² (154,060 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	153,878 m ² (154,060 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	※大学全体		
	112 室	113 室	472 室	16 室 (補助職員 - 人)	4 室 (補助職員 - 人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数				
		農学研究科		42 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分を含む
	大学全体	709,062 [221,903] (709,272 [222,323])	11,880 [4,096] (11,880 [4,096])	5,444 [4,146] (5,444 [4,146])	2,890 (2,770)	8,106 (6,372)	230 (230)	
	計	709,062 [221,903] (709,272 [222,323])	11,880 [4,096] (11,880 [4,096])	5,444 [4,146] (5,444 [4,146])	2,890 (2,770)	8,106 (6,372)	230 (230)	
図書館		面積		収 納 可 能 冊 数	大学全体			
		7,887 m ²		819 席				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		5,543 m ²		陸上競技場, 野球場, テニスコート, 弓道場, プール				

【既設学部等の状況】

大 学 の 名 称	佐賀大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
教育学部 学校教育課程	4	120	—	360	学士 (学校教育)	1.05	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
文化教育学部 学校教育課程	4	—	—	—	学士 (学校教育)	—	平成9年度	平成28年度より名称変更
国際文化課程	4	—	—	—	学士 (国際文化)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
人間環境課程	4	—	—	—	学士 (人間環境)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
美術・工芸課程	4	—	—	—	学士 (健康福祉・スポーツ)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科	4	110	3年次5	335	学士 (芸術) 学士 (地域デザイン)	1.05	平成28年度	同上
経済学部 経済学科	4	110	—	440	学士 (経済学)	1.04	平成25年度	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
経営学科	4	80	—	320	学士 (経済学)	1.06	平成25年度	
経済法学科	4	70	—	280	学士 (経済学)	1.04	平成25年度	
医学部 医学科	6	106	—	636	学士 (医学)	1.00	平成16年度	佐賀県佐賀市鍋島 五丁目1番1号
看護学科	4	60	—	240	学士 (看護学)	1.00	平成16年度	
理工学部 数理科学科	4	30	—	120	学士 (理学)	1.03	平成16年度	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
物理科学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.01	平成16年度	
知能情報システム学科	4	60	—	240	学士 (理学)	1.02	平成16年度	
機能物質化学科	4	90	—	360	学士 (理学)	1.05	平成16年度	
	4	90	—	360	学士 (工学)	1.04	平成16年度	

既設大学等の状況	機械システム工学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.03	平成16年度	
	電気電子工学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.03	平成16年度	
	都市工学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.03	平成16年度	
	各学科共通			3年次 ㉔	40				
	農学部						1.04		同上
	応用生物科学科	4	45	—	180	学士（農学）	1.03	平成18年度	
	生物環境科学科	4	60	—	240	学士（農学）	1.03	平成18年度	
	生命機能科学科	4	40	—	160	学士（農学）	1.06	平成18年度	
	各学科共通			3年次 ㉔	20				
	学校教育学研究科 （専門職学位課程） 教育実践探究専攻	2	20	—	40	教職修士（専門職）	1.00	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
	地域デザイン研究科 （修士課程） 地域デザイン専攻	2	20	—	40	修士（地域デザイン）	0.92	平成28年度	同上
	医学系研究科 （修士課程） 医科学専攻	2	15	—	30	修士（医科学）	0.46	平成16年度	佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号
	看護学専攻	2	16	—	32	修士（看護学）	0.62	平成16年度	
	（博士課程） 医科学専攻	4	25	—	100	博士（医学）	0.95	平成20年度	
	工学系研究科 （博士前期課程） 数理科学専攻	2	9	—	18	修士（理学）	0.77	平成16年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
	物理科学専攻	2	15	—	30	修士（理学）	0.69	平成16年度	
	知能情報システム学専攻	2	18	—	36	修士（理学）	0.91	平成16年度	平成28年度入学定員増（2人）
	循環物質化学専攻	2	27	—	54	修士（理学） 修士（工学）	1.18	平成22年度	
	機械システム工学専攻	2	28	—	56	修士（工学）	1.19	平成16年度	平成28年度入学定員増（1人）
	電気電子工学専攻	2	27	—	54	修士（工学）	1.10	平成16年度	
都市工学専攻	2	24	—	48	修士（工学）	0.95	平成16年度	平成28年度入学定員減（3人）	
先端融合工学専攻	2	36	—	72	修士（学術） 修士（理学） 修士（工学）	1.02	平成22年度		
（博士後期課程） システム創成科学専攻	3	24	—	72	博士（学術） 博士（理学） 博士（工学）	0.84	平成22年度		
農学研究科 （修士課程） 生物資源科学専攻	2	40	—	80	修士（農学）	1.10	平成22年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地	
	名称：アドミッションセンター								
	目的：入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，本学の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。								
	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地								
	設置年月：平成19年10月								
	規模等：土地 - m ² 建物 53 m ²								
	名称：キャリアセンター								
	目的：キャリア教育の調査研究及び就職支援に係る業務を行うことにより，本学の就職支援の充実発展に寄与することを目的とする。								
	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地								
	設置年月：平成19年10月								
	規模等：土地 - m ² 建物 110 m ²								
	名称：国際交流推進センター								
	目的：部局及び地域社会と連携し一体となって，海外の教育研究機関との国際交流の進展に寄与することを目的とする。								
	所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地								
	設置年月：平成23年10月								
	規模等：土地 - m ² 建物 311 m ²								

<p>名称：教員免許更新講習室</p> <p>目的：教育職員がその時々に必要な資質能力を保持し、定期的に最新の知識技能を身に付け、もって教育職員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 23 m²</p>	
<p>名称：全学教育機構</p> <p>目的：本学の共通教育、国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報の通信技術の活用支援を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証等に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成23年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 7,606 m²</p>	
<p>名称：附属図書館</p> <p>目的：教育、研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な図書、雑誌等の資料はじめ学術情報を収集し、整理、作成、保存して提供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成元年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 7,643 m²</p>	
<p>名称：美術館</p> <p>目的：本学の目的、使命にのっとり、本学の教育、研究、社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な芸術資料等を収集、保存、管理及び調査し、並びに展示公開することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成25年6月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 1,502 m²</p>	
<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：本学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的とする</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：昭和45年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 450 m²</p>	
<p>名称：海洋エネルギー研究センター</p> <p>目的：共同利用・共同研究拠点として、海洋エネルギーとその複合利用に関する研究を行い、かつ、全国の大学の教員その他の研究機関の研究者で、センターの目的たる研究と同一の分野の研究に従事するものの利用及び研究に供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地、佐賀県伊万里市山代町久原字平尾1番48号</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 10,751 m² 建物 4,673 m²</p>	
<p>名称：総合分析実験センター</p> <p>目的：生物資源開発・機器分析・放射性同位元素利用・環境安全管理に関する体制を一元化し、各部門が有機的な連携を保ちつつ、教育・研究を効率的に推進するための拠点施設として、学際的・複合的な領域研究にも対応できる教育・研究支援体制の実現を目指すことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 5,246 m²</p>	
<p>名称：総合情報基盤センター</p> <p>目的：本学の学術情報を支える基幹情報システムを統括するとともに、本学の共通的情報基盤の整備推進及び電子図書館機能の充実並びに事務情報化の推進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成18年2月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 939 m²</p>	
<p>名称：シンクロトロン光応用研究センター</p> <p>目的：本学の共同利用研究施設として、シンクロトロン光を応用して行う研究を推進し、その成果を公表することにより、本学の研究教育活動及び学術交流の活性化を図るとともに、地域社会における先端科学技術開発及び産学連携の振興に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成13年6月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 354 m²</p>	

附属施設の概要

<p>名称：地域学歴史文化研究センター</p> <p>目的：地域（佐賀）の歴史文化の固有性と普遍性を探求することにより，本学の文系基礎学の発展・充実を図り，もって新たな学問体系としての地域学を創造するとともに，広く地域社会に対し研究成果を提供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 - m² 建物 160 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属幼稚園</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市水ヶ江1丁目4番45号 設置年月：昭和45年4月 規模等：土地 3,565m² 建物 744 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属小学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市城内2丁目17番3号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 17,426 m² 建物 5,624 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属中学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市城内1丁目14番4号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 22,166 m² 建物 6,379 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属特別支援学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町正里46番2号 設置年月：昭和53年4月 規模等：土地 19,915 m² 建物 3,677 m²</p>	
<p>名称：教育学部附属教育実践総合センター</p> <p>目的：附属学校（園）等，学内外の関係機関との連携のもとに，教育臨床，教育実践及び教職支援に関する理論的・実践的研究及び指導を行い，教育実践の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成14年4月 規模等：土地 - m² 建物 530 m²</p>	
<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：医学の教育及び研究に係る診療の場として機能するとともに，医療を通して医学の水準及び地域医療の向上に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号 設置年月：昭和56年4月 規模等：土地 99,233 m² 建物 70,388 m²</p>	
<p>名称：医学部附属地域医療科学教育研究センター</p> <p>目的：本学における教育研究の先導的組織として，地域医療機関，保健行政機関等との連携を基盤に，地域包括医療の高度化等に関する総合的，学際的な教育研究を行うとともに，関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：土地 - m² 建物 222 m²</p>	
<p>名称：医学部附属先端医学研究推進支援センター</p> <p>目的：本学部における医学研究活動をより一層推進するため，学際分野を含む医学研究の先端的・中心的な役割を担い，もって学内外への情報発信を行うとともに，本学部における教育研究の基盤となる高度な技術的支援とその研鑽を組織的に行うことにより，関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号 設置年月：平成19年4月 規模等：土地 - m² 建物 53 m²</p>	

<p>名称：農学部附属アグリ創生教育研究センター</p> <p>目的：農学部の附属教育研究施設として、学内外の関係機関との連携のもとに、アグリ創生に関する教育及び研究を行い、農業・医療・環境修復等の地域社会ニーズに対応した学際的な国際化戦略の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市久保泉町下和泉1841番地，佐賀県唐津市松南町152番1号</p> <p>設置年月：平成24年10月</p> <p>規模等：土地 180,840 m² 建物 4,018m²</p>	
<p>名称：神集島合宿研修所</p> <p>目的：本学学生の集団行動における訓練の場として、学生相互あるいは教職員との共同生活を通じて、学生の人間形成に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県唐津市神集島コウソ辻1430番地</p> <p>設置年月：昭和48年3月</p> <p>規模等：土地 9,940 m² 建物 205 m²</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要

(農学研究科 生物資源科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス 共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—		3	4		—								兼11	—
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	1前	2			○			4						兼38	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		4						兼55	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前		1		○									兼8	オムニバス
	医学・看護学概論	1前		1		○									兼6	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後		1		○									兼1	
	知能情報工学概論	1後		1		○									兼1	
	材料化学特論	1後		1		○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	都市工学通論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前		1		○									兼6	オムニバス
	人体構造実習	1・2通		1				○							兼6	オムニバス 共同
	看護理論	1前		1		○									兼4	オムニバス
	生物科学特論	1後		1		○			4							オムニバス
	生命機能科学特論	1後		1		○			4	1					兼1	オムニバス
	食資源環境科学特論	1後		1		○			2	6						オムニバス
	国際・地域マネジメント特論	1後		1		○			2	3						オムニバス
小計(22科目)	—		6	21		—		14	10					兼113	—	
	熱帯農業資源学特論	1・2前		1		○			1							
	熱帯資源植物利用学特論	1・2前		1		○			1							
	熱帯作物改良学特論	1・2後		1		○				1						
	熱帯作物生理学特論	1・2後		1		○				1						
	動物資源開発学特論	1・2後		1		○			1							
	動物ゲノム情報学特論	1・2後		1		○			1							
	動物発生学特論	1・2後		1		○				1						
	動物繁殖生理学特論	1・2後		1		○				1						
	蔬菜花卉園芸学特論	1・2後		1		○			1							
	園芸植物資源開発学特論	1・2後		1		○			1							
	花卉園芸学特論	1・2前		1		○				1						
	植物系統分類学特論	1・2前		1		○				1						
	植物ゲノム育種学特論	1・2前		1		○			1							
	植物分子遺伝学特論	1・2前		1		○			1							
	植物ゲノム工学特論	1・2後		1		○					1					
	植物ゲノム情報科学特論	1・2後		1		○					1					
	植物病原学特論	1・2前		1		○				1						

専門科目	植物感染病学特論	1・2前	1	○			1			
	植物ウイルス病学特論	1・2後	1	○		1				
	植物ウイルス学特論	1・2後	1	○		1				
	線虫学特論	1・2前	1	○			1			
	先端線虫科学特論	1・2前	1	○			1			
	昆虫分子生物学特論	1・2後	1	○		1				
	先端昆虫分子生物学特論	1・2後	1	○		1				
	システム生態学特論	1・2後	1	○			1			
	進化生態学特論	1・2後	1	○			1			
	動物行動生態学特論	1・2後	1	○		1				
	動物行動学特論	1・2後	1	○		1				
	植物環境応答学特論	1・2後	1	○		1				
	応用植物生理学特論	1・2後	1	○		1				
	家畜行動学特論	1・2後	1	○			1			
	家畜管理学特論	1・2後	1	○			1			
	作物生産学特論	1・2後	1	○		1				
	作物生態学特論	1・2後	1	○		1				
	生産生態学特論	1・2後	1	○			1			
	循環型農業生産学特論	1・2後	1	○			1			
	果樹園芸学特論	1・2前	1	○			1			
	果樹生産学特論	1・2前	1	○			1			
	動物遺伝育種学特論	1・2前	2	○		1				
	生物科学演習Ⅰ	1前・後	2		○	9	9	1		
	生物科学演習Ⅱ	2前・後	2		○	9	9	1		
	環境地盤学特論	1・2前	1	○		1				
	環境分析化学特論	1・2前	1	○			1			
	環境情報工学特論	1・2前	1	○			1			
	施設農業生産学特論	1・2前	1	○		1				
	生産情報処理学特論	1・2前	1	○			1			
	先端情報技術学特論	1・2前	1	○			1			
	生産エンジニアリング特論	1・2後	1	○			1			
	農地環境工学特論	1・2前	1	○		1				
	先端環境分析化学特論	1・2前	1	○			1			
	水資源計画学特論	1・2前	1	○			1			
	分光統計解析学特論	1・2前	1	○		1				
	土壌物理学特論	1・2後	1	○		1				
	専門科目	水環境工学特論	1・2後	1	○			1		
		農地農水計画学特論	1・2後	1	○			1		
		生産地盤工学特論	1・2後	1	○			1		
		浅海環境工学特論	1・2後	1	○			1		
		先端地水学特論	1・2後	1	○		1			
		利水解析学特論	1・2後	1	○			1		
		農用先端機械学特論	1・2後	1	○			1		
		応用水利学特論	1・2後	1	○			1		
		土質工学特論	1・2後	1	○			1		
干潟生態環境学特論		1・2後	1	○			1			
農業気象学特論		1・2前	1	○					兼1	
食資源環境科学特別演習Ⅰ		1前	1		○	3	7			
食資源環境科学特別演習Ⅱ		1後	1		○	3	7			
食資源環境科学特別演習Ⅲ		2前	1		○	3	7			
食資源環境科学特別演習Ⅳ		2後	1		○	3	7			
生化学特論		1・2前	1	○					兼1	
タンパク質科学特論		1・2前	1	○					兼1	
微生物遺伝学特論		1・2前	1	○		1				
真核微生物学特論		1・2前	1	○		1				
応用微生物学特論		1・2前	1	○		1				
微生物学特論		1・2前	1	○		1				
生物有機化学特論		1・2前	1	○			1			
分子生物学特論		1・2前	1	○			1			

専 門 科 目	バイオセンシング特論	1・2前	1		○		1						
	バイオ材料特論	1・2前	1		○		1						
	分子細胞生物学特論	1・2前	1		○							兼1	
	細胞情報学特論	1・2前	1		○							兼1	
	食品生化学特論	1・2後	1		○				1				
	食糧流通貯蔵学特論	1・2後	1		○				1				
	食品科学工学特論	1・2後	1		○		1						
	バイオマス利用特論	1・2後	1		○		1						
	海洋資源化学特論	1・2後	1		○		1						
	グリコバイオロジー特論	1・2後	1		○		1						
	バイオメンブレン機能特論	1・2後	1		○							兼1	
	食糧安全学特論	1・2後	1		○							兼1	
	分子栄養学特論	1・2後	1		○		1						
	脂質生化学特論	1・2後	1		○		1						
	生命機能科学特別演習Ⅰ	1前・後	2			○	6	2				兼6	
	生命機能科学特別演習Ⅱ	2前・後	2			○	6	2				兼6	
	農業経済学特論	1・2前	1		○				1				
	農業ビジネスマネジメント特論	1・2前	1		○				1				
	アジア比較農業特論	1・2前	1		○				1				
	食料市場流通特論	1・2後	1		○							兼1	
	国際・地域協同組合特論	1・2前	1		○							兼1	
	地域農業オーガニゼーション特論	1・2前	1		○							兼1	
	比較農政学特論	1・2後	1		○							兼1	
	農村社会学特論	1・2後	1		○				1				
	人間生態学特論	1・2後	1		○			1					
	国際環境マネジメント特論	1・2前	1		○		1	1					
	地域資源マネジメント特論	1・2前	1		○		1						
	農村地理学特論	1・2前	1		○		1						
	ルーラル・デベロップメント特論	1・2前	1		○				1				
	生態人類学特論	1・2後	1		○				1				
	アジア地誌特論	1・2前	1		○				1				
	国際・地域マネジメント演習Ⅰ	1前	1			○	2	3					
	国際・地域マネジメント演習Ⅱ	1後	1			○	2	3					
	国際・地域マネジメント演習Ⅲ	2前	1			○	2	3					
	国際・地域マネジメント演習Ⅳ	2後	1			○	2	3					
	特別研究Ⅰ	1前	8		○		2	3					
	特別研究Ⅱ	1後	8		○		2	3					
	特別研究Ⅲ	2前	10		○		2	3					
	特別研究Ⅳ	2後	10		○		2	3					
	小計 (115科目)	—	36	116		—	17	21	1			兼6	—
	合計 (144科目)	—	45	141		—	17	21	1			兼128	—
	学位又は称号	修士 (農学)		学位又は学科の分野		農学関係							

教育課程等の概要

(農学研究科 生物資源科学専攻 生物科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス 共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—		3	4		—								兼11	—
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論		2			○			4						兼38	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		4						兼55	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前		1		○									兼8	オムニバス
	医学・看護学概論	1前		1		○									兼6	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後		1		○									兼1	
	知能情報工学概論	1後		1		○									兼1	
	材料化学特論	1後		1		○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	都市工学通論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前		1		○									兼6	オムニバス
	人体構造実習	1・2通		1				○							兼6	オムニバス 共同
	看護理論	1前		1		○									兼4	オムニバス
	生物科学特論	1後		1		○			4							オムニバス
	生命機能科学特論	1後		1		○			4	1					兼1	オムニバス
食資源環境科学特論	1後		1		○			2	6						オムニバス	
国際・地域マネジメント特論	1後		1		○			2	3						オムニバス	
小計(22科目)	—		7	20		—			14	10				兼113	—	
	熱帯農業資源学特論	1・2前		1		○			1							
	熱帯資源植物利用学特論	1・2前		1		○			1							
	熱帯作物改良学特論	1・2後		1		○				1						
	熱帯作物生理学特論	1・2後		1		○				1						
	動物ゲノム情報学特論	1・2後		1		○			1							
	動物発生学特論	1・2後		1		○				1						
	動物繁殖生理学特論	1・2後		1		○				1						
	蔬菜花卉園芸学特論	1・2後		1		○			1							
	園芸植物資源開発学特論	1・2後		1		○			1							
	花卉園芸学特論	1・2前		1		○				1						
	植物ゲノム育種学特論	1・2前		1		○			1							
	植物分子遺伝学特論	1・2前		1		○			1							
植物ゲノム工学特論	1・2後		1		○					1						

専門科目	植物ゲノム情報科学特論	1・2後	1		○				1						
	植物ウイルス病学特論	1・2後	1		○			1							
	植物ウイルス学特論	1・2後	1		○			1							
	線虫学特論	1・2前	1		○				1						
	先端線虫科学特論	1・2前	1		○				1						
	動物行動生態学特論	1・2後	1		○			1							
	動物行動学特論	1・2後	1		○			1							
	家畜行動学特論	1・2後	1		○				1						
	家畜管理学特論	1・2後	1		○				1						
	作物生産学特論	1・2後	1		○			1							
	作物生態学特論	1・2後	1		○			1							
	生産生態学特論	1・2後	1		○				1						
	循環型農業生産学特論	1・2後	1		○				1						
	果樹園芸学特論	1・2前	1		○				1						
	果樹生産学特論	1・2前	1		○				1						
	動物遺伝育种学特論	1・2前	2		○			1							
	施設農業生産学特論	1・2前	1		○			1							
	農地環境工学特論	1・2前	1		○			1							
	農地農水計画学特論	1・2後	1		○				1						
	農用先端機械学特論	1・2後	1		○				1						
	生物科学演習Ⅰ	1前・後	2			○		9	9	1					
	生物科学演習Ⅱ	2前・後	2			○		9	9	1					
	特別研究Ⅰ	1前	8			○		9	9	1					
	特別研究Ⅱ	1後	8			○		9	9	1					
	特別研究Ⅲ	2前	10			○		9	9	1					
	特別研究Ⅳ	2後	10			○		9	9	1					
	小計（39科目）	—	40	34		—		11	12	1				—	
	合計（68科目）	—	50	58		—		17	20	1				兼119	—
	学位又は称号	修士（農学）		学位又は学科の分野		農学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

(農学研究科 生物資源科学専攻 食資源環境科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院 教養教育 プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4 オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2 オムニバス 共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1
	小計(7科目)	—	3	4		—									兼11
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	1前	2			○			4						兼12 ※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		4						兼15 ※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1
	理工学概論	1前		1		○									兼8 オムニバス
	医学・看護学概論	1前		1		○									兼6 オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1 集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1 集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1
	数学概論	1後		1		○									兼8 オムニバス
	物理学概論	1後		1		○									兼1
	知能情報工学概論	1後		1		○									兼1
	材料化学特論	1後		1		○									兼2 オムニバス
	機械工学概論	1後		1		○									兼4 オムニバス
	電気電子工学概論	1後		1		○									兼8 オムニバス
	都市工学通論	1後		1		○									兼4 オムニバス
	人体構造機能学概論	1前		1		○									兼6 オムニバス
	人体構造実習	1・2通		1				○							兼6 オムニバス 共同
	看護理論	1前		1		○									兼4 オムニバス
	生物科学特論	1後		1		○			4						オムニバス
	生命機能科学特論	1後		1		○			4	1					兼1 オムニバス
	食資源環境科学特論	1後	1			○			2	6					オムニバス
国際・地域マネジメント特論	1後		1		○			2	3					オムニバス	
小計(22科目)	—	7	20		—			14	10					兼113	—
	環境地盤学特論	1・2前		1		○			1						
	環境分析化学特論	1・2前		1		○				1					
	環境情報工学特論	1・2前		1		○				1					
	生産情報処理学特論	1・2前		1		○				1					
	先端情報技術学特論	1・2前		1		○				1					
	生産エンジニアリング特論	1・2後		1		○				1					
	先端環境分析化学特論	1・2前		1		○				1					
	水資源計画学特論	1・2前		1		○				1					
	分光統計解析学特論	1・2前		1		○			1						
	土壌物理学特論	1・2後		1		○			1						
	水環境工学特論	1・2後		1		○				1					
	生産地盤工学特論	1・2後		1		○				1					
	浅海環境工学特論	1・2後		1		○				1					

専 門 科 目	先端地水学特論	1・2後	1		○		1						
	利水解析学特論	1・2後	1		○			1					
	応用水利学特論	1・2後	1		○			1					
	土質工学特論	1・2後	1		○			1					
	干潟生態環境学特論	1・2後	1		○			1					
	植物環境応答学特論	1・2後	1		○		1						
	応用植物生理学特論	1・2後	1		○		1						
	植物系統分類学特論	1・2前	1		○			1					
	植物病原学特論	1・2前	1		○			1					
	植物感染病学特論	1・2前	1		○			1					
	昆虫分子生物学特論	1・2後	1		○		1						
	先端昆虫分子生物学特論	1・2後	1		○		1						
	システム生態学特論	1・2後	1		○			1					
	進化生態学特論	1・2後	1		○			1					
	動物資源開発学特論	1・2後	1		○		1						
	農業気象学特論	1・2前	1		○							兼1	
	食資源環境科学特別演習Ⅰ	1前	1			○	3	7					
	食資源環境科学特別演習Ⅱ	1後	1			○	3	7					
	食資源環境科学特別演習Ⅲ	2前	1			○	3	7					
	食資源環境科学特別演習Ⅳ	2後	1			○	3	7					
	特別研究Ⅰ	1前	8		○		3	7					
	特別研究Ⅱ	1後	8		○		3	7					
	特別研究Ⅲ	2前	10		○		3	7					
特別研究Ⅳ	2後	10		○		3	7						
小計（37科目）	—	40	29		—	6	10				兼1	—	
合計（66科目）	—	50	53		—	15	14				兼120	—	
学位又は称号	修士（農学）		学位又は学科の分野		農学関係								

教育課程等の概要

(農学研究科 生物資源科学専攻 生命機能科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院 教養教育 プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4 オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2 オムニバス 共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1
	小計(7科目)	—	3	4		—									兼11
自然科学系 研究科共通 科目	創成科学融合特論		2			○			4						兼12 ※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		4						兼15 ※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1
	理工学概論	1前		1		○									兼8 オムニバス
	医学・看護学概論	1前		1		○									兼6 オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1 集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1 集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1
	数学概論	1後		1		○									兼8 オムニバス
	物理学概論	1後		1		○									兼1
	知能情報工学概論	1後		1		○									兼1
	材料化学特論	1後		1		○									兼2 オムニバス
	機械工学概論	1後		1		○									兼4 オムニバス
	電気電子工学概論	1後		1		○									兼8 オムニバス
	都市工学通論	1後		1		○									兼4 オムニバス
	人体構造機能学概論	1前		1		○									兼6 オムニバス
	人体構造実習	1・2通		1				○							兼6 オムニバス 共同
	看護理論	1前		1		○									兼4 オムニバス
	生物科学特論	1後		1		○			4						オムニバス
	生命機能科学特論	1後	1			○			4	1					兼1 オムニバス
	食資源環境科学特論	1後		1		○			2	6					オムニバス
国際・地域マネジメント特論	1後		1		○			2	3					オムニバス	
小計(22科目)	—	7	20		—			14	10					兼113	—
専門科目	生化学特論	1・2前		1		○									兼1
	タンパク質科学特論	1・2前		1		○									兼1
	微生物遺伝学特論	1・2前		1		○			1						
	真核微生物学特論	1・2前		1		○			1						
	応用微生物学特論	1・2前		1		○			1						
	微生物学特論	1・2前		1		○			1						
	生物有機化学特論	1・2前		1		○				1					
	分子生物学特論	1・2前		1		○				1					
	バイオセンシング特論	1・2前		1		○			1						
	バイオ材料特論	1・2前		1		○			1						
	分子細胞生物学特論	1・2前		1		○									兼1
	細胞情報学特論	1・2前		1		○									兼1
	食品生化学特論	1・2後		1		○				1					
	食糧流通貯蔵学特論	1・2後		1		○				1					
食品科学工学特論	1・2後		1		○			1							

バイオマス利用特論	1・2後	1		○		1							
海洋資源化学特論	1・2後	1		○		1							
グリコバイオロジー特論	1・2後	1		○		1							
バイオメンブレン機能特論	1・2後	1		○								兼1	
食糧安全学特論	1・2後	1		○								兼1	
分子栄養学特論	1・2後	1		○		1							
脂質生化学特論	1・2後	1		○		1							
生命機能科学特別演習Ⅰ	1前・後	2			○	6	2					兼6	
生命機能科学特別演習Ⅱ	2前・後	2			○	6	2					兼6	
特別研究Ⅰ	1前	8		○		6	2						
特別研究Ⅱ	1後	8		○		6	2						
特別研究Ⅲ	2前	10		○		6	2						
特別研究Ⅳ	2後	10		○		6	2						
小計（28科目）	—	40	22		—	6	2					兼3	—
合計（57科目）	—	50	46		—	16	11					兼122	—
学位又は称号	修士（農学）		学位又は学科の分野			農学関係							

教育課程等の概要

(農学研究科 生物資源科学専攻 国際・地域マネジメントコース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院教養教育プログラム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス 共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—		3	4		—								兼11	—
自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論		2			○			4						兼12	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		4						兼15	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前		1		○									兼7	オムニバス
	医学・看護学概論	1前		1		○									兼8	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後		1		○									兼1	
	知能情報工学概論	1後		1		○									兼1	
	材料化学特論	1後		1		○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	都市工学通論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前		1		○									兼6	オムニバス
	人体構造実習	1・2通		1				○							兼6	オムニバス 共同
	看護理論	1前		1											兼4	オムニバス
	生物科学特論	1後		1		○			4							オムニバス
	生命機能科学特論	1後		1		○			4	1					兼1	オムニバス
	食資源環境科学特論	1後		1		○			2	6						オムニバス
国際・地域マネジメント特論	1後	1			○			2	3						オムニバス	
小計(22科目)	—		7	20		—		14	10					兼113	—	
専門科目	農業経済学特論	1・2前		1		○				1						
	農業ビジネスマネジメント特論	1・2前		1		○				1						
	アジア比較農業特論	1・2前		1		○				1						
	食料市場流通特論	1・2後		1		○									兼1	
	国際・地域協同組合特論	1・2前		1		○									兼1	
	地域農業オーガニゼーション特論	1・2前		1		○									兼1	
	比較農政学特論	1・2後		1		○									兼1	
	農村社会学特論	1・2後		1		○				1						
	人間生態学特論	1・2後		1		○			1							
	国際環境マネジメント特論	1・2前		1		○			1	1						
	地域資源マネジメント特論	1・2前		1		○			1							
	農村地理学特論	1・2前		1		○			1							
	ルーラル・デベロップメント特論	1・2前		1		○				1						
	生態人類学特論	1・2後		1		○				1						
アジア地誌特論	1・2前		1		○				1							

国際・地域マネジメント演習Ⅰ	1前	1			○	2	3				
国際・地域マネジメント演習Ⅱ	1後	1			○	2	3				
国際・地域マネジメント演習Ⅲ	2前	1			○	2	3				
国際・地域マネジメント演習Ⅳ	2後	1			○	2	3				
特別研究Ⅰ	1前	8		○		2	3				
特別研究Ⅱ	1後	8		○		2	3				
特別研究Ⅲ	2前	10		○		2	3				
特別研究Ⅳ	2後	10		○		2	3				
小計（23科目）	—	40	15		—	2	3			兼2	—
合計（52科目）	—	50	39		—	14	10			兼121	—
学位又は称号	修士（農学）		学位又は学科の分野			農学関係					

I 設置の趣旨・必要性

1. 趣旨

経済と社会がグローバルに変化している現代において、ローカルな地域でもグローバルな変化に対応して産業や生活を変えなければ衰退してしまう時代になった。地域を活性化するためには既存産業の振興はもとより新産業の創生が不可欠であり、そのために持続発展的な科学技術イノベーションが求められている。農学研究科においては、農林水産業を取り巻く上述の背景に加え、地球温暖化による気象の激変に耐える農林水産業や資源循環型社会の構築を担える人材育成を目指して、平成22年度に2専攻（生物生産学専攻・応用生物学専攻）を改組し、現行の1専攻（生物資源科学専攻）5コース（応用生物学コース、生物環境保全学コース、資源循環生産学コース、地域社会開発学コース、生命機能科学コース）を設置した。

その後、本研究科では、農林水産業における地域創生の核となる‘知の拠点’として、教育・研究の充実と農業技術経営管理者育成などの高度人材育成に取り組んでいる。その中で、本研究科の母体となる佐賀大学農学部では、ミッションの再定義により、学部の特徴・強みや社会的な役割を明確にし、教育組織及び分野を時代の変化に対応することができるように、平成31年度に現行の3学科（応用生物科学科・生物環境科学科・生命機能科学科）を1学科（生物資源科学科）4コース（生物科学コース・食資源環境科学コース・生命機能科学コース・国際・地域マネジメントコース）に改組する。本研究科においては、学部と同時に、現行の5コースを生物科学コース、食資源環境科学コース、生命機能科学コース、国際・地域マネジメントコースの4コースに再編することで、学部・大学院の一貫教育の充実ならびに各コースの専門性を担保する（図1）。コースの設定に当たっては、現行の5コースに分散している多様な研究分野をその基礎とする学門領域により、生物学系、物理学系、化学系、経済・社会学系の4コースに再編し、各コースの専門性を高めると共に教育研究内容の充実を図った。

生物科学コースにおいては、生物生産の基礎と応用、先端農学を習得し、農学研究と農業指導のリーダーとなる高度人材を養成する。食資源環境科学コースにおいては、農林水産業の生産基盤整備と環境保全、食資源に関する知識を習得し、農水産業や環境に関連する技術者・研究者となる高度人材を養成する。生命機能科学コースでは、生命化学や食料科学を基礎として食品や医薬品の関連産業で技術者・研究者となる高度人材を養成する。国際・地域マネジメントコースでは、国際的な農業・農村振興の視点から国内外の地域社会と連携した実践教育により、農業や地域産業の育成に関わる高度人材を養成する。

一方、近年、農学分野と他分野の境界領域において新技術が生まれ発展しており、特に、植物工場、農作業用ロボット、IoTやAIを用いた農業生産・管理、園芸療法、機能性食品など先端農業分野においては、環境制御、情報、データサイエンス、知財、機械、医療、福祉などの幅広い高度な知識と技術が要求されている。そのために、本研究科には、農学の専門分野のみならず工学や医科学の分野までを理解し、農・工・医の境界領域で活躍できる高度人材の養成が求められており、現行の本研究科のカリキュラムでは十分な対応ができなくなっている。そこで、本研究科においては、この改組を機に本学の他研究科（先進健康科学研究科及び理工学研究科）の専門的基礎的科目や異分野融合科目を研究科間共通教育科目として配置した教育カリキュラムを採用し、工学分野、医科学分野への理解を深めさせ、農林水産業の高度化を推進し、食料、環境、健康に関する課題に対応でき、農学を基盤とした地域振興に貢献する実践力のある高度な人材を育成する。さらに、佐賀大学大学院で開講する大学院の教養教育プログラムにより、専門以外の知識や技術を実践授業科目として身に付けて、事象を多面的にとらえることができ、ひいては、通常学ぶ専門的知識と技術に異分野の知識及び考え（以下「複眼的視点」という。）を取り入れ、[地域社会の課題発見→解決策企画→実施→結果解析→改善策の実施]サイクルの実施（以下「科学的思考」という。）により科学技術イノベーションを起こせる人材が養成できる。

以上のように、本研究科は、この改組によって、組織体制において1コースを減らすものの、新設コースの専門性が高められており、教育カリキュラムを大幅に改善することで、時代の要請に対応した新たな研究科として生まれ変わる。

入学者選抜試験に関しては、4コースごとに実施して、それぞれのコースの専門性に適した学生を選抜する。

2. 本学に設置する必要性

佐賀大学は、食・生命・環境・エネルギー・医療を基盤とした‘知の拠点’として、学長のリーダーシップのもと教育研究を推進している。佐賀大学が立地する佐賀県は、農業、有明海水産業、醸造業、製菓業、窯業などが地場産業として長い歴史を持つ。特に、農水産業は、佐賀地域の基盤となっており、地域の自然環境の保全と防災・減災、水資源涵養、生活（福祉、健康）地域づくりを支えている。農学研究科には、このような1次産業を振興し、新たな地域創生を担う人材を育成する使命があり、また、1次産業から産生される高品質製品の国内外におけるビジネス展開を中核となって推進する人材の育成が喫緊の課題となっている。さらに、本研究科では、佐賀市と協働した藻類バイオマス産業の創生や、唐津市と協働した地域生物資源の利用による化粧品産業の創生など、新たな地場産業の育成に取り組んでいる。このように本研究科は、農学の学術領域における発展に期待されるだけでなく、新たな産業やビジネスの開発を通じた地域貢献が望まれている。これらの課題に取り組む人材には、従来の農学の狭い専門に偏ることなく、他分野を理解するための複眼的視点を持つことが求められ、本研究科においても、理工学、健康科学を網羅する大学院教育プログラムを実施し、理工系人材養成戦略の方向性に従い、社会的な役割である「さが地域創生」のために求められる高度な人材を供給する必要がある。

博士前期課程・修士課程 改組前後の組織対応図

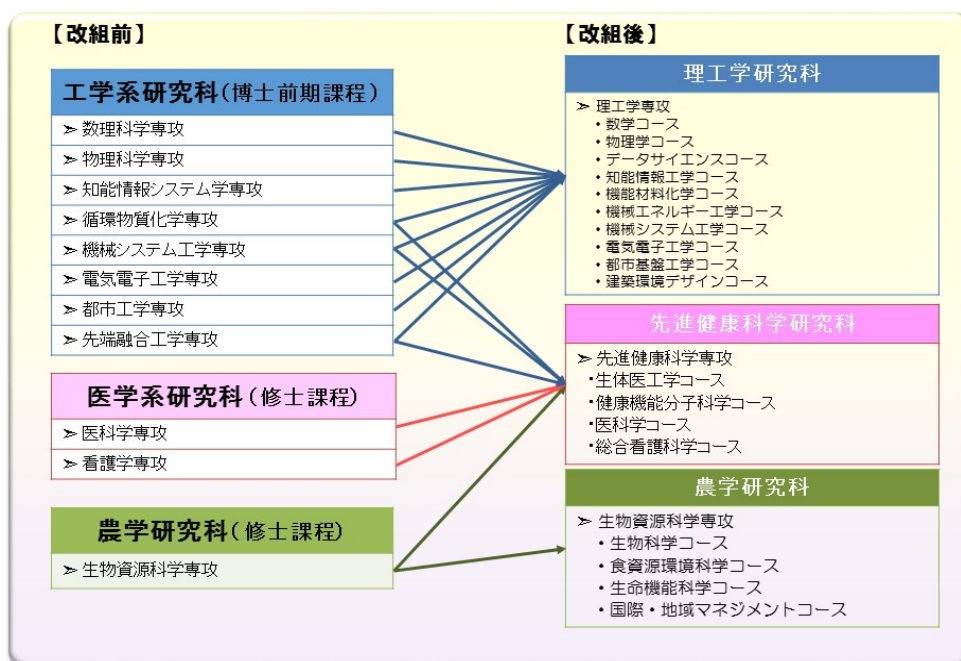


図1 改組前・後の組織対応図

II 教育課程編成の考え方・特色

本研究科では、主たる専門分野における知識を身につけるとともに、大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の履修により、多様化及び高度化する理工学系、医学系の異分野との融合を図り、複眼的視点から科学的な思考ができる専門職業人材を養成することを教育目標とする。

なお、近年、農学分野は、他分野との境界域を超えたボーダレスに拡大発展しており、医食同源、機能性野菜、IT農業、植物工場など、農学分野と他分野の事項を融合させたキーワードが多数見られるようになった。今や農学分野の高度化には、医学ならびに工学の知識と手法は不可欠となっている。そのため、「自然科学系研究科共通科目」の導入が、農学研究科での人材育成に果たす役割は大きい。

1. 三つの方針

(1) 学位授与の方針

本研究科では、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。所定の単位を修得するとともに、修士論文を提出した者に対して修了判定を行い、農学研究科教務委員会及び教授会の議を経て、学長が修了を認定し、学位を授与する。

- ① 所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において、先端の高度な専門知識を身に付けている。
- ② 研究活動を通して実践的な知識を身に付けるとともに、科学的思考力と洞察力を養い、専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身に付けている。
- ③ 専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身に付けている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

本研究科において学位授与の方針を具現化するため、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

- ① 学位授与の方針①を達成するために、「専門科目」を配置する。
- ② 学位授与の方針②を達成するために、「特別研究」を配置する。
- ③ 学位授与の方針③を達成するために、「大学院教養教育プログラム」及び「自然科学系研究科共通科目」を配置する。
- ④ 学位授与の方針①②③を達成するために、修士論文の審査及び最終試験を実施する。

1) 教育の実施体制

- ① 全ての授業科目で開講前にオンラインシラバスを作成する。
- ② 閉講後には学生による授業評価アンケートに基づく教育改善を実施する。

2) 教育・指導の方法

- ① 各授業科目は、シラバスに明示された講義概要、授業計画に従って実施する。
- ② 各学生に指導教員ならびに副指導教員を配置し、履修指導や研究支援、修士論文執筆指導を行う。

3) 成績の評価

- ① 成績評価は、シラバスに明示された基準に従って厳格に行う。
- ② 修士論文審査及び最終試験は、主査1名、副査2名以上によって実施する。

(3) 入学者受け入れの方針

本研究科における各教育科目を修得するために必要な素質を元に、次の学生を求める。

- ① 専門分野に関する基礎学力及び基礎知識を持つ人
- ② 専門分野に関する課題発見・解決能力を養うために必要な思考力・創造力・判断力を持つ人
- ③ 研究者倫理や連携研究に対し積極的に取り組める人
- ④ 異分野にも関心があり、社会貢献や国際交流にも意欲的な人

2. 教育プログラム及び科目の構成

本研究科の教育プログラムは、下記の科目群から構成される。

(1) 大学院教養教育プログラム

大学院教養教育プログラムは、大学のすべての研究科が連携し大学院教養教育を意図して開設する科目群である。授業内容は、科学技術者として必要な倫理を学ぶ「研究・職業倫理特論」、情報化社会で必須となるセキュリティを学ぶ「情報セキュリティ特論」、IoT、AIやビッグデータの利活用について学ぶ「データサイエンス特論」を必修科目とし、グローバル社会において必要な英語及び文化、科学技術者として必要な倫理及び人権、企業人として必要なキャリア教育等を学ぶ選択科目からなる。これらの科目は研究科共通科目の支援科目と位置付けている。

(2) 自然科学系研究科共通科目

理工学研究科、先進健康科学研究科、農学研究科との間で連携して開設する科目群で、企業人及び研究者として分野の枠を超えた視点及び科学的思考を養うことを目的とする。授業科目は、必修科目である「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」、「知的財産特論」及び選択科目である「創成科学インターンシップS」、「創成科学インターンシップL」と各専攻の専門内容に関する科目群から成る。「創成科学融合特論」および「創成科学PBL特論」は、理工学研究科、先進融合科学研究科、農学研究科の3研究科が協力して実施する。これらの科目では、各研究科からの様々な専門分野の教員が担当し、受講する学生も、各研究科からの混成でクラスやグループを組む。創成科学融合特論では、学生のプレゼンテーションやレポートを多様な観点から評価する。創成科学PBL特論では、教員のアドバイスの下で学生が主体的に決定したPBLの課題に取り組むことにより、学生の視野を広げる。

「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」、「知的財産特論」、「創成科学インターンシップS」、「創成科学インターンシップL」および各研究科の専門内容に関する科目群の概要を次に示す。

・「創成科学融合特論」では学生グループでのアクティブ・ラーニングを行う。学生が自身の研究内容のプレゼンテーションを行い、他の学生はそのプレゼンテーションから研究概要をまとめる。これにより発表学生は自身の研究理解が深まり、また異分野の学生とのディスカッションによる新たな展開も期待される。一方、受講生は異なる分野のプレゼンテーションを聴講し、レポートとしてまとめることにより異分野の知識や考え方を理解し自分の研究に取り込むことで、複眼的視点から新しい展開が期待される(図2)。

・「創成科学PBL特論」では5名で1グループを形成し、このグループ内で実験、解析、演習、報告書作成などを実施する。3つの研究テーマに対して教員のサポートの元で研究を実施し、研究結果を解析・評価し、レポートとしてまとめ担当教員に提出する。この授業により、創造性、総合力、実践力、自主性を養う。また、異なる学問分野の高度な知識・技術が修得でき、科学的思考力も養うことができる(図3)。

・「知的財産特論」では、企業人として必須である知的財産(特許、実用新案、意匠、商標など)に係る知的財産制度の概要、特許明細書の書き方、登録の方法、権利の解釈、権利の活用法などについて講義及び演習で理解する。

・「創成科学インターンシップS」、「創成科学インターンシップL」では、海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップSでは、短期(7.5時間×5日以上10日未満)の就業体験や研究活動を通して、自らの実務における課題を見出す能力を養わせる。創成科学インターンシップLでは、長期(7.5時間×10日以上)の就業体験や海外の大学での研究活動の中で自らの実務における課題とその解決に向けて取り組む能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。

・「理工学概論」、「医学・看護学概論」、「理工学特別講義」、「数学概論」、「物理学概論」、「知能情報工学概論」、「材料化学特論」、「機械工学特論」、「電気電子工学特論」、「都市工学通論」、「人体構造機能学概論」、「人体構造演習」、「看護理論」、「生物科学特論」、「生命機能科学特論」、「食資源環境科学特論」、「国際・地域マネジメント特論」では、理工学、医学、看護学の概論およびそれぞれの専門分野の概論を研究科の学生に講義し、分野の枠を超えた視点を身に着けさせる。これらの選択科目から2単位以上の修得を課しており、その選択科目は、指導教員が学生の研究内容に応じて指導する。

創成科学融合特論

授業概要

- 3研究科混成の学生(50名程度)でクラス分け
- 各学生は自分の研究に関するプレゼンテーション(4名/1コマ)およびディスカッションを実施
- 聴講学生はディスカッションし、プレゼンテーション内容に自己調査を加え、レポートを提出

ねらい

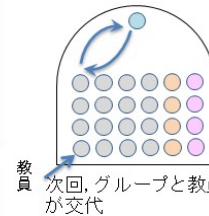
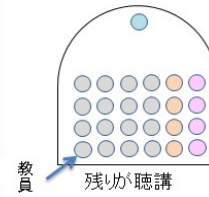
- プレゼンテーション学生は、異分野の学生に説明するための調査、水準の設定、発表内容の検討を通じて「教え方」を修得、かつ、自身の専門基礎を再認識
- 聴講学生は、プレゼンテーションのローテーションにより複数の異分野についての知識を修得し、分野の枠を越えた視点を涵養

運用と評価

- 教員は学生の作成したプレゼンテーション資料と内容をルーブリックで評価(評価A)
- 教員は聴講学生が作成したレポート(異なる分野の発表を3件選択)をルーブリックで評価(評価B)
- 評価AとBを総合して成績評価

第1回: 科目の説明, クラス分け

1名: 20分の発表



計13回の発表会

第15回レポートの作成

図2 創成科学融合特論の説明

創成科学PBL特論

授業概要

- 3研究科混成の5名でグループを構成しPBLを実施
- 実施時期: 1年前学期夏休み集中を基本
- PBLの課題: ゼミ参加, 実験見学や補助, 結果の整理や解析等を実施

ねらい

- 異なる分野の課題の解決により, 科学的思考力を養い, 分野の枠を越えた視点を身に付ける
- 科学的思考: 問題を把握し, その原因を調べる観察・実験を計画・実施し, 観察・実験の結果などを考察し, 科学概念を形成するとともに, 既知の原理・法則などを基に, 事象を論理的に説明すること

運用と評価

- PBLで実施する課題は教員のアドバイスの下で学生が主体的に決定
- クループ5名が協力して合計3つの課題を実施
- 学生は課題毎にPBL報告書作成とプレゼンテーションを実施
- 教員は, 研究活動, PBL報告書, プレゼンテーションに対してルーブリックで評価

創成科学PBL特論実施イメージ

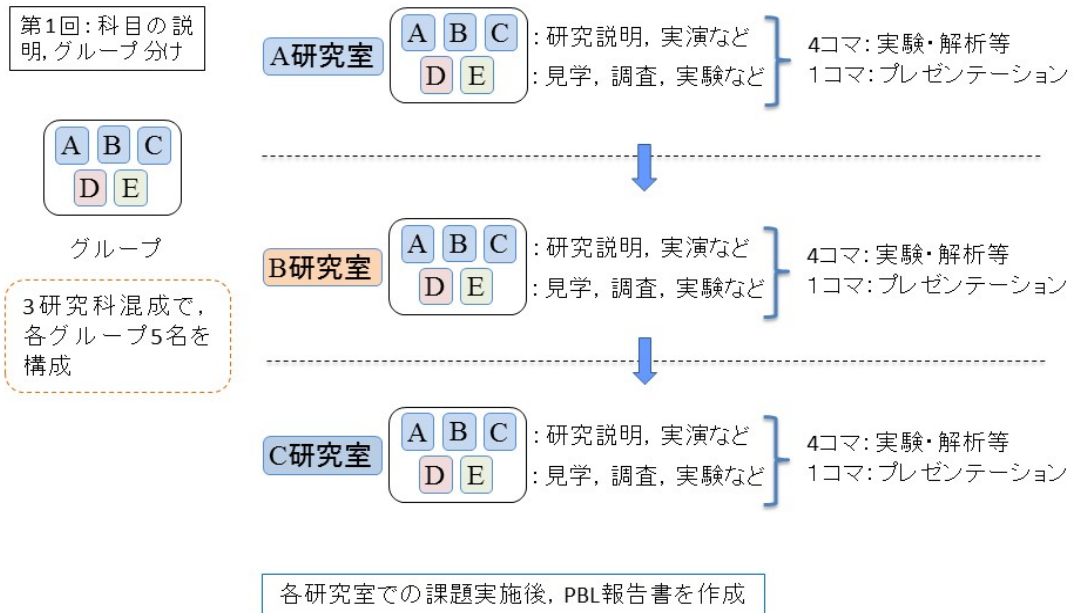


図3 創成科学PBL特論の説明

(3) 専門科目

各コースにおける専門分野として開設する科目である。

特別研究Ⅰ～Ⅳは、専門分野の先端的研究課題を設定し、次の内容に従い段階的に実践教育する。

特別研究Ⅰ：専門分野の基礎的な知識・技術を修得する。

特別研究Ⅱ：さまざまな基礎的な知識・技術を融合して研究を計画・遂行する能力を養う。

特別研究Ⅲ：複眼的視点を交えて基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して研究テーマの解決に向け方策を組み立て、解析する能力を養う。

特別研究Ⅳ：特別研究Ⅲの解析結果を考察し、かつ説明する能力及び既存の知識並びに技術を進展させうる能力を養う。

(4) カリキュラムの構成

これまでの教育科目及び科目群の位置づけを図4に示す。「大学院教養教育プログラム」を基礎的な学習レベルとし、次に「自然科学系研究科共通科目」の各研究科の専門内容に関する科目群で分野の枠を超えた視点を身に付ける。特に、「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」は“分野の枠を超えた視点”と“科学的思考力”を涵養するもので、プログラムの中核を成すものである。「特別研究Ⅰ、Ⅱ」で専門の基礎を学び、「特別研究Ⅲ、Ⅳ」が「創成科学融合特論」及び「創成科学PBL特論」で学んだことを活用し、「専門科目」により各コースの専門的な内容を修得する。

創成科学融合特論、創成科学PBL特論、自然科学系研究科共通科目での他分野の内容を含む科目により、分野の枠を超えた知識および考え方を評価する。また、創成科学融合特論、創成科学PBL特論、修士論文等において、学生の自主性・主体的に取り組む姿勢、自分の考え方をまとめ、文章で表現できる能力、考えを適切に伝えるためのプレゼンテーション能力、課題設定と課題解決の課程をルーブリックで評価する。

研究科のカリキュラム構成

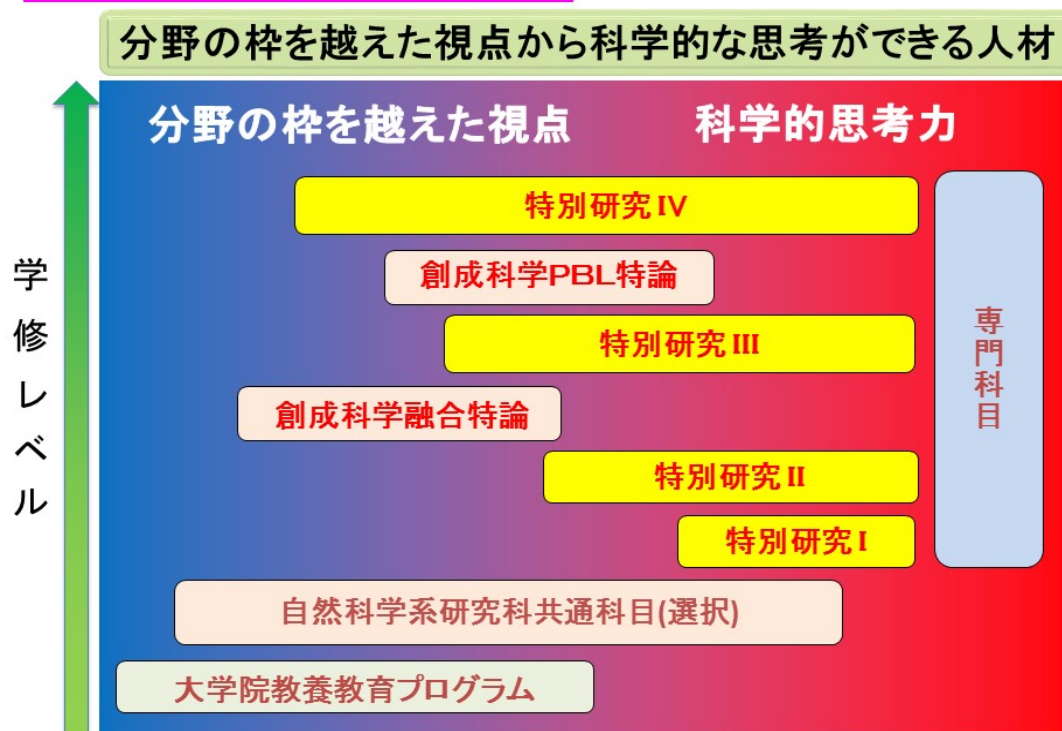


図4 カリキュラム構成

3. 教育上の工夫

(1) 先行履修認定制度

農学研究科進学予定者には大学院科目の先行履修を認めている。先行履修した学生が進学した場合、履修科目を修士単位として認定できるため時間的余裕が生じ、特別研究における更なる研究の推進や、専門科目や創成科学インターナシップ等の自然科学系研究科共通科目を数多く受講することができ、卓越した研究能力やより幅の広い視点を身に付けることができる。

(2) 教育の実施体制

研究科における共通体制を以下に示す。この体制を基本とし、各コースは独自のものを追加実施する。

- ① 研究科は、教育課程の編成・実施に関する課題分析及びその改善について検討し、研究科委員会で審議・決定し、これを実施する。
- ② 各学生に対し1年次より主指導教員1名、副指導教員2名以上を配置し、適切な指導が行われることを担保する。
- ③ 学期の初めと終わりに面談による履修指導を行い、その内容を主指導教員及び副指導教員がチェックし研究指導実施報告書として提出する。提出物を研究科長が点検し、問題がある場合には指導する。
- ④ カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現するコースナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。
- ⑤ ルーブリックを用いて、2年間にわたる研究活動を総括的に評価する。

(3) 研究の指導体制

研究科における研究指導は、学生の視野を広げるために主指導教員と副指導教員の複数指導体制とする。修士論文の課題研究に応じて、他コース、他研究科の教員が副指導となる。学期の初めと終わりに指導教員による面談での研究指導を行い、特別研究の中間発表はコースの全教員体制で実施し研究指導を行う。

(4) 学位の授与

修士論文の学位審査は3名以上の審査員によって行う。主査は、学生の所属するコースから選出し、副査は、修士論文の研究課題に応じて研究科内の他コースあるいは他研究科の教員を選出することができる。学位審査を希望する学生が申請した学位と称号について、学位審査会で最終試験と審査を実施した後、試験と審査の概要を研究科教授会に報告し、可否案を提案する。教授会はこの報告に基づき審議の上、学生が申請した学位と称号について可否を決定する。

【生物資源科学専攻の設置】

生物資源科学専攻では、生物資源の生産・加工に関する先進技術を教授し、農業の高度化や国際化を推進するとともに、農業を基盤とした地域創生に貢献できる深い専門性と幅広い視野を持った人材を養成する。

【生物科学コースの設置】

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、生物科学の領域であり、生物科学に関連する問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身に付けている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

生物科学コースにおいては、生物資源の基礎と生産に関する生物科学、及び生物資源の応用に関する先端農学に関する教育課程を編成する。

2) 教育・指導の方法

① 指導教員が、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導する。入学時に個別の履修計画及び研究指導計画を策定するなど、学生のニーズに則した学習及び研究指導を行う。

② 修士論文作成に必要な専門知識や技術を達成するために研究指導を行う。

③ 研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行う。また、講義による知識の学習と実験・実習をバランスよく組み合わせて、対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。

④ 学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。

3) 教育課程の特色

専門科目（必修）として、「生物科学演習Ⅰ」及び「生物科学演習Ⅱ」を配置し、専門科目（選択）として、「熱帯農業資源学特論」、「植物分子遺伝学特論」、「動物資源開発学特論」など、生物資源の開発と応用に関する専門科目を履修する。農学分野における作物学、育種学、園芸学等の知見だけでなく、ウイルス・糸状菌・線虫から昆虫・家畜に至るまでの遺伝資源の開発に関する専門性と先端知識を養い、生物科学に関連する産業、試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・ 農業関連産業のリーダー人材
- ・ 食品、医薬品業界を先導する新技術開発
- ・ 研究者、大学教員、専修教員
- ・ 農業試験場、農業改良普及員、上級公務員

【食資源環境科学コースの設置】

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、食資源環境科学の領域であり、食資源環境科学に関連する問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身に付けている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

生物生産を支える環境科学に関する生物環境保全学、及び生物の持続的生産を科学する資源循環生産学に関する教育課程を編成する。

2) 教育・指導の方法

① 指導教員が、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導する。入学時に個別の履修計画及び研究指導計画を策定するなど、学生のニーズに則した学習及び研究指導を行う。

② 修士論文作成に必要な専門知識や技術を達成するために研究指導を行う。

③ 研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行う。また、講義による知識の学習と実験・実習をバランスよく組み合わせて、対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。

④ 学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。

3) 教育課程の特色

専門科目（必修）として、「食資源環境科学特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を配置し、専門科目（選択）として「環境地盤学特論」、「環境分析化学特論」、「施設農業生産学特論」、「水資源計画学特論」、「農用先端機械学特論」など、食料生産基盤から環境科学に関する多様な専門科目を配置している。農学分野の中でも、特に、農業工学の領域において、水資源及び地盤環境等の生産基盤領域のみならず、バイオマス利活用、環境修復、IT活用に対応した専門性と先端知識を養い、農業生産および環境整備に関連する産業、試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・ 農業関連産業のリーダー人材
- ・ 食品、医薬品業界を先導する新技術開発
- ・ 研究者、大学教員、専修教員
- ・ 農業試験場、農業改良普及員、上級公務員

【生命機能科学コースの設置】

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、生命機能科学の領域であり、生命機能科学に関連する問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身に付けている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

生命機能の解析に関する生命化学、及び食料の生産、加工を科学する食糧科学に関する教育課程を編成する。

2) 教育・指導の方法

① 指導教員が、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導する。入学時に個別の履修計画及び研究指導計画を策定するなど、学生のニーズに則した学習及び研究指導を行う。

② 修士論文作成に必要な専門知識や技術を達成するために研究指導を行う。

研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行う。また、講義による知識の学習と実験・実習をバランスよく組み合わせ、対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。

③ 学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。

3) 教育課程の特色

専門科目（必修）として「生命機能科学特別演習I」及び「生命機能科学特別演習II」を配置し、専門科目（選択）として「生化学特論」、「応用微生物学特論」、「食品科学工学特論」、「食糧安全学特論」、「食品生化学特論」など、生命化学と食糧科学に関する多様な科目を配置している。農学の特に農芸化学の領域において、食品の安全や栄養化学、食品加工技術や微生物の応用等、食品の栄養健康機能のみならず、生物資源の化学的利用に関する専門性と先端知識を養い、食品や医薬品に関連する産業、試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・ 農業関連産業のリーダー人材
- ・ 食品、医薬品業界を先導する新技術開発
- ・ 研究者、大学教員、専修教員
- ・ 農業試験場、農業改良普及員、上級公務員

【国際・地域マネジメントコースの設置】

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、国際・地域マネジメントの領域であり、国際・地域マネジメントに関連する問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身に付けている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

地域産業の育成につながる農業経済や市場流通、また海外を含む多様な生活地域の持続的発展を学ぶ農村社会学、農村地理学等に関する教育課程を編成する。

2) 教育・指導の方法

① 指導教員が、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導する。入学時に個別の履修計画及び研究指導計画を策定するなど、学生のニーズに則した学習及び研究指導を行う。

② 修士論文作成に必要な専門知識や技術を達成するために研究指導を行う。

③ 研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行う。また、講義による知識の学習と実験・実習をバランスよく組み合わせ、対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。

④ 学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。

3) 教育課程の特色

専門科目（必修）として、「国際・地域マネジメント演習 I, II, III, IV」を配置し、専門科目（選択）として、「食料市場流通特論」、「農村社会学特論」、「農村地理学特論」、「生態人類学特論」、「国際・地域マネジメント特別講義（I）」、「国際・地域マネジメント特別講義（II）」など地域社会の基盤となるマネジメントに関する高度な専門性を教授する。また、「創成科学インターンシップ」や海外研修など、国際性と地域と連携した実践教育に重点を置く専門科目を履修することで、農業を始めとする地域産業、試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・ 農業関連産業のリーダー人材
- ・ 経営コンサルタント、農業協同組合、地元農業法人
- ・ NGO, NPO, 国際協力事業団
- ・ 地元農業経営

修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>大学院農学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目、及び専門科目の各条件を満たし、修得した単位の合計が60単位以上、かつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。</p> <p>大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。</p> <p>○大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。</p> <p>○自然科学系研究科共通科目から必修科目7単位を含めて8単位以上。</p> <p>各コースの修了要件は、以下の通りである。</p> <p>大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目の修得要件を越えた選択科目、及び所属コース以外で開講される授業科目を履修した場合、4単位を限度として各コースの専門選択科目の修了要件に含めることができる。</p> <p><生物科学コース></p> <p>○専門科目のうち「生物科学演習Ⅰ・Ⅱ」, 「特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必ず履修すること。</p> <p>○自然科学系研究科共通科目のうち、創成科学融合特論, 創成科学PBL特論, 知的財産特論, 及び生物科学特論を含む8単位以上履修すること。</p> <p>○専門科目のうち所属コースが指定する選択科目から8単位以上を履修すること。</p> <p><食資源環境科学コース></p> <p>○専門科目のうち「食資源環境科学特別演習Ⅰ～Ⅳ」, 「特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必ず履修すること。</p> <p>○自然科学系研究科共通科目のうち、創成科学融合特論, 創成科学PBL特論, 知的財産特論, 及び食資源環境科学特論を含む8単位以上履修すること。</p> <p>○専門科目のうち所属コースが指定する選択科目から8単位以上履修すること。</p> <p><生命機能科学コース></p> <p>○専門科目のうち「生命機能科学特別演習Ⅰ・Ⅱ」, 「特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必ず履修すること。</p> <p>○自然科学系研究科共通科目のうち、創成科学融合特論, 創成科学PBL特論, 知的財産特論, 及び生命機能科学特論を含む8単位以上履修すること。</p> <p>○専門科目のうち所属コースが指定する選択科目から8単位以上履修すること。</p> <p><国際・地域マネジメントコース></p> <p>○専門科目のうち「国際・地域マネジメント演習Ⅰ～Ⅳ」, 「特別研究Ⅰ～Ⅳ」を必ず履修すること。</p> <p>○自然科学系研究科共通科目のうち、創成科学融合特論, 創成科学PBL特論, 知的財産特論, 及び国際・地域マネジメント特論を含む8単位以上履修すること。</p> <p>○専門科目のうち所属コースが指定する選択科目から8単位以上履修すること。</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (農学研究科 生物資源科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○									兼4
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○									兼2
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	数値計算法特論	1・2前・後		4		○									兼3 集中
	産学連携特論	1・2後		2		○									兼1
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○									兼1 集中
	人権教育特論	1・2前		2		○									兼1
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○									兼1 集中
小計(8科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—
専攻共通科目	農学総合講義	1・2前	2			○			8	3					
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			8	3	0	0	0	—	—
基礎教育科目	応用生物科学特論	1・2前		1		○			1	3					
	生物環境保全学特論	1・2前		1		○			2	4					兼1
	作物生産学特論	1・2後		1		○			1						
	生命機能科学特論	1・2前		1		○			8	3					
	農業経済学特論	1・2前		1		○			1						
	小計(5科目)	—	0	5	0	—			13	10	0	0	0	—	—
専門科目 応用生物学コース科目	熱帯農業資源学特論	1・2前		1		○			1						
	熱帯資源植物利用学特論	1・2前		1		○			1						
	熱帯作物改良学特論	1・2後		1		○				1					
	熱帯作物生理学特論	1・2後		1		○				1					
	動物資源開発学特論	1・2後		1		○			1						
	動物ゲノム情報学特論	1・2後		1		○			1						
	動物発生学特論	1・2後		1		○				1					
	動物繁殖生理学特論	1・2後		1		○				1					
	植物機能学特論	1・2後		1		○			1						
	植物代謝先端科学特論	1・2後		1		○			1						
	蔬菜花卉園芸学特論	1・2後		1		○			1						
	園芸植物資源開発学特論	1・2後		1		○			1						
	花卉園芸学特論	1・2前		1		○				1					
	植物系統分類学特論	1・2前		1		○				1					
	果樹育種学特論	1・2前		1		○				1					
	果樹遺伝学特論	1・2前		1		○				1					
	植物ゲノム育種学特論	1・2前		1		○			1						
	植物分子遺伝学特論	1・2前		1		○			1						
	植物病原学特論	1・2前		1		○				1					
	植物感染病学特論	1・2前		1		○				1					
	植物病学特論	1・2後		1		○			1						
	先端植物ウイルス病学特論	1・2後		1		○			1						
	線虫学特論	1・2前		1		○				1					
先端線虫科学特論	1・2前		1		○				1						
昆虫分子生物学特論	1・2後		1		○			1							
先端昆虫分子生物学特論	1・2後		1		○			1							
システム生態学特論	1・2後		1		○				1						
進化生態学特論	1・2後		1		○				1						
動物行動生態学特論	1・2後		1		○			1							

	動物行動学特論	1・2後		1		○			1												ネット授業	
	動物遺伝育種学特論	1・2前		2		○			1												集中	
	インターンシップ I	1・2前・後		1				○	8	7											集中	
	インターンシップ II	1・2前・後		2				○	8	7											集中	
	生物資源開発学演習 I	1前・後		2			○		5	4												
	生物資源開発学演習 II	2前・後		2			○		5	4												
	生物資源制御学演習 I	1前・後		2			○		3	3												
	生物資源制御学演習 II	2前・後		2			○		3	3												
	特別研究A	2通	10				○		8	7												
	小計 (38科目)	—	10	43	0	—	—		8	7	0	0	0		—	—						
	専 門 科 目	利水情報工学特論	1・2前		1		○				1											
水資源計画学特論		1・2前		1		○				1												
環境地盤学特論		1・2前		1		○			1													
農地環境工学特論		1・2前		1		○			1													
土壌物理学特論		1・2後		1		○			1													
先端地水学特論		1・2後		1		○			1													
浅海環境工学特論		1・2後		1		○																
リモートセンシング工学特論		1・2後		1		○																兼1
生産地盤工学特論		1・2後		1		○				1												兼1
土質工学特論		1・2後		1		○				1												
土地生産機能学特論		1・2後		1		○				1												
環境資源学特論		1・2後		1		○				1												
農地計画学特論		1・2後		1		○				1												
応用水文学特論		1・2後		1		○				1												
環境分析化学特論		1・2前		1		○				1												
先端環境分析化学特論		1・2前		1		○				1												
インターンシップ I		1・2前・後		1					2	6												兼1 集中
インターンシップ II		1・2前・後		2					2	6												兼1 集中
生物環境保全学特別演習		1後・2前	2				○			2	6											兼1
特別研究B	2通	10				○			2	6											兼1	
小計 (20科目)	—	12	19	0	—	—		2	6	0	0	0		—	—							
専 門 科 目	植物遺伝資源学特論	1・2後		1		○			1													
	応用遺伝資源学特論	1・2後		1		○			1													
	施設農業生産学特論	1・2前		1		○			1													
	分光統計解析学特論	1・2前		1		○			1													
	植物環境応答学特論	1・2後		1		○			1													
	応用植物生理学特論	1・2後		1		○			1													
	家畜行動学特論	1・2後		1		○				1												
	家畜管理学特論	1・2後		1		○				1												
	作物生態学特論	1・2後		1		○			1													
	生産情報処理学特論	1・2前		1		○			1													
	先端情報技術学特論	1・2前		1		○			1	1												
	発酵代謝学特論	1・2後		1		○			1													
	微生物ゲノム情報工学特論	1・2後		1		○			1													
	生産システム工学特論	1・2後		1		○				1												
	農用先端機械学特論	1・2後		1		○				1												
	生産生態学特論	1・2後		1		○				1												
	循環型農業生産学特論	1・2後		1		○				1												
	土壌学特論	1・2前		1		○			1													
	最新土壌微生物学特論	1・2前		1		○			1													
	インターンシップ I	1・2前・後		1					6	3												集中
インターンシップ II	1・2前・後		2					6	3												集中	
資源循環生産学特別演習 I	1通	1				○			6	3												
資源循環生産学特別演習 II	2通	2				○			6	3												
特別研究C	2通	10				○			6	3												
小計 (24科目)	—	13	22	0	—	—		6	3	0	0	0		—	—							

専門科目	地域社会開発学コース	農産物市場流通特論	1・2前	1		○			1												
		農業経営学特論	1・2後	1		○				1											
		アジア農村開発学特論	1・2後	1		○				1											
		人類生態学特論	1・2前	1		○			1												
		国際環境保健学特論	1・2前	1		○			1												
		農村景観保全学特論	1・2前	1		○													兼1		
		環境社会学特論	1・2前	1		○					1										
		農村社会学特論	1・2前	1		○					1										
		生態人類学特論	1・2後	1		○					1										
		地域資源開発学特論	1・2後	1		○					1										
		農業技術経営管理学概論	1・2前	1		○				1											
		インターンシップⅠ	1・2前・後	1					○		2	3							兼1	集中	
		インターンシップⅡ	1・2前・後	2						○	2	3							兼1	集中	
		地域社会開発学特別演習Ⅰ	1前・後	2				○			2	3							兼1		
		地域社会開発学特別演習Ⅱ	2前・後	2				○			2	3							兼1		
		特別研究D	2通	10				○			2	3							兼1		
小計 (16科目)	—	14	14	0	—	—	—	—	2	3	0	0	0	—	—	—	—	—			
専門科目	生命機能科学コース	先端分析科学特論Ⅰ	1・2前	2		○			4	2											
		先端分析科学特論Ⅱ	1・2後	2		○			4	1	1								兼1		
		生化学特論	1・2前	1		○			1												
		タンパク質科学特論	1・2前	1		○			1												
		微生物遺伝学特論	1・2前	1		○			1												
		真核微生物学特論	1・2前	1		○			1												
		応用微生物学特論	1・2前	1		○			1												
		微生物学特論	1・2前	1		○			1												
		生物有機化学特論	1・2前	1		○					1										
		分子生物学特論	1・2前	1		○					1										
		バイオセンシング特論	1・2前	1		○				1											
		バイオ材料特論	1・2前	1		○				1											
		分子細胞生物学特論	1・2後	1		○														兼1	
		細胞情報学特論	1・2後	1		○														兼1	
		食品生化学特論	1・2後	1		○						1									
		食糧流通貯蔵学特論	1・2後	1		○						1									
		食品科学工学特論	1・2後	1		○				1											
		バイオマス利用特論	1・2後	1		○				1											
		食品化学特論	1・2後	1		○				1											
		糖鎖工学特論	1・2後	1		○				1											
		海洋資源化学特論	1・2後	1		○				1											
		グリコバイオロジー特論	1・2後	1		○				1											
		食品機能学特論	1・2後	1		○						1									
		食糧安全学特論	1・2後	1		○						1									
		分子栄養学特論	1・2後	1		○				1											
		脂質生化学特論	1・2後	1		○				1											
		インターンシップⅠ	1・2前・後	1					○		8	3								兼1	集中
		インターンシップⅡ	1・2前・後	2						○	8	3								兼1	集中
		生命化学演習	1・2通	2					○		4	1	1							兼1	
		食糧科学演習	1・2通	2					○		4	2									
		特別研究E	2通	10					○		8	3	1							兼1	
小計 (31科目)	—	14	31	0	—	—	—	—	8	3	1	0	0	—	—	—	—	—			
外国人留学生特別科目	アグロサイエンス特論	1・2前		1							1										
	アグロサイエンス特別演習	1・2通		2							1										
小計 (2科目)	—	0	3	0	—	—	—	—	0	0	1	0	0	—	—	—	—	—			
合計 (145科目)		—	65	155	0	—	—	—	26	22	1	0	0	—	—	—	—	—			
学位又は称号		修士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係													

授 業 科 目 の 概 要			
(農学研究科 生物資源科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 教養教育 プログラム	研究・職業倫理特論	(概要) 本学大学院の修了生は、将来、様々な倫理的問題に直面することが予想される。これらの倫理的問題に対応できるように、本講義ではまず人間社会が形成してきた社会のシステムを学ぶ。その後、現代における個人としての倫理、専門家としての倫理、組織としての倫理について理解し、実例を見ながら考えをまとめる。課題の発表を課し、情報の収集、分析、思考集約、まとめと発表能力を促す。研究者・職業倫理の重要概念と様々な事例を論じる能力を身につける。	
	情報セキュリティ特論	(概要) 情報技術とインターネットの普及は、大きな利便性をもたらすとともに、以前とは異なる危険性を発生させている。不正プログラムによって、自らの情報を盗まれるだけに止まらず、知らずして他人への攻撃に加担してしまうこともある。本講義では、大学院における研究等を目的とした情報収集も視野に入れ、情報セキュリティの基礎について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (57 只木進一/2回) 情報セキュリティの現状を概観するとともに、情報セキュリティの基礎について講義する。 (93 堀良彰/2回) 組織の一員として対応すべき情報セキュリティ対策について概観するとともに、情報セキュリティに関連した法と制度について講義する。 (139 大谷誠/2回) 認証技術、暗号技術、ファイアウォールなどの基礎技術、攻撃者側の手法などについて解説し、セキュリティ対策の技術的側面について講義する。 (144 廣友雅徳/2回) 情報セキュリティに関する脅威について概観するとともに、個人として行うべき対策について講義する。	オムニバス方式
	データサイエンス特論	(概要) 本授業では、専門分野を越えて、地域・社会の課題に対し、データに基づく思考や判断のできる能力を育成するため、データサイエンスの素養を有し、自身の経験や勘ではなくデータを活用して円滑なコミュニケーションが行える力、「データコミュニケーション力」の育成を図る。そのために、本授業では、自治体や企業等におけるデータサイエンスのニーズや問題解決事例、オープンデータの活用例、そこで使われている手法等を紹介し、それを踏まえ、学生にはデータに基づいた改善策を考えてもらう。	
	学術英語特論	(Summary) The class contents are as follows: Since the students in this class intend to publish research papers in English-written journals or give presentations in domestic or international conferences in English, they will practice writing and talking in English about their research. In particular, most class time will be spent doing activities in the text book, English-language pronunciation and intonation practice, presentation style practice, and giving presentations. The students' writing skills will be trained by classwork assignments. (概要) この授業の内容は以下の通りである: 本授業を履修する学生は、英語で出版される学術雑誌での論文発表や、国内学会もしくは国際学会において英語で発表することを目的としているため、研究分野に関する英語のライティング及びスピーキングの訓練を行う。具体的には、授業時間の多くを教科書内のアクティビティ、英語の発音とイントネーションの訓練、プレゼンテーションスタイルの訓練、そして実際のプレゼンテーションに充てる。学生のライティングスキルは授業外の課題によって訓練する。	

大学院 教養教育 プログラム	ダイバーシティ・人権教育特論	<p>(概要) 基礎的な知識として、個別の差別問題や人権の歴史を概観し、ダイバーシティという概念が生まれた背景と、その概念の変化について知る。雇用や教育におけるダイバーシティの意義と理念を理解したうえで、今後の方向性について主体的に調査し、考察を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(44 松下一世・166 荒木薫／1回)(共同) (第1回)ダイバーシティとは</p> <p>(44 松下一世／4回) (第2回)マイノリティーの人権、差別、偏見について (第3回)レイシズムとセクシズムについて (第4回)セクシュアルオリエンテーションとジェンダーアイデンティティについて (第5回)ソーシャルインクルージョンと障害者差別</p> <p>(166 荒木薫／3回) (第6回)教育や雇用におけるダイバーシティ (第7回)我が国の現状から課題の発見 (第8回)国内外の先進事例から問題解決に向けての考察</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	キャリアデザイン特論	<p>(概要) 産業構造や生活環境のグローバル化、科学技術の著しい進展に伴い、専門性の高い人材が社会に出て活躍するためには、専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野を持つことが要求されている。また、高度専門職業人として必要な倫理観、社会性、国際性、リーダーシップなどを身につける必要がある。本授業では、企業、公的機関、教育機関等において第一線で活躍するゲストを招聘し、実践的な講義を行う。多彩なゲストの講義とディスカッションを通じて、専門性の高い人材のキャリア形成に必要な能力や資質等を理解する。</p>	
	多文化共生理解	<p>(概要) 昨今、世界のさまざまな国、地域において、異文化の衝突や摩擦が起きていますが、それでも人々はやはり異者を理解し、また受け入れながら、平和に生きることを願い、そのために努力しています。それはまさに多文化の中に自己を相対化し、共生をめざす人々の姿であります。この授業では、そうしたいくつかの典型的な国の多文化共生の歴史と現状を学ぶことによって、多文化共生への理解を深め、広い視野、柔軟な思考力、多様な価値観を身につけ、バランスのとれた専門知識を修得していくうえで必要な基本教養を身につけていきます。</p>	
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	<p>(概要) 学生グループでのアクティブ・ラーニング型授業を行う。学生が自身の研究内容のプレゼンテーションを行い、他の学生はそのプレゼンテーションから研究概要をまとめる。これにより発表学生は自身の研究理解が深まり、また、異分野の学生とのディスカッションによる新たな展開も期待される。一方、受講生は異なる分野のプレゼンテーションを聴講してレポートにまとめることにより、異分野の知識や考え方を理解し自分の研究に取り込むことで、分野の枠を越えた視点から新しい展開が期待される。</p>	
	創成科学PBL特論	<p>(概要) 5名で1グループを形成し、このグループ内で実験、解析、演習、報告書作成などを実施する。3つの研究テーマに対して教員のサポートの下で研究を実施し、研究結果を解析・評価し、レポートとしてまとめて担当教員に提出する。この授業により、創造性、総合力、実践力、自主性を養う。また、異なる学問分野の高度な知識・技術が修得でき、科学的思考力も養うことができる。各教員が担当する研究テーマは下記の通りである。</p> <p>(54 梶木屋龍治／5回) 偏微分方程式</p> <p>(50 市川尚志／5回) 整数論及び数論幾何学</p> <p>(83 中川泰宏／5回) 複素多様体論及び微分幾何学</p> <p>(75 半田賢司／5回) 確率論</p> <p>(109 日比野雄嗣／5回) 確率論</p> <p>(147 中村健太郎／5回) 整数論</p> <p>(150 岡田拓三／5回) 代数幾何学</p> <p>(160 猿子幸弘／5回) 微分幾何学</p> <p>(163 加藤孝盛／5回) 偏微分方程式</p>	

創成科学PBL特論

自然科学系
研究科
共通科目

(77 鄭旭光／5回)

教員のアドバイスの下で、学生は主体的に物理学に関する研究テーマを選択し、互いに協力しあいながら実験及び考察を行い、その理解の確認として発表を行う。

(119 橋基／5回)

教員のアドバイスの下で、学生は主体的に物理学に関する研究テーマを選択する。選択した研究テーマを、学生が互いに協力しあいながら考察し、その理解の確認として発表を行う。

(152 山内一宏／5回)

すべての物質は、原子・分子が多数集まってできている。目に見えない原子の存在がどのように確立されたかを学ぶことで、科学的なものの見方を身に付ける。

(79 奥村浩／5回)

地球観測衛星センサから得られたデータを元に、環境観測、災害対応、都市計画などに有用な情報を得るリモートセンシング画像処理に関するPBL演習を行う。

(72 花田英輔／5回)

IoTの概念及び必要な通信インフラについて演習的に学ぶことで、現場での応用力を高める。

(95 福田修／5回)

インターネット上には様々な情報が溢れているが、その内容が人に伝わらない限り、意思決定に役立つ知識や英知にはなり得ない。このテーマでは、情報技術に基づくグラフィカルな「データの見える化」について PBL演習を行う。

(84 岡崎泰久／5回)

ICTを活用して、人間が行う活動こと支援することに関するPBL演習を行う。

(124 日永田泰啓／5回)

単純なルールに従って繰り返し遷移するシステムは、単純な現象を示すのか？これをテーマとする演習を行う。

(52 大石祐司／5回)

潜熱蓄熱材料を用いてその機能について学び、中温域での潜熱蓄熱材の用途について提案させる。

(58 花本猛士／5回)

酸とアルコールからエステルを合成して化学反応を理解するとともに、新規の香り成分について提案させる。

(80 竹下道範／5回)

さまざまなフォトクロミック化合物に紫外光や可視光などを当てて、化合物の違いによる色の変化などを確認し、新しい利用法について提案させる。

(90 大渡啓介／5回)

模擬廃水をイオン交換樹脂で処理し、処理前後のイオン濃度の定量により廃水処理を検証する。実際の廃液に含まれる様々なイオンの種類と濃度、それらの環境基準などを調べ、それぞれのイオンの回収や除去方法について提案させる。

(125 矢田光徳／5回)

酸化チタンの光触媒を用いて、防染について検証する。光触媒の新たな利用法について提案させる。

(115 兒玉宏樹／5回)

化学実験室の汚染状況を簡易的に測定し、大気環境を健全に保つ方法について提案させる。

- (110 塩見憲正／5回)
流れのふしぎにみる流体力学
- (151 仮屋圭史／5回)
蒸気動力サイクルの熱力学的設計
- (157 石田賢治／5回)
身近な熱問題の解決策を探る
- (116 今井康貴／5回)
フーリエと波
- (145 只野裕一／5回)
CAEを活用した構造設計・評価
- (136 森田繁樹／5回)
金属材料のはりのひずみ測定
- (111 馬渡 俊文／5回)
機械要素の潤滑状態
- (131 大島 史洋／5回)
機械装置の製作工程
- (55 辻村 健／5回)
ロボットのからくりを探る
- (48 古川達也／5回)
CAEツールを用いた電熱現象に関する解析，評価，報告書作成を実施する。
- (101 佐々木伸一／5回)
LED照明を利用した可視光通信用の受光回路における課題検討，仕様検討，Spiceシミュレーションを用いた回路設計を行い，その評価を行うとともに，ブレッドボードを用いて作製し，実施した研究内容を報告書にまとめる。
- (103 原重臣／5回)
太陽光発電に関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (104 田中高行／5回)
オペアンプを用いたアクティブフィルタに関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (137 伊藤秀昭／5回)
人工知能に関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (107 西山英輔／5回)
基礎的なアンテナに関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (53 柴錦春／5回)
地盤工学に関する実験および数値解析演習
- (159 根上武仁／5回)
地盤環境に関する実験および解析演習
- (82 山西博幸／5回)
水環境に関するフィールドワークおよび水質分析演習
- (89 小島昌一／5回)
建築環境工学からみた建築熱環境分析
- (149 中大窪千晶／5回)
建築環境工学からみた都市熱環境分析
- (81 三島伸雄／5回)
歴史的環境保全からみた建築空間分析

	<p>(117 山岡禎久／5回) 生体の光イメージングに関連する生体医工学研究法について指導する。</p> <p>(114 杉剛直／5回) 脳機能の解析に関連する生体医工学研究法について指導する。</p> <p>(133 橋本時忠／5回) 流体力学，気泡力学および粘弾性力学に関連する生体医工学研究法について指導する。</p> <p>(113 泉清高／5回) 機械学習，ソフトコンピューティングに関連する生体医工学研究法について指導する。</p> <p>(78 鯉川雅之／5回) 健康機能分子科学研究法について指導する。</p> <p>(106 海野雅司／5回) 健康機能分子科学研究法について指導する。</p> <p>(122 古藤田信博／5回) 健康機能分子科学研究法について指導する。</p> <p>(132 光武進／5回) 健康機能分子科学研究法について指導する。</p> <p>(105 富永広貴・ 127 原めぐみ・ 100 村久保雅孝／各5回) (共同) 医学・看護学研究法について指導する。</p> <p>(14 一色司郎・ 18 田中宗浩・ 11 濱洋一郎・ 2 稲岡司／5回) (共同) 生物資源の生産と利用</p> <p>(14 一色司郎・ 18 田中宗浩・ 11 濱洋一郎・ 2 稲岡司／5回) (共同) 生物資源の開発と保護</p> <p>(14 一色司郎・ 18 田中宗浩・ 11 濱洋一郎・ 2 稲岡司／5回) (共同) 農業生産基盤と農村環境の保全</p> <p>(14 一色司郎・ 18 田中宗浩・ 11 濱洋一郎・ 2 稲岡司／5回) (共同) 農業生産情報</p> <p>(14 一色司郎・ 18 田中宗浩・ 11 濱洋一郎・ 2 稲岡司／5回) (共同) 生命機能</p> <p>(14 一色司郎・ 18 田中宗浩・ 11 濱洋一郎・ 2 稲岡司／5回) (共同) 食品栄養と製造</p> <p>(14 一色司郎・ 18 田中宗浩・ 11 濱洋一郎・ 2 稲岡司／5回) (共同) 農業経営と農村社会</p>		
自然科学系研究	知的財産特論	<p>(概要) 知的財産権は，特許，実用新案，意匠，商標，著作物，営業秘密などを対象として，人間の創造的活動により生み出される価値である情報や知識を保護し，発明者や創作者に排他的独占権を付与して創造性や独創性の高揚を図り，これによって社会・経済や文化の発展を図るものである。知的財産権法の理解，権利の内容や権利解釈の仕方を学び，知的財産の創造・保護・活用の各場面における実務的能力の習得を目指す。</p>	

理工学概論	<p>(概要) 分野の枠を越えた幅広い視点を身に付け、今後の医学・理工学・農学の融合科学の発展について自ら考えることができるよう、理工学の基盤的分野である数学、物理学、知能情報工学、材料化学、機械工学、電気電子工学、都市工学を概説するとともに、最近の進歩・現状の課題等を多面的にオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(46 渡孝則/1回) 理工学の基盤的分野および最近の動向について概説する。</p> <p>(50 市川尚志/1回) 数学における先端的研究を分かりやすく紹介する。</p> <p>(63 船久保公一/1回) 理論と観測・実験を両輪として発展してきた物理学の1つの分野である宇宙物理学を取り上げ、ビッグバン宇宙論の考え方と宇宙に関する最新の知見について解説する。</p> <p>(84 岡崎泰久/1回) 社会に大きな変化をもたらしている情報通信技術 (ICT) の最新技術、およびその応用事例について講義する。</p> <p>(142 森貞真太郎/1回) 無機化学, 有機化学, 物理化学, 分析化学, および化学工学などの化学分野における先端材料研究の最近の展開に関して講義する。</p> <p>(65 服部信祐/1回) 機械工学の柱となる4力学 (流体力学, 熱力学, 材料力学, 機械力学) について概説する。</p> <p>(97 田中徹/1回) 半導体ナノ構造, 光・量子エレクトロニクスなどの電気電子工学分野における最新技術を概説するとともに最近の研究動向について解説する。</p> <p>(49 井嶋克志/1回) 地震について、日本に居住する人たちが最低限理解しておくべきことを授業する。例えば、地震前後に気象庁が発信する情報について、また、九州北部 (特に佐賀) において直下型地震や津波等の可能性に関すること、さらに、地震時における一般家屋やビルディングの被害 (可能性を含めて) について説明する。</p>	オムニバス方式
医学・看護学概論	<p>(概要) 分野の枠を越えた幅広い視点を身に付け、今後の医療のあり方について自ら考えることができるよう、医学・看護学の哲学、歴史に加え、最近の進歩・課題等を多面的にオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(99 尾崎岩太/1回) 健康科学に関する最新の研究成果, トピック等について学ぶ。</p> <p>(70 倉岡晃夫/1回) 医学の定義, 歴史, そしてその礎となった基礎医科学研究の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(96 相島慎一/1回) 病因・発生機序など, 疾病概念の本質を踏まえ, 病態医科学研究の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(62 野出孝一/1回) 内科系臨床分野における治療法の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(61 能城浩和/1回) 外科系臨床分野における手術手技等の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(47 長家智子/3回) 諸外国及びわが国の看護の歴史, 看護教育制度の変遷, 看護の役割について学ぶ。</p>	オムニバス方式

自然科学系研究科 共通科目	創成科学インターンシップS	(概要) 海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップSでは、短期(7.5時間×5日以上10日未満)の就業体験や研究活動を通して、自らの実務における課題を見出す能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。	
	創成科学インターンシップL	(概要) 海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップLでは、長期(7.5時間×10日以上)の就業体験や海外の大学での研究活動の中で自らの実務における課題とその解決に向けて取り組む能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。	
	理工学特別講義	(概要) 理工学に関連するトピックスに関して、先端や前線で活躍している外部有識者と専任教員が共同で、それぞれの専門分野における最新の動向について講義する。さらに、外部有識者、教員、学生が参加してセミナー形式でプレゼンテーションおよびディスカッションを行うことで、専門分野の理解を深める。	
	数学概論	(概要) 代数、幾何、解析など、数学の各分野における先端的研究と、理工学の諸分野への応用について分かりやすく紹介する。 (オムニバス方式/全8回) (54 梶木屋龍治/1回) 偏微分方程式に関する先端的研究とその応用について紹介する。 (83 中川泰宏/1回) 複素多様体、及び微分幾何学に関する先端的研究とその応用について紹介する。 (75 半田賢司/1回) 確率論に関する先端的研究とその応用について紹介する。 (109 日比野雄嗣/1回) 確率論に関する先端的研究とその応用について紹介する。 (147 中村健太郎/1回) 整数論に関する先端的研究とその応用について紹介する。 (150 岡田拓三/1回) 代数幾何学に関する先端的研究とその応用について紹介する。 (160 猿子幸弘/1回) 微分幾何学に関する先端的研究とその応用について紹介する。 (163 加藤孝盛/1回) 偏微分方程式に関する先端的研究とその応用について紹介する。	オムニバス方式
	物理学概論	(概要) 現代物理学の大きな柱の1つである相対論について、講義形式で授業を行う。「相対性」の意味を説明し、電磁気学に基づく光速の考え方を再確認した後、光速不変の原理を満たす、相対速度を持つ座標系の間の変換としてローレンツ変換を導入する。 物理法則にローレンツ変換の下での不変性を要請することで、力学や電磁気学の法則がどのように書き換えられるかを解説する。また、相対論がその後の科学技術に与えた影響を紹介する。	
知能情報工学概論	(概要) 知能情報工学は理工学の基盤となる分野であり、深層学習をはじめとする人工知能技術、IoTといったコンピュータネットワーク技術、それらの有効的な利用を促進するソフトウェア技術など様々な理論・技術が含まれ、今日の社会を維持・発展させるために必要不可欠な分野となっている。ここで挙げた知能情報工学に関する技術は日進月歩で更新されており、最新の研究成果が日常生活で用いる様々な製品・サービスに用いられている。本講義では、知能情報工学の技術を網羅的に紹介するとともに、いくつかの最新の成果を講義する。		

自然科学系研究科 共通科目	材料化学特論	<p>(概要) 化学を専門としない他コースの学生に対して、化学系教員が無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、および化学工学などの化学分野に関連した専門分野の最近の研究内容について、オムニバス形式の多岐にわたる専門的かつ最先端研究の講義の提供により、高度的かつ包括的専門知識の学修を図る。学生は、これまでの基礎専門知識に基づく最先端の研究内容の理解に加えて、教員との質疑を通しての理解の整理と深化を図り、ディスカッション能力の向上も合わせて目指す。</p> <p>(オムニバス形式/全8回)</p> <p>(90 大渡啓介/4回) 無機化学、分析化学、および化学工学などの化学分野に関連した専門分野の最近の研究内容</p> <p>(80 竹下道範/4回) 有機化学、および物理化学などの化学分野に関連した専門分野の最近の研究内容</p>	オムニバス方式
	機械工学概論	<p>(概要) 本講義では、機械工学が我々の生活とどのように結びついているのかを概説し、機械工学に対する関心、理解を深めることを目的とする。機械工学は、人々の暮らしを豊かにするため、様々な「ものづくり」を目的として発展してきた学問体系である。機械とは「力や運動を伝え有効な仕事をするもの」と定義されており、機械工学を学ぶということは「力学」を学ぶことにほかならない。</p> <p>以下に示す内容にて機械工学という学問体系のアウトラインを横断的に講義し、これを通じて、機械工学の全体像を把握できるようになることが、本講義の到達目標である。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(141 長谷川裕之/2回) 授業全体の概要を説明した後、機械工学の基礎を構成する力学の基礎について概説する。</p> <p>(148 武富紳也/2回) 機械工学の基礎を構成する材料力学について概説する。</p> <p>(110 塩見憲正/2回) 機械工学の基礎を構成する流体力学について概説する。</p> <p>(157 石田賢治/2回) 機械工学の基礎を構成する熱力学について概説する。</p>	オムニバス方式
	電気電子工学概論	<p>(概要) 電気電子工学分野の基礎学問である電気回路、電磁気学、電子回路の基礎的内容の理解を目標とし、適用例を含めた講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(114 杉剛直/1回) 電気回路：直流回路 (オームの法則、電力、キルヒホッフ、テブナン、ノートン)</p> <p>(86 後藤聡/1回) 電気回路：交流回路 (正弦波、RLC回路、3相交流回路)</p> <p>(67 大石敏之/1回) 電気回路：過渡現象 (ラプラス変換、過渡応答解析)</p> <p>(97 田中徹/1回) 電磁気学：静電界 (電界、クーロン、静電容量)</p> <p>(85 村松和弘/1回) 電磁気学：静磁界 (磁界、アンペール、ビオ・サバル)</p> <p>(74 豊田一彦/1回) 電磁気学：電磁誘導・電磁波 (ファラデー、マクスウェル)</p> <p>(101 佐々木伸一/1回) 電子回路：電子回路素子 (半導体、ダイオード、トランジスタ、サイリスタ、フォトTr)</p> <p>(118 木本晃/1回) 電子回路：増幅回路 (基本回路、演算増幅器)</p>	オムニバス方式

<p>自然科学系研究科共通科目</p>	<p>都市工学通論</p>	<p>(概要) 都市の発展に関わる4つの技術、水資源管理、都市計画、都市環境、建築デザインについて講義し、医学、看護学、農学、理工学の学生に対して分野の枠を越えた視点を身に付けさせる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(143 VONGTHANASUNTHORN (MATSUYAMA) NARUMOL/2回) 都市生活、及び経済活動に関する水利用やその活動から発生する水質汚濁について解説し、必要な水資源の確保や水環境の保全の観点から、都市における総合的な水資源管理について概説する。</p> <p>(146 猪八重拓郎/2回) 都市計画法に基づく都市計画制度の概要、並びに人口減少や少子高齢化に対応するための計画技術、さらに都市計画を策定するための情報技術について紹介し、その理解を深める。</p> <p>(121 李海峰/2回) 都市における様々な環境問題を焦点に当て、持続可能な都市開発が資源や地域環境へ与えるインパクトをできるだけ小さくするような環境技術や手法を紹介し、その理解を深める。</p> <p>(153 宮原真美子/2回) 人間工学のようなミクロなデザインから、住宅・都市スケールのようなマクロなデザインまで、私たちの日常生活に関わる建築デザインの基礎知識を網羅的に学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>人体構造機能学概論</p>	<p>(概要) 本授業科目は、人体の構造と生理機能、ならびに制御機構について、器官系ごとに系統的な学習を行い、人体で営まれている生命現象の仕組みを総合的に理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(76 城戸瑞穂/1回) 細胞・組織の構造と機能、人体の構成の概要について学ぶ。</p> <p>(131 藤田亜美/2回) 神経系の構成、伝導・情報処理機構、および消化・吸収機構について学ぶ。</p> <p>(70 倉岡晃夫/1回) 骨の構造と代謝、骨格筋の構造と収縮機構、骨格系と筋系の概要について学ぶ。</p> <p>(164 塩谷孝夫/2回) 心臓の構造と機能、血圧・血流の調節機構、および呼吸器系、泌尿器系の概要について学ぶ。</p> <p>(98 村田祐造/1回) 感覚器系の構造と機能、内分泌調節機構について学ぶ。</p> <p>(45 河野史/1回) 生殖器系の構造と機能、受精の仕組み、ヒト発生過程の概略について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>人体構造実習</p>	<p>(概要) 本実習科目は、人体の構成について、細胞から、組織、器官の各レベルで系統的に理解し、それらの知識を個体へと還元できる能力を身につける目的で行う。</p> <p>(オムニバス方式/全16回)</p> <p>(70 倉岡晃夫・ 161 菊池泰弘・ 165 川久保善智/10回) (共同) 骨標本ならびに解剖体の見学実習を通じて、骨格系や各臓器の正常構造、器官の位置関係など、肉眼レベルの正常構造を学ぶ。遺体を扱う実習であるため、合わせて献体運動やその意義について解説することで、献体者への礼意を育み、生命の尊厳、医の倫理的諸問題についても考えを深めていく。</p> <p>(76 城戸瑞穂・ 98 村田祐造・ 45 河野史/6回) (共同) 細胞・組織標本の顕微鏡観察実習を通じて、細胞内小器官の構造・機能、組織を構成する細胞とその形態学的・機能学的特異性、ならびに各器官がどのような組織で構成されているか理解し、それらの機能的意義について学ぶ。</p>	<p>オムニバス・共同方式</p>

自然科学系研究科 共通科目	看護理論	<p>(概要) 合理的で、卓越した看護実践の基盤となる理論・概念の基本的な構造や特徴、発達段階を学ぶとともに、それぞれの理論の実践における活用の現状と課題について分析・検討することにより、既存の理論を発展させる、あるいは新たな理論を探求し、看護学の学問的体系化に寄与できる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(47 長家智子／2回) 看護理論・実践・研究の環状的性質、看護理論発表過程と歴史的変遷、看護諸理論の概要(ニーズ論・対人関係論・システム論・適応論等)について教授する。</p> <p>(71 古賀明美／2回) オレム看護論をもとに、看護実践への看護理論・概念活用の現状と課題を踏まえ、理論・概念の実践における検証方法や発展に向けた取り組みの方向性を考察する。</p> <p>(87 鈴木智恵子／2回) 小児期の主要な発達理論を通して、子どもが健康な生活を送れるようにセルフケア理論との統合について教授する。</p> <p>(92 藤野成美／2回) ストレス・コーピング、危機理論、発達課題論などの中範囲理論の概要と重要性について教授する。</p>	オムニバス方式
	生物科学特論	<p>(概要) 生物科学に関する最新の研究成果や先端技術について解説し、その理解に必要な知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(17 鈴木章弘／2回) 植物の生長と植物ホルモン、および植物と微生物間の共生成立のメカニズムに関する研究成果や先端技術について紹介する。</p> <p>(15 穴井豊昭／2回) 作物ゲノム研究の概要、および作物の分子育種技術に関する研究成果や先端技術について紹介する。</p> <p>(8 大島一里／2回) 植物ウイルスの進化機構、および植物ウイルスの拡散時期に関する研究成果や先端技術について紹介する。</p> <p>(5 早川洋一／2回) 昆虫のサイトカインによる発育調節、および昆虫のサイトカインによる免疫調節に関する研究成果や先端技術について紹介する。</p>	オムニバス方式
	生命機能科学特論	<p>(概要) 本講義では、生命現象や生物資源の構造と機能に関する総合的な知識と研究手法を学び、自らの研究活動に活用することを目標とする。本講義は、生命機能科学コースに所属する教員が中心となって持ち回りで担当し、各教員が専門とする分野について、自らの研究成果を中心に詳しく解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(12 小林元太／2回) 概要説明、自然界からの微生物の分離と同定方法</p> <p>(16 後藤正利／1回) 偏性嫌気性細菌の還元的脱ハロゲン呼吸</p> <p>(20 宗伸明／1回) 生物資源を利用した材料について</p> <p>(43 渡邊啓一／1回) タンパク質の構造解析について</p> <p>(21 上田敏久／2回) 機能性高分子化合物の紹介と機能性分子開発の際の着眼点について、ペプチドの機能について</p> <p>(11 濱洋一郎／1回) 食糧資源としての海洋資源について</p> <p>なお、本講義内容は平成31年度に予定しているものであり、平成32年度以降においては、当該年度に担当となった各教員が専門とする分野についての講義を行う。(担当教員全14名)</p>	オムニバス方式

自然科学系研究科 共通科目	食資源環境科学特論	<p>(概要) 地球レベルから地域レベルに至るまでの様々なスケールで生じている環境問題に対処するため、受講生は環境に負荷の少ない生物生産環境の創出・保全と、豊かな生活環境の創造について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(34 弓削こずえ/1回) ガイダンス, 浅海干潟環境学に関する最近の話題 1</p> <p>(1 長裕幸/1回) 地圏環境学に関する最近の話題</p> <p>(38 阿南光政/1回) 水環境工学に関する最近の話題</p> <p>(30 郡山益実/1回) 浅海干潟環境学に関する最近の話題 2</p> <p>(13 近藤文義/1回) 環境地盤学に関する最近の話題 1</p> <p>(37 宮本英揮/1回) 環境地盤学に関する最近の話題 2</p> <p>(29 原口智和/1回) 海浜環境情報学に関する最近の話題</p> <p>(33 上野大介/1回) 生物環境学に関する最近の話題</p>	オムニバス方式
	国際・地域マネジメント特論	<p>(概要) 世界の様々な地域の農業・農村問題を理解する視点について、各専門分野の方法論を示しながら、受講者と近年の研究動向を議論する。</p> <p>(オムニバス/全8回)</p> <p>(2 稲岡司/3回) はじめに, 地域を理解する視点ー人類生態学, まとめ</p> <p>(24 辻一成/2回) 地域を理解する視点ー農業経済学, 地域を理解する視点ー農業経営学</p> <p>(9 五十嵐勉/1回) 地域を理解する視点ー人文地理学</p> <p>(25 藤村美穂/1回) 地域を理解する視点ー農村社会学</p> <p>(39 中井信介/1回) 地域を理解する視点ー生態人類学</p>	オムニバス方式
専門科目	熱帯農業資源学特論	世界の人口は2050年には90億人にも達するといわれている。人口の約6割が熱帯・亜熱帯地域に分布している。そのため、熱帯・亜熱帯地域の食料生産の振興は喫緊の課題である。本講義では、熱帯・亜熱帯地域の食糧生産状況、熱帯・亜熱帯における主要作物の栽培状況と品種分化、熱帯作物の成長生理及び環境ストレスと熱帯作物の生産に関する現状と問題点を解説し、熱帯における主要作物の収量を上げるための遺伝、生理および生態学的研究情報を紹介しながら、熱帯農業の重要性、難しさを認識し、これからの熱帯農業の発展方向を考える。	
	熱帯資源植物利用学特論	熱帯は、高温・多雨な熱帯雨林から砂漠まで変化に富んだ自然環境にあわせ、多種多様な植物が分布する。それらの植物は、人々の食糧、嗜好、道具などの生活にはさまざまな形で利用されている。世界人口の約6割が熱帯・亜熱帯地域に分布しているため、これら熱帯植物資源を如何に食料・生活に活用させることが課題である。本講義では、それら植物の起源、生態、栽培、利用など多方面において解説し、熱帯植物と人間生活の関連性の理解を深める。また、熱帯・亜熱帯に分布する植物資源の開発・利用に関する最新の研究動向を紹介し、適切な開発・利用法によって熱帯・亜熱帯資源植物を人々の生活への合理的かつ持続的活用法について学ぶ。	

熱帯作物改良学特論	アジア・アフリカ地域では、人口増加に伴った食糧の増産が必要不可欠な状態にあり、熱帯地域の主要作物の生産性・栽培技術を改良することは将来的な課題の一つである。熱帯地域では、作物を栽培する環境は多種多様であり、非生物学的ストレスから生物学的ストレスまで、様々な要因により作物生産性が影響を受けやすい。本講義では、熱帯地域の主要作物の生産性を向上するために、収量性やストレス耐性の遺伝的な改良の基本技術やそれらの応用研究に関して紹介しながら、将来的な熱帯地域の作物の改良に関して考える。
熱帯作物生理学特論	アジア・アフリカ地域では、人口増加に伴った食糧の増産が重要な課題にあり、熱帯地域の様々な環境に適した作物栽培技術を向上させる必要がある。熱帯地域では、作物を栽培する環境は多種多様であり、環境ごとに適応した生理的特性を理解し、作物の生産性の改良に利用することが必要不可欠である。本講義では、熱帯作物が持つ生理的特性を理解し、それぞれの環境条件に適した作物の改良や利用に関する知識を深め、将来的な熱帯地域の作物生産に関して考える。
動物資源開発学特論	脊椎動物における分子生物学やバイオテクノロジー、ゲノム解析などの最新の成果を講義する。具体的にはゲノム解析の概要とDNAマーカーの種類と各DNAマーカーの特徴、連鎖解析とQTL解析の基本、脊椎動物におけるゲノム解析や連鎖解析、QTL解析の現状、マイクロアレイや新世代シーケンシングなどの遺伝子発現解析の最新手法、最近のRNA研究の進展状況、核内受容体遺伝子群や免疫関係遺伝子群、四肢の発生に関する遺伝子群などについて解説する。
動物ゲノム情報学特論	本授業は脊椎動物におけるゲノム情報学（バイオインフォマティクス）分野の最新の成果を講義するものである。具体的にはゲノムインフォマティクスの基礎と概要について、コード領域予測手法や機能部位予測手法について、遺伝距離算出法と分子系統樹作成法について、さまざまな遺伝子発現解析の基礎とリアルタイムPCRやマイクロアレイなどから得られた遺伝子発現データの解析手法について、RNA-Seqの概説とRNA-Seqから得られたデータの解析手法について、ベイズ統計学の農学・生命科学分野への応用について、Gene Ontology (GO) 解析について講義する。
動物発生学特論	本講義では、哺乳類の個体発生に関する諸現象の解説を行い、その理解を深める。特に、精子や卵子といった生殖細胞の形成、受精、着床までの初期胚発生で起こる現象に関する専門知識や最新の知見について研究事例を紹介しながら講義を進めていく。また、全能性の獲得や有性生殖を担保する機構についてエピジェネティクスの観点からの解説も行う。加えて、再生医療への応用など近年社会的にも関心の高い発生工学分野における最近の研究動向について講師が解説を行うとともに、受講生は指定された英語論文をあらかじめ熟読し、講義内でその内容の発表およびディスカッションを行い、より深い知識を身につけることを目的とする。
動物繁殖生理学特論	現在、繁殖技術は実験動物や家畜の増殖のみならず、ヒトの不妊治療を目的とした生殖補助医療の現場でも広く活用されている。本講義では、この繁殖技術に関して研究事例を紹介しながら解説していくとともに、最近の研究動向や不妊治療への応用によって新たに生じている倫理的問題点についても紹介していく。また、本講義では、単にそれぞれの繁殖技術の概要を理解することが目的ではなく、その原理までを理解することを目的としており、そのために必要な繁殖生理学の知識についても解説を行う。さらに、受講生は指定された英語論文を熟読し、講義内でその内容の発表およびディスカッションを行う。
蔬菜花卉園芸学特論	蔬菜花卉の中でアブラナ科・サトイモ科蔬菜を対象とした研究を例として用いて園芸学的研究を紹介する。研究内容、手法を理解することによって他の蔬菜や花卉を用いた研究への応用能力を身につけさせることを目的とする。さらに、海外の園芸の状況や園芸研究を知ることによって、園芸学的研究の広い視野を持たせることも目的である。具体的には、アブラナ科・サトイモ科蔬菜の起源と分化、アブラナ科・サトイモ科蔬菜の遺伝育種学的研究、ウリ科・ユリ科蔬菜の起源と分化、ウリ科・ユリ科蔬菜の遺伝育種学的研究、アジアの園芸（温帯地域）、アジアの園芸（熱帯地域）、欧州の園芸について紹介する。
園芸植物資源開発学特論	ナス科、特にナスを対象とした研究を例として用いて野生植物資源を用いた園芸植物の品種改良のための研究を紹介する。例として、ナス属野生種の細胞質をナス品種に導入することによって、ナス品種に雄性不稔性（花粉を放出しないあるいは花粉が機能しない性質）を誘発するための研究を示す。雄性不稔性は、これを利用することによって、ナスのF1種子生産の効率化やタネ無しの高品質果実の生産が可能となる重要な性質である。具体的には、ナス科蔬菜の起源と分化、ナスの起源と分化、ナスおよび近縁野生種のアイズォイム分析、ナス複二倍体の自殖実生遺伝分離、ナスおよび近縁野生種のDNA分析、雄性不稔ナスの開発研究1 薬裂開不全型雄性不稔の開発、雄性不稔ナスの開発研究2 花粉形成不全雄性不稔の開発について紹介する。
花卉園芸学特論	花卉園芸作物は、コケ植物から維管束植物まで鑑賞する幅広い植物を含む。花卉は我々の暮らしを彩り、冠婚葬祭や贈答にも欠かすことができない。我が国の花卉生産額は世界第3位であるが、生産額は年々減少傾向にある。時代の流れとともに我が国の花卉産業が迎ってきた歴史と現状を、アメリカや他国との比較を通して学習する。3～4名を1グループとし、講義はグループディスカッション形式で行う。
植物系統分類学特論	陸上に生育する植物は、大きくコケ植物、シダ植物、裸子植物と被子植物に分けられる。各植物群の特徴について学習し、陸上植物の系統について理解を深める。コケ植物とシダ植物の違いについてグループで話し合いを行い、結果をとりまとめて発表を行う。また、実体顕微鏡等を用いて実物を観察し、植物の構造や系統による違いを理解する。

植物ゲノム育種学特論	本講義は、最新のゲノム情報を活用した植物育種の理論および技術の現状と展望についての理解を深めることを目的としており、作物におけるゲノム育種の概要と最近のトピックについて講師が解説を行う部分と、受講生が課題についての調査を行い、これを発表しディスカッションを行う部分から構成されている。具体的には、ゲノム育種とは何か、植物ゲノム解析の現状、分子マーカーを利用した育種、新規有用遺伝子の探索への応用、ゲノム情報と遺伝子組換え技術、ゲノム情報と突然変異について解説および議論する。	
植物分子遺伝学特論	本講義は、植物分子遺伝学の理論および技術の現状と展望についての理解を深めることを目的としており、最新の植物における分子遺伝学研究のトピックについて講師が解説を行う講義の部分と、受講生が課題についての調査を行い、これを発表しディスカッションを行う部分から構成されている。具体的には、分子遺伝学研究における遺伝学的手法と逆遺伝学的手法、分子遺伝学研究に用いられる技術の概要、モデル植物を用いた分子遺伝学研究、作物における分子遺伝学研究、遺伝子のマッピングとクローニング、外来遺伝子の導入と制御について解説および議論する。	
植物ゲノム工学特論	最新のゲノム情報を活用した遺伝子解析技術やそれらを利用した植物改良技術の現状と展望について紹介する。特に作物におけるゲノム育種の概要および従来の育種法との違いについて、最新の研究成果に基づいて考察を深める。受講生が課題についての文献調査を行い、学術研究に関連する内容を理解し、それを他者に向けて発表することで、身に付けた知識のアウトプットに関連する技能を伸ばす。	
植物ゲノム情報科学特論	バイオインフォマティクスの発達と蓄積しつつある膨大なゲノム情報（塩基配列情報、遺伝子発現情報等）を利用した研究手法について、その基礎から応用について紹介する。また実際の植物育種現場への応用を目指したこれらのビックデータの利用について、実験データを利用した解析技術を学び、最先端の学術知識の習得を目指す。	
植物病原学特論	植物病原糸状菌の分類および寄生性分化の進化について解説を行う。植物病原菌の防除にはその病原性発現に関するメカニズムを知ることが必要となる。糸状菌の分類を通じて、進化的側面から植物病原糸状菌の病原性のメカニズムを解説する。具体的には、生物全体における糸状菌の位置付け、変形菌門と真菌門、真菌門の亜門、寄生性分化の理解に向けた種以下の分類、宿主特異的毒素生産菌の寄生性分化、基礎的親和性の獲得とレース分化、レース分化と植物との共進化について解説する。	
植物感染病学特論	植物病原糸状菌と植物間の相互作用に関する遺伝学的メカニズムを遺伝子対遺伝子説を中心に解説する。植物病原菌の防除にはその病原性発現に関するメカニズムを知ることが必要となる。植物との相互作用に関する遺伝学的側面から植物病原糸状菌の病原性のメカニズムを解説する。具体的には、遺伝学の基礎知識、植物の抵抗性の遺伝、菌の病原性の遺伝、遺伝子対遺伝子説の基礎的理解、抵抗性および病原性関連遺伝子の古典遺伝学的同定、遺伝子対遺伝子説の分子生物学的基盤、遺伝子対遺伝子説に関する最近の知見について解説する。	
植物ウイルス病学特論	植物ウイルス病学における基礎的な知識を習得させるとともに、分子レベルでの最近の先端研究について紹介する。ウイルス学問分野における基礎的な知識を習得するとともに、最近の或いはこれから発展するであろう先端分野について学び、世界レベルの分子レベルでの最近の研究の情勢などを習得する。ウイルス学問分野における基礎的な知識を習得でき、世界レベルの研究の情勢などを習得できることを到達目標にする。農作物に感染する病原体、農作物に感染する病原体の多様性、植物以外に感染するウイルス、農作物に感染するウイルスそして生物情報学の植物ウイルス研究への利用について解説する。	
植物ウイルス学特論	植物ウイルス学における基礎から応用までの幅広い知識を習得させるとともに、最先端分野の国際論文について紹介する。自分自身が携わっている研究についても考察でき、独創的な発想を養えることを目標とする。ウイルス学やウイルス病学分野における基礎から応用までの幅広い知識を習得できるとともに、最先端分野の国際的な研究の流れについて習得できることを到達目標とする。植物ウイルスの多様性、農作物に甚大な被害を与える植物ウイルス、ユーラシア大陸における植物ウイルスの分子進化と分子生態、東アジアにおける植物ウイルスの分子進化と分子生態、日本における植物ウイルスの分子進化と分子生態、生物情報学、病原性獲得メカニズムIそして病原性獲得メカニズムIIについて解説する。	
線虫学特論	地球上には様々な線虫が生息し、我々人間の生活と直接的・間接的に関わっている。本講義では寄生者として線虫の生理・生態的特徴について解説するとともに、特に植物寄生性線虫に対するこれからの防除対策についても紹介する。また、土壤動物としての線虫の自然界における役割や重要性を紹介するとともに、有用な線虫についてのその利用方法を紹介し、生物資源としての線虫の魅力に迫る。具体的には、線虫とは何か、脊椎動物寄生、無脊椎動物寄生、植物寄生性線虫とその種類、植物寄生性線虫に対する防除、土壤動物としての線虫、線虫の利用：モデル生物 <i>C. elegans</i> 、昆虫寄生性線虫について解説する。	
先端線虫科学特論	寄生者として多細胞生物の中で最も成功している線虫の動植物への寄生戦略やその進化、宿主との相互作用、環境耐性、さらには農業上問題となる重要な植物寄生性線虫に関する最新の研究例などを紹介するとともに、線虫を用いた最先端の研究トピックスを解説する。具体的には、植物寄生の進化、ネコブセンチュウ抵抗性植物、マツノザイセンチュウに関する最近の知見、昆虫寄生の進化、線虫と微生物の相互作用、線虫の環境ストレス耐性について解説する。 第8回：総合考察とレポート作成について	

昆虫分子生物学特論	害虫制御に重要な昆虫分子生物学に関する基礎知識の習得を目的とし、部分的にセミナー形式を取り入れながら昆虫生理・生化学・分子生物学的知見を紹介する。具体的には、昆虫の発育調節（胚発生、幼虫発育）、昆虫の代謝調節（蛹発育、成虫発育）、昆虫の寄生（宿主発育、宿主細胞性免疫、宿主体液性免疫、宿主の寿命）、脱皮変態といった昆虫を特色付ける生理現象を分子レベルで解析した研究例を紹介し、その過程で昆虫に関する基礎知識の習得を促す。
先端昆虫分子生物学特論	害虫制御に重要な昆虫分子生物学に関する先端的な知識の習得を目的とし、部分的にセミナー形式を取り入れながら昆虫生理・生化学・分子生物学的知見を紹介する。具体的には、昆虫の休眠（前期、後期）、昆虫とストレス（発育、免疫、寿命）、昆虫細胞性自然免疫へのストレスの影響、昆虫体液性自然免疫へのストレスの影響、昆虫細胞性と体液性自然免疫の転換分子機構といった昆虫を特色付ける生理現象を分子レベルで解析した研究例を紹介し、その過程で昆虫に関する先端的な知識の習得を促す。
システム生態学特論	生態系を1つのシステムとして捉え、システムとしての生態系、植物個体群の生態学、動物個体群の生態学、植物-昆虫間相互作用、昆虫-微生物間相互作用、侵入生物が生物群集に及ぼす影響、環境変動が生物群集に及ぼす影響などに関する専門知識や最新知見、研究事例を紹介する。また、生態系における生物間相互作用や、様々な生物を対象とした生態学的研究における実験計画及び結果の解析、考察、さらにシステム生態学の現状と課題について解説する。
進化生態学特論	進化生態学的視点からみた生物進化、および、生物にみられる様々な行動の適応的意義を考察するとともに、自然における様々な選択と適応、配隔離と種分化のメカニズム、生活史戦略の進化、生物における移動分散、生物における表現型可塑性、形質多型とその維持メカニズム、社会性と利他的行動などに関連する最新知見や研究事例を紹介する。また、生物に見られる様々な行動の適応的意義や進化生態学に関する実験計画及び結果の解析、考察について解説する。
動物行動生態学特論	行動生態学をはじめとした研究の進め方についての現代的な方法とデータ解析方法を理解することを到達目標及びテーマとする。行動生態学に留まらず、生物科学の様々な分野でその研究に必要な研究の進め方やデータ解析方法について講義する。具体的には、行動生態学と関連する研究プロセスの概要、疑問と仮説および予想、実験・調査計画、データ記録の方法、データの解析方法、統計手法（標本による推定、検定、統計ソフトの利用）について講義する。
動物行動学特論	動物行動学をはじめとした生物科学の研究の進め方について、その現代的な方法とデータ解析方法を理解することを到達目標及びテーマとする。動物行動学を中心に置きつつ、生物科学の様々な分野で研究に必要な研究の進め方、データ解析方法について教授する。具体的には、動物行動学と関連する研究プロセスの概要、疑問と仮説および予想、実験・調査計画、データ記録の方法、データの解析方法、統計手法（標本による推定、検定、統計ソフトの利用）について講義する。
植物環境応答学特論	食料としての植物（作物）に対する人間の関心は、その植物がどのような場所で生育し、どのような条件で開花し、種子をつけるか。また、収穫を多くするにはどのような土壌で育てれば良いかといったところにあると考えられる。そこでこの授業では、そのような環境条件に適応するために、植物生体内でどのような応答が起きているかについて植物ホルモンが果たす分子レベルでの役割を中心に学習し、それを利用した応用について解説する。
応用植物生理学特論	高等植物は、塩、乾燥、低温、高温、光等の多くのストレスに対応して生育している。本講義ではそのようなストレス条件下での植物の適応戦略について様々な植物ホルモン（オーキシシン、サイトカイニン、ジベレリン、アブシジン酸、エチレン、ジャスモン酸、サリチル酸、ブラシノステロイド、ストリゴラクトン、ペプチド、その他）の働きを通して理解できるように解説するとともに、それを作物生産へ応用する戦略についても説明し、議論する。
家畜行動学特論	動物はやみくもに動くわけではない。家畜を適性に管理するためには、家畜の発する心的・身体的な状態を十分に把握した上で対応することが必要である。本講義では、行動を「機能」、「発現機構（因果関係）」、「発達」、および「進化」という4つの側面から解釈し、家畜の表現する種々の行動レパートリー、正常な行動、あるいは異常な行動について詳しく解説する。また、家畜の福祉に関する知識と基準を詳説し、人間と家畜との共生を目指す畜産業のあり方を考察する。
家畜管理学特論	家畜は、人間の食料（畜産物）の生産手段として、歴史的に人間との非常に長い共生関係を持つ産業動物といえる。本講義では、特に肉牛と豚肉生産を中心に、その生産方法と経営形態について、現場での実例を参考にしながら、産業動物の飼育管理という観点で詳説する。また、現在の穀類飼養体系からの脱却の一方法として、これまで家畜の嗜好性が低いため利用されて来なかった植物の有効利用についての検討報告を紹介し、今後の畜産業のあり方と展望を考察する。

作物生産学特論	<p>本科目は、生物資源の意義を確認し、生産性の向上と豊かな地域環境の整備などに関する幅広い知識を得る目的を持ち、農学研究の基礎となるものである。本科目の中で地域農業における農作物生産に関する研究の位置づけを明確にして、農学研究職に対する認識を深め、研究職への就職意欲を高めようとするものである。具体的には、佐賀県農業試験研究センターにおいて、専門分野の最前線で活躍中の研究者から、その研究内容の講述を受け、作物生産に関わる意見交換を実施する。ここでは、水稻・麦・ダイズ・イチゴ・アスパラガス・キク・トルコギキョウ・タマネギ等の農作物の育種と栽培、有機農業や省エネ施設栽培等を題材とする。</p>	
作物生態学特論	<p>本科目は、生物資源の意義を確認し、生産性の向上と豊かな地域環境の整備などに関する幅広い知識を得る目的を持ち、農学研究の基礎となるものである。本科目の中で農業における栽培植物に関する研究の位置づけを明確にして、農学研究職に対する認識を深め、研究職への就職意欲を高めようとするものである。具体的には、佐賀県果樹試験場と九州電力生物資源研究センターにおいて、専門分野の最前線で活躍中の研究者から、その研究内容の説明を受ける。ここでは、植物工場や施設栽培の課題と展望について学習するほか、佐賀地域で栽培されているミカン等の常緑果樹やナシなどの落葉果樹の品種育成と栽培技術を題材とする。</p>	
生産生態学特論	<p>大多数の作物栽培は種まきより始まり、追肥、除草などの作業の後に収穫にいたる。作物あるいは作物の生育過程により管理すべきポイントは異なるが、基本となるのは作物の持つ特性を把握することである。とりわけ、種子の形成は収量と直接の関わりがあり、また「苗半作」という言葉に見られるように休眠から発芽にいたる過程は収量に大きな影響を及ぼす。イネ、レタス、ウリ類について種子の形成から発芽にいたる過程を説明する。さらに種子の寿命について解説した上で、イネ科雑草などの栄養繁殖についても説明する。</p>	
循環型農業生産学特論	<p>循環型農業では生物系の副産物を活用する必要がある。生物系副産物は作物生産だけでなく家畜飼養に利用され、土壌や水、大気などの環境や病害虫、その他の生物の多様性に影響し、さらに環境保全施策とも関わりを持っている。このような問題を理解するためにはグローバルな視点から農をとらえる必要がある。本講義では生物系資源の有効利用に関わる課題とその解決策を学ぶ。循環型農業の視点を取り入れた欧米で広く読まれている教科書をテキストにし輪読する。</p>	
果樹園芸学特論	<p>本科目は果樹園芸学に関する現状と展望についての理解を深めることを目的として講義を行う。特に中心的な果樹であるバラ科果樹を対象とした研究を例として用いて果樹園芸学的研究を紹介する。果樹の研究内容、手法を理解することによって自分自身の研究への応用能力を身につけさせることも目的とする。果樹研究における概要と最近のトピックについて講師が解説を行う講義の部分と、受講生が課題についての調査を行い、これを発表しディスカッションを行う部分から構成されているので、受動的な態度ではなく、自ら積極的に授業に参加することが望まれる。</p>	
果樹生産学特論	<p>本科目は果樹生産学に関する現状と展望についての理解を深めることを目的として講義を行う。特に中心的な果樹であるカンキツ、モモおよびブドウを対象とした研究を例として用いて果樹栽培学的研究を紹介する。果樹の研究内容、手法を理解することによって他の果樹を用いた研究への応用能力を身につけさせることも目的とする。果樹研究における概要と最近のトピックについて講師が解説を行う講義の部分と、受講生が課題についての調査を行い、これを発表しディスカッションを行う部分から構成されているので、受動的な態度ではなく、自ら積極的に授業に参加することが望まれる。</p>	
動物遺伝育種学特論	<p>本科目では、家畜家禽のゲノム解析、連鎖解析、QTL解析、量的形質の遺伝学、分散成分推定法、種畜の評価法など、家畜家禽の遺伝育種学の最新の内容を、農学研究科修士課程1年生向けにわかりやすくネット授業のシステムを使って解説する。具体的には、遺伝子と蛋白質、遺伝子の進化、ゲノムの中の反復配列、連鎖解析とQTL解析、家畜におけるゲノム解析、脚光をあびるRNA、バイオインフォマティクス入門、量的形質の遺伝学、育種価推定とBLUP法、分散成分推定とREML法、選抜と交配、乳牛と肉牛の改良、豚と鶏の改良について講義する。</p>	

<p>生物科学演習 I</p>	<p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、各研究分野における最先端の知見を習得させるため、教科書や学術論文を精読させる。また、プレゼンテーション能力を身に付けさせるため、ゼミ形式で論文の内容を発表させる。</p> <p>(3 有馬 進)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、食用作物の生理生態の解明と栽培技術に関連する演習を実施する。</p> <p>(4 野間口真太郎)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物行動生態学と関連する演習を実施する。</p> <p>(5 早川洋一)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、昆虫学と関連する演習を実施する。</p> <p>(6 和田康彦)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物遺伝育種学と関連する演習を実施する。</p> <p>(8 大島一里)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、農作物のウイルス病と関連する演習を実施する。</p> <p>(10 鄭 紹輝)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、熱帯作物の生産生理に関連する演習を実施する。</p> <p>(14 一色司郎)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、蔬菜園芸学と関連する演習を実施する。</p> <p>(15 穴井 豊昭)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、植物分子育種学と関連する演習を実施する。</p> <p>(17 鈴木章弘)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、作物生理学と関連する演習を実施する。</p> <p>(22 上埜喜八)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、循環型農業に関連する演習を実施する。</p> <p>(26 草場基章)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、植物病理学、特に糸状菌病害と関連する演習を実施する。</p> <p>(27 吉賀豊司)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、線虫学と関連する演習を実施する。</p> <p>(28 福田伸二)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、果樹栽培・育種と関連する演習を実施する。</p> <p>(32 江原史雄)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物行動管理学と関連する演習を実施する。</p> <p>(35 徳田 誠)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、システム生態学と関連する演習を実施する。</p> <p>(36 辻田有紀)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、花卉園芸学と関連する演習を実施する。</p> <p>(40 藤田大輔)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、熱帯作物改良学と関連する演習を実施する。</p> <p>(41 山中賢一)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物繁殖学と関連する演習を実施する。</p> <p>(42 渡邊啓史)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、植物遺伝育種学に関連する演習を実施する。</p>	
-----------------	--	--

<p>生物科学演習Ⅱ</p>	<p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、各研究分野における未解明の課題や今後の展望について理解させるため、教科書や学術論文、総説などを精読させる。また、プレゼンテーション能力を向上させるため、ゼミ形式で当該分野の現状や課題、今後の展望について発表させる。</p> <p>(3 有馬 進)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、食用作物の生理生態の解明と栽培技術に関連する演習を実施する。</p> <p>(4 野間口真太郎)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物行動生態学と関連する演習を実施する。</p> <p>(5 早川洋一)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、昆虫学と関連する演習を実施する。</p> <p>(6 和田康彦)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物遺伝育種学と関連する演習を実施する。</p> <p>(8 大島一里)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、農作物のウイルス病と関連する演習を実施する。</p> <p>(10 鄭 紹輝)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、熱帯作物の生産生理に関連する演習を実施する。</p> <p>(14 一色司郎)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、蔬菜園芸学と関連する演習を実施する。</p> <p>(15 穴井 豊昭)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、植物分子育種学と関連する演習を実施する。</p> <p>(17 鈴木章弘)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、作物生理学と関連する演習を実施する。</p> <p>(22 上埜喜八)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、循環型農業に関連する演習を実施する。</p> <p>(26 草場基章)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、植物病理学、特に糸状菌病害と関連する演習を実施する。</p> <p>(27 吉賀豊司)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、線虫学と関連する演習を実施する。</p> <p>(28 福田伸二)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、果樹栽培・育種と関連する演習を実施する。</p> <p>(32 江原史雄)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物行動管理学と関連する演習を実施する。</p> <p>(35 徳田 誠)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、システム生態学と関連する演習を実施する。</p> <p>(36 辻田有紀)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、花卉園芸学と関連する演習を実施する。</p> <p>(40 藤田大輔)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、熱帯作物改良学と関連する演習を実施する。</p> <p>(41 山中賢一)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、動物繁殖学と関連する演習を実施する。</p> <p>(42 渡邊啓史)</p> <p>生物関連産業および生物科学の諸問題を解決することを念頭に置き、植物遺伝育種学に関連する演習を実施する。</p>	
<p>環境地盤学特論</p>	<p>生産の基盤である農地は、高い土地生産性、労働生産性および保全性をあわせて持つ必要がある。このような特殊性を考慮した農地の造成、整備、保全の総合的な計画・設計システムおよび施工法について、担当教員は地盤環境工学的な観点から講義する。受講生は、農地の造成、整備、保全の総合的な計画・設計システムおよび施工法について理解し、国家公務員や地方公務員など農業農村工学に関わる専門上級職受験に必要な知識と技術を習得できることを目標とする。</p> <p>第 1回 粘土の物理・化学的性質と地盤工学的性質</p> <p>第 2回 土のコロイド現象の基礎と応用</p> <p>第 3回 粘土泥水の分散凝集および沈降特性</p> <p>第 4回 粘土地盤の原位置せん断強度特性</p> <p>第 5回 RCボックスカルバートの施工管理</p> <p>第 6回 粘土地盤の圧密沈下量の算定</p> <p>第 7回 差分法による圧密方程式の数値計算</p> <p>第 8回 講義の総括およびレポート作成</p>	

環境分析化学特論	<p>環境中の化学物質を検出する手法である「環境分析化学」について、とくにJIS法にもとづいた有機化学物質の定量法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化合物の定量に向けた分析の原理 (抽出) 2. 有機化合物の定量に向けた分析の原理 (クロマトグラフ) 3. 有機化合物の定量に向けた分析の原理 (質量分析) 4. 内部標準物質の利用法 (パソコンを利用した計算演習) (外部標準法) 5. 内部標準物質の利用法 (パソコンを利用した計算演習) (内部標準法) 6. 内部標準物質の利用法 (パソコンを利用した計算演習) (サロゲート法) 7. 内部標準物質の利用法 (パソコンを利用した計算演習) (まとめ) 8. 取りまとめ及びレポート作成 	
環境情報工学特論	<p>農地や自然環境下での諸現象 (土壌中の水分・養分の動態, 農業用水施設での水質変化など) の解析法, ならびにそれを再現するシミュレーションモデルの構築法について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回: 支配方程式の解法 第2回: プログラミングとアルゴリズム 第3回: フローチャート (1): 記号, 配列 第4回: フローチャート (2): 判断, 繰り返し 第5回: 差分法 (1): 差分近似 第6回: 差分法 (2): 初期値問題 第7回: 差分法 (3): 境界値問題 第8回: 支配方程式の差分化 	
施設農業生産学特論	<p>海外および日本の農業事情を比較しながら食糧生産の現状を概説し, 今後の食糧生産における園芸施設の役割を概説する。次に, 植物の生育と肥料成分の関係を説明し, 養液栽培技術の概説, 施設園芸に関連した環境特性及び制御手法を論じる。養液栽培や施設園芸の最新技術を理解し, 栽培に関連する研究や農業生産現場の改善に寄与する知識を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回: 養液栽培の定義と分類 2回: 根の機能と役割 3回: イオンと水の吸収メカニズム 4回: 培養液と必須栄養素 5回: 培養液の処方箋 6回: 養液栽培装置と方法: ロックウール栽培, 湛水耕栽培 7回: 養液栽培装置と方法: NFT, 礫耕栽培, 噴霧耕栽培 8回: 農業用温室と環境制御 	
生産情報処理学特論	<p>プログラム作成手法を学ぶ。 プログラム技術が一定のレベルに達した場合には, コンピュータによるシミュレーション手法についても講義を行う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プログラム作成の基礎知識 2 プログラム作成演習 3 課題解決のためのアプローチ 4 数値解析利用のための運動方程式の解説・演習 5 数値計算: 積分法 (台形法など) 6 数値解析法 (Newton法) 7 数値解析法 (微分方程式) 8 コンピュータを利用したシミュレーションの作成 	
先端情報技術学特論	<p>生物科学・農業生産における情報の取り扱いは重要であり, その処理においてデータベースの運用は必要なスキルであるため, データベースの基礎について学ぶ。</p> <p>データベース実践演習をおこなうことで, 基本的なデータ処理システムの構築におけるリレーショナルデータベースや派生技術などについて学習する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データベース概説 2 リレーショナルデータベースの設計 3 データベース構築演習 1 正規化について 4 データベース構築演習 2 リレーショナルデータベースの構築 5 データベースの運用演習 1 検索機能等 6 データベースの運用演習 2 クエリの利用 7 データベースの運用演習 3 フォームの利用 8 データベースの運用演習 4 レポートの作成 	
生産エンジニアリング特論	<p>農業生産の向上のため, アグリシステムエンジニアとして農産物評価のセンシング技術とIT技術の原理及び利用法について学習する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回: 光・温度についての基本理論 第2回: メカトロニクスにおける基本原理 第3回: メカトロニクスについての演習 第4回: 画像処理技術についての基本原理 第5回: 画像処理技術の応用 (穀物の判別等) 第6回: 温度等におけるセンシング技術 第7回: 穀物を対象とした非破壊検査法 第8回: アクチュエータの種類と利用法 	

農地環境工学特論	<p>土地利用計画には、その目的や対象地域などによって多用なものがある。担当教員は、農村地域における農地的及び都市的土地利用に対する適正を評価する手段として、多変量解析の意義とこれを利用する方法について講義する。受講生は、農地の造成、整備、保全の総合的な計画・設計システムおよび施工法について理解し、国家公務員や地方公務員など農業農村工学に関わる専門上級職受験に必要な知識と技術を習得できることを目標とする。</p> <p>第1回 農業農村工学におけるITの利用 第2回 写真測量概説(1) 第3回 写真測量概説(2) 第4回 多変量統計解析(重回帰分析) 第5回 多変量統計解析(主成分分析) 第6回 リモートセンシング概説 第7回 リモートセンシングを利用した土地利用分類演習 第8回 講義の総括およびレポート作成</p>	
先端環境分析化学特論	<p>環境中の化学物質を検出する手法である「環境分析化学」について、とくにJIS法にもとづいた有機化学物質の定量法について学ぶ。スライド映写、配付資料、および教科書を用いて講義を進め、毎回宿題と小テスト、パソコンを用いた演習を実施する。</p> <p>1 環境試料の濃度計算法(パソコンを利用した計算演習)(講義) 2 環境試料の濃度計算法(パソコンを利用した計算演習)(演習問題) 3 環境試料の濃度計算法(パソコンを利用した計算演習)(実データを用いた計算) 4 検出下限値の算出法(パソコンを利用した計算演習)(講義) 5 検出下限値の算出法(パソコンを利用した計算演習)(演習問題) 6 検出下限値の算出法(パソコンを利用した計算演習)(実データを用いた計算) 7 検出下限値の算出法(パソコンを利用した計算演習)(まとめ) 8 取りまとめ及びレポート作成</p>	
水資源計画学特論	<p>農業用水の確保と利用に関わる、水資源計画と流域管理、および気候変動や農業用水需要の予測等について講義する。</p> <p>第1回：世界の水資源分布と農業 第2回：水資源計画の策定 第3回：気候および水資源の変動 第4回：農業用水需要の予測 第5回：流出モデル 第6回：流域管理 第7回：水資源管理 第8回：総括</p>	
分光統計解析学特論	<p>近年、振動分光の解析法として多変量解析法が適用されるようになり、ケモメトリックスと呼ばれる新しいスペクトル解析分野が確立されている。そこで、近赤外分光法を例に取り上げながら、統計の基礎からケモメトリックスの実務習得を目指す。</p> <p>1) 振動分光の基礎、近赤外分光分析法の概要 2) ケモメトリックス～振動分光と多変量解析、基礎統計値の表現と定義 3) 多変量解析の概要～2変数以上のデータ 4) スペクトルの前処理と母集団の調整 5) 重回帰分析 6) 判別分析 7) 主成分分析 8) PLS回帰分析</p>	
土壌物理学特論	<p>本授業では、農業にとって必要な土壌物理学の理論と知識について説明を行う。基本的には、毎週の講義内容の計画に沿ってその内容について説明していくが、内容のポイントとなる箇所では、演習や小テスト等を行うこともある。近年における土壌物理学のホットな話題、困難な問題と将来への展望、水の性質(水分子の性質)、粒子表面近傍の水、土中水分の測定法、土中水のポテンシャルエネルギー、土中水ポテンシャルの成分、平衡系の解析等を行う。</p> <p>1 近年における土壌物理学のホットな話題、困難な問題と将来への展望 2 水の性質(水分子の性質) 3 粒子表面近傍の水 4 土中水分の測定法 5 土中水のポテンシャルエネルギー 6 土中水ポテンシャルの成分 7 平衡系の解析 8 土中水の移動</p>	
水環境工学特論	<p>水環境の保全に関わる技術者に必要な知識と技術を習得することを目的とし、水環境が人間生活や自然環境にもたらす機能と効果について述べ、その保全方法について講義する。</p> <p>第1回：水環境の構成要素 第2回：水環境と地域環境の関係 第3回：水環境の諸問題 第4回：水質項目と調査法 第5回：流出負荷量の推計方法 第6回：水質保全対策の計画 第7回：水辺環境施設の計画 第8回：水環境の保全方法に関する討議</p>	

農地農水計画学特論	<p>農業農村の現状と課題を踏まえて農村地域の土地利用および農地の機能などを適切に評価し、これを踏まえて農業農村の持続的発展を目指した計画論について講義する。</p> <p>第1回：農業農村の課題と農地の特質 第2回：土地利用計画論 第3回：農業農村の多面的機能 第4回：農村環境の保全と管理 第5回：農村における地域資源の概要 第6回：農村における地域資源の保全と利活用 第7回：農村における活性化方策と今後の展開 第8回：演習結果の発表・討論</p>	
生産地盤工学特論	<p>作物生産に適した農地環境を創出するためには、土壌とそれに隣接する空間内の水・エネルギー循環を理解することが必要である。本科目では、ゼミ形式による論文・専門書の講読・紹介・討論を行い、「不飽和土壌中の水分移動に関する理論と実際」について深く理解させる。</p> <p>第1回：飽和・不飽和透水係数 ダルシーの法則 第2回：不飽和水分移動式 リチャーズ式 第3回：水分移動特性関数モデル van Genuchtenのモデル、パラメータの最適化 第4回：感度解析 水分特性曲線 第5回：1次元数値シミュレーション(1) 初期条件, 境界条件, 差分法 第6回：1次元数値シミュレーション(2) 浸透, 蒸発散 第7回：2次元数値シミュレーション 2次元断面, 暗渠排水, 蒸発散 第8回：3次元数値シミュレーション 空間変動, 不均一性</p>	
浅海環境工学特論	<p>沿岸環境の現状と特徴を理解し、物理環境を中心とした、沿岸域における波、海水流動のメカニズム、内湾の海洋構造についての基本的な考え方を修得させるため、以下の項目について講義する。</p> <p>第1回：沿岸域で起こる海象 第2回：潮流と残差流 第3回：海水交換と滞留時間 第4回：水の波の理論(1) 波の基礎方程式 第5回：水の波の理論(2) 微小振幅波理論 第6回：水の波の理論(3) 長波, 深海波, 波のエネルギー 第7回：内湾の海洋構造 第8回：内湾の水圏生態系</p>	
先端地水学特論	<p>本授業では、農業にとって必要な土壌物理学の理論と知識について説明を行う。基本的には、毎週の講義内容の計画に沿ってその内容について説明していくが、内容のポイントとなる箇所では、演習や小テスト等を行うこともある。水ポテンシャルの各成分の測定、水分特性関数、毛管内の水の流れ、飽和土中の水分流れ、バッキンガム-ダルシーのフラックス則、不飽和透水係数、定常な水の流れの問題、全体の総括等について行う。</p> <p>1 水ポテンシャルの各成分の測定 2 水分特性関数 3 毛管内の水の流れ 4 飽和土中の水分流れ 5 バッキンガム-ダルシーのフラックス則 6 不飽和透水係数 7 定常な水の流れの問題 8 全体の総括</p>	
利水解析学特論	<p>農地防災、利水事業の計画に関わる技術者に必要な知識と技術を習得することを目的とし、農村地域を中心に水資源、水環境の保全について現状と課題を解説し、流出解析および水理学の応用について講義する。</p> <p>第1回：利水施設と治水施設 第2回：水文・水理観測手法 第3回：水文統計解析手法 第4回：流出解析手法 第5回：水理解析手法 第6回：浸水解析手法 第7回：水利水文解析のケーススタディ 第8回：治水・利水対策に関する討議</p>	
農用先端機械学特論	<p>農作業の機械化について、その基本原理・目的から先端的应用技術までを学習する。農学部在籍学生として、農業にかかわる機械について最低限の知識を持つこと。</p> <p>授業計画 第1回：農作業のプロセス(米麦：圃場における作業) 第2回：農作業のプロセス(米麦：収穫後における作業) 第3回：圃場における各種作業機械の構造と原理(トラクタ他) 第4回：収穫時・収穫後の各種作業機械の構造と原理(収穫・乾燥調製他) 第5回：精密農法について 第6回：リモートセンシング技術の応用 第7回：情報技術の活用 第7.5回 センサ技術の原理</p>	

<p>応用水文学特論</p>	<p>圃場レベルから広域レベルに至る農業水利システムを適切に設計するために、理論解析とコンピュータによる数値解析手法について講義する。 第1回：用水計画の基礎理論 第2回：圃場レベルにおける農業用水（水田）の計画・設計 第3回：広域レベルにおける農業用水（水田）の計画・設計 第4回：農業用水（水田）の計画・設計における数値解析手法 第5回：圃場レベルにおける農業用水（畑）の計画・設計 第6回：広域レベルにおける農業用水（畑）の計画・設計 第7回：農業用水（畑）の計画・設計における数値解析手法 第8回：演習結果の発表・討論</p>	
<p>土質工学特論</p>	<p>地域生活・産業を支える土壌は、岩石の風化プロセスや堆積環境の差異によって、異なる土質工学的性質を示す。本科目では、土壌の地球化学および鉱物学的性質、特にミクロスケールの土壌コロイド粒子がマクロスケールの土壌の物理化学性に及ぼす効果に着目し、それらと地域の水利・地理・地質特性とを考慮した最新の土壌（地盤）の管理法について学習する。 第1回：土壌のコロイド現象の基礎 佐賀の地盤沈下、諫早干拓問題 第2回：コロイド粒子の化学構造・荷電特性 化学組成・構造、鉱物学的性質 第3回：コロイド粒子の形と大きさ、コロイドの役割 物理的・化学的風化作用、荷電特性 第4回：土壌のコロイドの界面化学 拡散二重層理論、分子間力 第5回：土壌のコロイドの電磁物性 土壌電磁物性 第6回：粘土地盤の工学的性質に及ぼすコロイドの寄与 クイックレイ問題、土壌塩類化 第7回：コロイドから見た土の水文循環 微気象、水文流動、不均一性、空間統計 第8回：土壌のコロイドの測定 宇宙線測定、マイクロ波分光、電磁探査</p>	
<p>干潟生態環境学特論</p>	<p>干潟の現状と特徴を理解し、生態環境工学的な視点から、干潟の生態系、多面的機能、物質循環についての基本的な考え方を修得させるため、以下の項目について講義する。 第1回：国内外の干潟の現状 第2回：干潟の多面的機能について 第3回：干潟の生態系について 第4回：干潟の種類と生物相について 第5回：東よか干潟におけるマクロベントス相について 第6回：干潟の物質循環について（1）「Bioturbation, マクロベントス, 潮汐」 第7回：干潟の物質循環について（2）「窒素循環, 硝化, 脱窒, アナモックス」 第8回：干潟のワイズユースについて</p>	
<p>農業気象学特論</p>	<p>植物の生育には、種々の環境因子（光、温度、水、大気、土壌など）が影響している。また、植物はこれらの環境因子を巧みに利用して成長している。環境因子に対する植物の生育応答を適切に把握するための一つの手段として、農業気象学的要因について講義する。種々の環境因子が複雑に絡み合い、環境の変化が植物の代謝などにどのように影響し、生育が左右されるのかを受講生が習得できることを目標とする。 1 気象水文学とは 2 地球上のエネルギー収支 3 大気大循環、水の大循環 4 気象熱力学 5 大気の成層安定度 6 雲と降水 7 降水を伴う現象（積乱雲～台風） 8 取りまとめ及びレポート作成</p>	

専門科目

<p>食資源環境科学特別演習 I</p>	<p>食資源環境科学コースの各分野において、教員は専門分野に関連する英語論文購読指導、論文作成指導等を適時行う。修士論文研究（特別研究）と併せて、受講生は問題発見能力と問題解決能力の訓練を行う。</p> <p>（ 1 長 裕幸） 数理科学的手法を用いて、土壤環境科学の課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 13 近藤 文義） 石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したりサイクル材料に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 18 田中 宗浩）バイオマス及び食資源の品質評価に必要となる分析及び解析理論に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 23 稲葉 繁樹） 農業における機械・情報通信技術についての論文講読における指導を行う。</p> <p>（ 38 阿南 光政） 水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 33 上野 大介） 農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。</p> <p>（ 30 郡山 益実） 内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 29 原口 智和） 地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 37 宮本 英揮） 土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壤環境制御に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 34 弓削 こずえ） 食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。</p>
<p>食資源環境科学特別演習 II</p>	<p>食資源環境科学特別演習 I に引き続き、食資源環境科学コースの各分野において、教員は専門分野に関連する英語論文購読指導、論文作成指導等を適時行う。修士論文研究（特別研究）と併せて、受講生は問題発見能力と問題解決能力の訓練を行う。</p> <p>（ 1 長 裕幸） 数理科学的手法を用いて、土壤環境科学の課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 13 近藤 文義） 石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したりサイクル材料に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 18 田中 宗浩）バイオマス及び食資源の品質評価に必要となる分析及び解析理論に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 23 稲葉 繁樹） 農業における機械・情報通信技術についての論文講読における指導を行う。</p> <p>（ 38 阿南 光政） 水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 33 上野 大介） 農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。</p> <p>（ 30 郡山 益実） 内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 29 原口 智和） 地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 37 宮本 英揮） 土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壤環境制御に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 34 弓削 こずえ） 食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。</p>

<p>食資源環境科学特別演習Ⅲ</p>	<p>食資源環境科学特別演習Ⅱに引き続き、食資源環境科学コースの各分野において、教員は専門分野に関連する英語論文購読指導、論文作成指導等を適時行う。修士論文研究（特別研究）と併せて、受講生は問題発見能力と問題解決能力の訓練を行う。</p> <p>（ 1 長 裕幸） 数理科学的手法を用いて、土壤環境科学の課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 13 近藤 文義） 石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したりサイクル材料に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 18 田中 宗浩）バイオマス及び食資源の品質評価に必要となる分析及び解析理論に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 23 稲葉 繁樹） 農業における機械・情報通信技術についての論文講読における指導を行う。</p> <p>（ 38 阿南 光政） 水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 33 上野 大介） 農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。</p> <p>（ 30 郡山 益実） 内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 29 原口 智和） 地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 37 宮本 英揮） 土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壤環境制御に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 34 弓削 こずえ） 食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。</p>	
<p>食資源環境科学特別演習Ⅳ</p>	<p>食資源環境科学特別演習Ⅲに引き続き、食資源環境科学コースの各分野において、教員は専門分野に関連する英語論文購読指導、論文作成指導等を適時行う。修士論文研究（特別研究）と併せて、受講生は問題発見能力と問題解決能力の訓練を行う。</p> <p>（ 1 長 裕幸） 数理科学的手法を用いて、土壤環境科学の課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 13 近藤 文義） 石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したりサイクル材料に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 18 田中 宗浩）バイオマス及び食資源の品質評価に必要となる分析及び解析理論に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 23 稲葉 繁樹） 農業における機械・情報通信技術についての論文講読における指導を行う。</p> <p>（ 38 阿南 光政） 水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 33 上野 大介） 農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。</p> <p>（ 30 郡山 益実） 内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>（ 29 原口 智和） 地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 37 宮本 英揮） 土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壤環境制御に関する研究指導を行う。</p> <p>（ 34 弓削 こずえ） 食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。</p>	
<p>生化学特論</p>	<p>生化学は、生命現象を化学的に分子レベルで解明・理解しようとする学問である。本特論では、代謝、代謝調節および情報伝達に関わるタンパク質を対象として、それらの分子構造に基づいて機能発現機構を明らかにするための研究手法と成果について理解することを目的とする。</p> <p>到達目標：1. 代謝、代謝調節および情報伝達に関わるタンパク質の構造と機能の関係を理解する。2. 上記タンパク質分子の構造解析法について理解する。3. タンパク質の構造に基づいて機能発現機構を明らかにするための研究手法について理解する。</p>	

タンパク質科学特論	<p>生命現象の根幹となる働きを担うタンパク質分子の構造と機能発現機構およびその応用に関する研究成果について学ぶ。講義と演習を組み合わせることで授業を進める。各テーマに関する背景や基礎的内容を理解できるように生化学テキストを使用して授業を行う。次に、各受講生が各テーマに関わるタンパク質の機能発現機構を明らかにした原著論文を選び、その研究手法、成果、考察、問題点について発表し、クラス全体で討論する。</p> <p>到達目標：1. 立体構造が明らかにされたタンパク質の構造と機能の関係を理解し説明できる。2. タンパク質の溶液中での構造解析法と結晶構造解析法について理解し説明できる。3. タンパク質の機能発現機構を明らかにするための研究手法について理解し説明できる。4. 本講義で習得した内容を自分の研究に役立てることができる。</p>
微生物遺伝学特論	<p>微生物の遺伝にもとづいて、特に遺伝子発現の制御によって原核生物および真核微生物の様々な細胞がどのように環境適応して生育しているのか、またいかに進化しているのかを解説する。微生物遺伝、特に遺伝子発現の制御機構とそれに起因する微生物生理現象を理解することを目標としている。</p>
真核微生物学特論	<p>Aspergillus 属糸状菌を構成する麹菌は酒類、味噌、醤油などの発酵食品製造に使用される重要な真核微生物である。麹菌はその安全性及び高い酵素分泌生産能力の観点から、発酵食品製造のための微生物としてだけでなく、物質生産微生物としての活用が期待されている。本講義では麹菌の生育、分化、代謝生理に関する基礎的知見と物質生産における応用的実践例について講義する。</p>
応用微生物学特論	<p>応用微生物学の最終目標は生物化学工学や微生物工学等における微生物の先端的利用である。本講義では、生物化学工学や微生物工学についてより深い知識を習得することを目的とし、それらの詳細について講義を行うとともに、生物反応工学及び生物反応プロセス制御についても解説する。微生物利用に関する最新の技術を英文論文を中心に紹介・討論させ、先端的知識を習得させるとともに微生物工業関連研究の遂行に関するさまざまな知識を身につけさせる。これらの方法論に関する素養を高めるため、最先端の知見と実験技術について、最新の原著論文について受講生自らが紹介・発表する機会も設ける。</p>
微生物学特論	<p>微生物を応用する上では微生物の特徴を十分に理解しなければならない。その特徴を把握してこそ、発酵工業における微生物の先端的利用が可能となる。本講義では、発酵工業に応用する微生物の生理学的特徴についてより深い知識を習得することを目的とし、それらの詳細について講義を行うとともに、生理学的特徴に基づく分離方法や培養方法についても解説する。微生物利用に関する最新の技術を英文論文を中心に紹介・討論させ、先端的知識を習得させるとともに応用研究の遂行に関するさまざまな知識を身につけさせる。これらの方法論に関する素養を高めるため、最先端の知見と実験技術について、最新の原著論文について受講生自らが紹介・発表する機会も設ける。</p>
生物有機化学特論	<p>生命現象の研究は、対象としている生体分子の変化や影響を捉えそれを理解することである。生体分子のほとんどは有機化合物であることから、研究結果のより深い解釈のためには、変化や影響を有機化学的に理解することも必要である。また、用いる測定法の化学的・物理的理解も結果解釈のために重要である。本講義は、生体分子の研究に対する有機化学的視点を得ること、測定法の化学的性質や物理的原理の理解を得ることを、目標としている。</p>
分子生物学特論	<p>タンパク質・糖質・脂質・核酸などの生体分子はそれぞれが特有の機能を発揮する。そして、各生体分子が機能を発揮するにはそれらの構造や化学的性質などが有効に利用されている。それゆえ、生体分子の研究は『分子』の特徴を理解することが重要となる。本講義は、各生体分子の『分子』としての特徴がどのように生命現象に結びついているかを理解し、修士課程における各人の研究の分子生物学における位置づけを確認することを目的としている。</p>
バイオセンシング特論	<p>バイオセンシングは、食品分野をはじめとする様々な分野で非常に重要である。本講義では、まずバイオセンサーの中心となっている、電気化学に立脚したバイオセンサーについて述べる。すなわち、化学センサーの原理から、歴史あるバイオセンサーであるグルコースセンサーの基礎と応用、これから発展した微生物センサーについて講義する。また、より新しいバイオセンサーであるSPRセンサーやQCMバイオセンサー、DNAチップ等についても食品分野での応用例を中心に講義する。</p>
バイオ材料特論	<p>生命プロセスを担う生体分子は、従来にない新たな高機能材料の素材と成り得る。一方で、生命機能に作用する重要な人工材料も存在する。本講義では、生体分子と人工物質を組み合わせたバイオ材料を中心に、現在盛んに開発されている多種多様なバイオ材料の基礎と応用について講述する。より具体的には、バイオ材料の定義、遺伝子工学及びタンパク質工学とバイオ材料の関わり、バイオ材料の開発指針から、生物由来分子を基材とする多様なバイオ材料について、最新の話題も含めながら講義する。</p>
分子細胞生物学特論	<p>分子細胞生物学の中でも、高速シーケンサーを活用したゲノムのデータの解析について講義する。そのことで、最先端技術であるゲノミクスを教育・研究現場に生かすための即戦力を身につける。具体的には、「ゲノムとは?」、「DNA・アミノ酸配列の整列」、「高速シーケンサーの原理」、「オペレーティングシステムLinuxの基礎」、「オペレーティングシステムLinuxの発展的基礎」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較(マッピング)」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較(SNVの検出)」、「高速DNAシーケンサーにより得られたDNAデータのアセンブリ」について、実際に端末に触れながら講義する。</p>

細胞情報学特論	分子細胞生物学の中でも、高速シーケンサーを活用したトランスクリプトームのデータの解析について講義する。そのことで、最先端技術であるトランスクリプトミクスを教育・研究現場に生かすための即戦力を身につける。具体的には、「トランスクリプトームとは?」、「データサイエンス向けプログラミング言語Rの基礎と応用」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較(マッピング)」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較(発現量比較)」、「高速DNAシーケンサーにより得られたRNAデータのアセンブリ」、「遺伝子オントロジー解析」、「パスウェイ解析」について、実際に端末に触れながら講義する。
食品生化学特論	収穫された食品内では様々な化学反応が生じて品質が変化していく。本講義では特に魚介類と園芸作物に着目し、収穫後の生理変化とその防止法を講義する。魚介類については、死後変化(死後硬直・解硬・自己消化・腐敗)、鮮度保持(蓄養・凍結保存)、成分(タンパク質・脂質・糖質)の加工貯蔵中の鮮度保持を講義する。また、園芸作物においては収穫後生理(蒸散・呼吸等)、野菜・果実の貯蔵(温度制御・ガス制御)に着目して講義する。
食糧流通貯蔵学特論	加工食品の製造において、殺菌は微生物学的安定性のみならず品質にも影響を及ぼす重要な工程である。本講義では食品の微生物制御の考え方および関連する技術について解説し、微生物学的安定性を保持する方法を理解することを目標とする。具体的には、食品微生物、殺菌工学・静菌、殺菌に関する近年の研究動向、微生物の付着とバイオフィーム、微生物制御と包装について講義を行う。さらに、これらに関する論文について受講生が発表する機会を設ける。
食品科学工学特論	本講義では、食品製造に於ける基本的単位操作についてより深い知識を習得することを目的とし、熱移動、乾燥、濃縮凍結・解凍、流体輸送、分離、殺菌などについて講述するが、単なる座学とならないように受講生自らが発表する機会を設ける。 特に、食品産業は装置産業であり、かつ衛生面を主とした安全性が要求されることから、単なる化学工学的知識のみでなく、素材の特性や物性、微生物管理まで含めた幅広い知識が必要となる。本講義ではこれらに関する単位操作の習得を目的としている。
バイオマス利用特論	バイオマスは化石資源を除く生物由来の資源で、再生可能であることから適切に使用する限り環境への負荷が少なく、将来、その利用が必須となる重要な資源である。本講義では、バイオマスの基礎、バイオマスの賦存量、バイオマスの利用法などについて講述し、バイオマスの特性と利用展開法を習得することを目的としている。
海洋資源化学特論	本講では、海洋生物を食糧資源および機能成分の供給源としてとらえ、これらの特徴について講義を行う。陸上での食糧資源の開発はほぼ限界に達し、環境の悪化が速やかに進行しつつある。このような状況下では、広大な面積を占める海洋から得られる資源をより有効に利用することが求められている。このような状況下で、海洋資源に関する化学的な理解を得ることを目的とする。
グリコバイオロジー特論	糖鎖を構成する単糖の種類、複合糖質の種類、基本的な糖鎖構造およびそれらの機能について講義を行う。単糖のつながりによって構成される糖鎖に含まれる様々な生物情報を解明し、これを生物学の新しい知識として取り込んで誕生した新しい学問領域がグリコバイオロジー(糖鎖生物学)である。グリコバイオロジーに関する基本的な理解を得ることを目的にする。
バイオメンブレン機能特論	SingerとNicolsonは、1972年に流動モザイクモデルを提唱した。この細胞膜のモデルが発表されて、40年ほど経ったが、細胞膜に機能は未だに解明されていない。本講義では、細胞膜を構成する極性脂質や、細胞膜上に発現する膜タンパク質の機能から、細胞膜の持つ機能を議論する事を目的とする。最新の研究論文を読み込み、断片的に散らばった情報から、体系的な情報へと変換する術を学ぶ。受講生には、プレゼンテーションを科し、自らが理解した事を、第三者に正確に伝える能力も養う。
食糧安全学特論	近年、様々な場面で食品の安全性が問題になっている。担当教官は、その安全性を脅かす因子やさらに安全性を科学的に担保する方法に関して、課題を出し、受講生と共に最近の知見から討論する。急性毒性や、明らかに体に害を与える物質は、その使用に関して法令上の規制が存在する。本講義で受講生は、原著論文を読み込むことで、その危険性をどのように科学的に示すべきかを議論し学ぶ。さらに受講生は、プレゼンテーションを通じて自らが理解した事を、第三者に正確に伝える能力も養う。
分子栄養学特論	基礎的な食品成分の栄養機能性から最近の分子栄養学まで講義し、健康を維持・増進し病気を予防するための栄養成分の栄養生化学および代謝調節機構について議論を深める事を目的とする。栄養学や食品機能化学についてより深い知識を習得することを旨とし、より理解度を高めるために、最近の原著論文について受講生自らが紹介・発表する。
脂質生化学特論	生体内における脂質の生理学的役割などについて講義し、健康の維持や病態発症における脂質代謝変動の重要性について議論を深める事を目的とする。脂質代謝と健康についてより深い知識を習得することを旨とし、より理解度を高めるために、最近の原著論文について受講生自らが紹介・発表する。

生命機能科学特別演習 I	受講学生が各自の特別研究のテーマに関係する最近の文献あるいは過去の研究をまとめて発表要旨とプレゼンテーションにより紹介する。発表要旨とプレゼンテーションの内容等については、受講者全員で総合的に討議する。このことを通じて、学生の研究意識を高めると同時に、プレゼンテーション能力を高める。本演習の到達目標は、生命機能科学に関する知識と研究手法を習得すること、並びに得られた知識を自らの研究活動に活用することである。	
生命機能科学特別演習 II	受講学生が各自の特別研究のテーマに関係する最近の文献あるいは過去の研究をまとめて発表要旨とプレゼンテーションにより紹介する。発表要旨とプレゼンテーションの内容等については、受講者全員で総合的に討議する。このことを通じて、学生の研究意識を高めると同時に、プレゼンテーション能力を高める。本演習の到達目標は、生命機能科学に関する知識と研究手法を習得すること、並びに得られた知識を自らの研究活動に活用することである。なお、受講学生は、自身が生命機能科学特別演習 I で選択したものは別の文献を紹介し、更にプレゼンテーション能力を高める。	
農業経済学特論	<p>(概要) 食料・農業問題の諸相とそれを説明する理論モデルを解説する。それをもとに受講者との討議を通じて、日本における現在の食料・農業問題の発生の経緯と今後の進展方向について検討する。</p> <p>(単独/全8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代世界の農業問題 (経済発展段階と食料需給構造, 農工間の不均衡成長, 農業問題) 2. 食料問題の理論 (食料問題のモデル, 経済発展モデルと食料問題) 3. 農業調整問題の理論 (国際貿易における比較優位と農業調整問題, 農業保護政策) 4. 農業成長と食料問題 (日本農業の成長のマクロ的展望, 稲作技術の開発と普及, 緑の革命) 5. 経済発展と農業問題の転換 (経済発展と農業の地位, 農業政策の変質, 農地改革) 6. 先進国段階の農業保護 (農業保護の手段, 戦後日本の農業保護の特徴, 経済のグローバル化と農業保護) 7. 価格政策の課題 (農産物価格支持政策の功罪と再検討) 8. 構造政策の課題 (農地制度, M技術進歩, 経営規模拡大の方策) <p>定期試験</p>	
農業ビジネスマネジメント特論	<p>(概要) 農学の知識と方法を現実の農業経営に応用する際の諸問題を具体的に認識し、それら諸問題の解決に臨むにあたって農業経営者が備えるべき素養と果たす役割について理解を深める。また、実践的な農業経営マニュアルの構成を理解し、実際の農業経営に適合するマニュアルを完成させることができるようになることをめざす。</p> <p>(単独/全8回) (集中)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成功する農業経営者の条件 (農業経営者に求められる諸能力) 2. 戦略的マネジメント (1) (未来のためのプランニング, 農業への新規参入) 3. 戦略的マネジメント (2) (規模拡大計画, 競争優位の決定要因) 4. 財務分析手法と予算計画 (農業会計情報の分析, 資金調達計画) 5. 経営資源の調達と管理 (ビジネスパートナーの選択と組織化) 6. 経営管理と環境への対応 (PEST分析, SWOT分析, ビジネスモデル) 7. 経営サービス (農業経営の事業領域拡大計画) 8. 成功事例の分析—ケーススタディー— (条件に応じた農業経営マニュアルの修正) <p>定期試験</p>	
アジア比較農業特論	<p>(概要) 経済発展に伴って生じる農業・農村の変容を理論的に理解し、経済発展段階や農業生産条件の異なる諸外国の農業生産力の担い手 (農業企業体) の動向を学び、アジアの特殊性について考察する。</p> <p>(単独/全8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済発展と農業・農村の変容 (農業の相対的縮小, 農業の過剰就業, 構造変化モデル) 2. 東アジアの農業企業体 (1) (高度工業化国日本の農業企業体) 3. 東アジアの農業企業体 (2) (市場移行国中国の農業企業体) 4. 東南アジアの農業企業体 (農業投資が加速するベトナムの農業企業体) 5. 北米の農業企業体 (農業大国アメリカの農業企業体) 6. 中米の農業企業体 (NAFTA下メキシコの農業企業体) 7. 南米の農業企業体 (新興国ブラジルの農業と農業企業体) 8. まとめ (中所得国の畷と農業経営体の変容) <p>定期試験</p>	

<p>食料市場流通特論</p>	<p>(概要) 国際農産物市場を対象に市場関係、市場編成、市場対応について学習し、農産物市場問題の理解を深め、農業経済政策を考察する。現在、WTO体制下、FTA, EPAが各国間・地域間で展開し、TPPへの動きもみられる。国際的な貿易体制の枠組みを理解し、日本農業の市場対応について検討する。 (単独/全8回) 1. WTO体制下の経済のグローバリゼーションと多国籍企業の行動 2. 規制緩和と食品衛生史 3. 国際的食糧問題とジャングル開発, ランドラッシュ 4. 緑の革命, 国際農業の近代化と資源環境問題 5. 遺伝子組換え作物とその貿易 —輸入・輸出国での食料・環境問題— 6. 青果物の市場構造と市場対応 —流通チャネル対応と製品対応— 7. 食品市場対応 —流通チャネル対応と製品対応— 8. 小売り量販店の品揃え・小売戦略とその特徴 参考書等 中野一新編『アグリビジネス論』有斐閣ブックス</p>	
<p>国際・地域協同組合特論</p>	<p>(概要) 1995年以降、WTO体制下、多国籍企業は巨大なビジネスチャンスを得て、国際的な市場シェアと独占度を高めた。この間、国際的な貧富の格差拡大、慢性的な栄養不足人口の増大、ジャングル開発と地球温暖化、遺伝子組換え作物栽培の拡大などが進展し、環境問題や食の安全性問題などが深刻化し、人類が制御不可能な環境問題に直面した。国連は、協同組合を「協同組合が有する貧困削減や仕事創出など社会経済への貢献機能」面も高く評価して、2012年を国際協同組合年とした。国際連合教育科学文化機関は、2016年11月、協同組合を「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」としてユネスコ「無形文化遺産」に登録した。現在、協同組合への評価は拡張して国際的潮流となり、国連は「協同組合の役割・機能を再認識し、協同組合へ積極的に参加し活動しましょう」と呼びかけている。その意図を考察する。 (単独/全8回) 1. 協同組合の今日的意義：本授業の目的と課題、講義概要の説明 2. 世界協同組合の歴史①：競争と協同 3. 世界協同組合の歴史②：各国の協同組合の歴史的検討とその特質 4. 東南アジア、アフリカの農協：スリランカ、バングラデシュ、マダガスカル 5. 東アジアの農協：中国、韓国、台湾の農協 6. 日本協同組合の歴史①：その源流と産業組合 7. 日本協同組合の歴史②：日本協同組合の現状 8. 協同組合と株式会社とNPO：組織原理や経営原理 参考書等 日本協同組合学会訳編『21世紀の協同組合原則』日本経済評論社 日本協同組合学会訳編『ILO・国連の協同組合政策と日本』日本経済評論社など</p>	
<p>地域農業オーガニゼーション特論</p>	<p>(概要) 佐賀県の事例を対象に、地域農業の担い手と目される「集落営農」に関する検証作業を行う。佐賀県における地域農業の有り様とそのメカニズムを理解できるようになることが目的である。テキスト・報告書を使用し、講義と討論を組み合わせる。 (単独/全8回) 第1回 佐賀県農業の歴史—(新)佐賀段階— 第2回 佐賀県における地域農業類型—①平坦②山間・山麓③台地— 第3回 上場台地農業の発展—実態と要因— 第4回 肉用牛経営の展開 第5回 茶業の展開—佐賀は茶どころ— 第6回 葉タバコ経営の展開—その変動— 第7回 酪農の展開—酪農危機と模索— 第8回 全国の地域農業組織 参考書：『集落営農に支えられた佐賀県農業』、『集落営農の再編と水田農業の担い手』、『進化する集落営農』、『食料・農業・農村白書』</p>	
<p>比較農政学特論</p>	<p>(概要) 農政転換の検討と佐賀県農業の現在・過去の検証を行う。国民的視点から、日本の農業転換の意味、およびその具体的な影響を、佐賀県の事例を通して理解できるようになることが目的である。テキスト・報告書を使用し、講義と討論を組み合わせる。 (単独/全8回) 第1回 ガイダンス (日本の農業政策の流れ) 第2回 明治期以降の農業政策と農業構造の変容—「佐賀段階」に注目して— 第3回 戦後の農業政策と農業構造の変化—「新佐賀段階」に注目して— 第4回 TPPの顛末と今後の展望 第5回 2015年センサスと地域農業の担い手①—集落営農— 第6回 2015年センサスと地域農業の担い手②—個別大規模経営・法人— 第7回 佐賀県における日本酒論—あらたな挑戦・対応、佐賀大学の地域貢献— 第8回 佐賀県における日本酒論—杜氏論—地域農業類型論— 参考書：『食料・農業・農村白書』、『戦後レジームからの脱却農政』、『米政策の転換』、『佐賀農漁業の近現代史』、『地域農業構造変動論』</p>	

農村社会学特論	<p>(概要) 農村の地域資源管理および生活環境管理に関して、農村社会学および環境社会学的な側面から理解するための視野を養う。 (単独、全8回) 第1回：水管理とコミュニティ 第2回：山の管理とコミュニティ 第3回：農山村の生活問題 第4回：祭祀と組織 第5回：野生動物とコミュニティ 第6回：獣害とコミュニティ 第7回：学生による事例報告と討論(災害) 第8回：学生による事例報告と討論(資源利用)</p>	
人間生態学特論	<p>(概要) 人間生態学あるいは人類生態学のテーマである「ヒト個体群と環境との相互作用」に関する著書本や最近の雑誌から論文を選び輪読する。学生が担当箇所をまとめて発表し、その後に討論することを基本とする講義形式とする。これにより人類生態学の考え方が理解でき、また応用科学としての人類生態学の様々な展開を見ることが出来る。 (単独 全8回) 1～7回 人類生態学の諸問題(ヒト個体群と環境との相互作用, ヒトの適応能)を扱っている論文・著書を輪読し、地域・生業別に、環境・健康問題を詳細に記述・分析し、それらの解決策や提言を討論する。8回、まとめ</p>	
国際環境マネジメント特論	<p>(概要) 水・空気・土壌などの人類の生存に必須の環境の劣化は特に途上国の都市や農村だけの問題ではなく、農作物やそのグローバルゼーションを通して自国の都市や他国にも大きな影響を与えている。本講義では、国際的な視野での環境劣化とそのマネジメントについて、最近の著書や論文を紹介する。基本的に学生は担当箇所をまとめて発表し、その後に受講者全員が討論する講義形式で内容を深めていきたい。 (兼担 全8回) 1～7回 国際的な場で環境劣化と保全に関する著書あるいは論文を輪読する。アジアを中心とした世界各地での環境マネジメントの様々な展開を見て討論することで、その重要性を理解する。8回、まとめ</p>	
地域資源マネジメント特論	<p>(概要) 農地資源・水資源・森林資源等の農山村地域における地域資源の利用と管理のシステムについて理解し、その持続的なマネジメントのあり方について習得することを目的とする。国内外の事例研究を踏まえた報告および討議も行う。 (単独/全8回) 1 農地資源の開発と利用・管理システム(干拓地), 2 農地資源の開発と利用・管理システム(棚田), 3 水資源の開発と利用システム(河川灌漑), 4 水資源の開発と利用システム(溜池・ダム灌漑), 5 森林資源の開発と利用・管理システム(里山), 6 森林資源の開発と利用・管理システム(人工林), 7 地域資源の保全と管理・活用(地域振興), 8 まとめと討論</p>	
農村地理学特論	<p>(概要) 現代農村の地理学的課題について、農村人口、景観と環境の変遷史およびその保全と活用、地域資源の持続可能な利用、農村コミュニティの活性化等に焦点を当て、ポスト生産力主義の視点からその特色について講義する。 (単独/全8回) 1 農村人口の特性(過疎化と混住化), 2 農村景観の構造と機能, 3 農村景観の変遷史と保全, 4 農村景観の活用とルーラルツーリズム, 5 農村コミュニティの特性と地域資源管理, 6 農村コミュニティの活性化と地域振興, 7 農村景観の商品化と多就業化, 8 まとめと討論</p>	
ルーラル・デベロップメント特論	<p>(概要) 日本および世界の農山漁村について地域社会的な側面から理解するために、農村に関する基礎知識および最新の研究論文の動向について講義する。 (単独、全8回) 第1回：地域コミュニティとは 第2回：日本の村落社会 第3回：家族と農林漁業 第4回：都市と農村の関係 第5回：農山漁村と環境 第6回：グローバル化と農村・農業 第7回：具体事例 第8回：具体的な事例をふまえての討論</p>	

生態人類学特論	<p>(概要) 世界各地における諸集団の生き方と生業（なりわい）を具体的な事例として学び、集団の「環境への文化的適応」という視点から、人間の生き方の多様性についての人類学的な理解を深める。質疑応答を含む講義形式で行う。適宜、パワーポイントや映像資料等を用いる。 (単独/全8回) 1 インTRODクシヨ 2 生態人類学 基礎1 3 生態人類学 基礎2 4 生態人類学 基礎3 5 生態人類学 応用1 自然資源利用 6 生態人類学 応用2 農耕民 7 生態人類学 応用3 狩猟採集民 8 まとめ</p>	
アジア地誌特論	<p>アジア地誌特論（中井） (概要) 地誌学的な視点から、アジアの諸地域における自然資源利用について考える。質疑応答を含む講義形式で行う。適宜、パワーポイントや映像資料等を用いる。 (単独/全8回) 1 インTRODクシヨ 2 地誌学 基礎1 3 地誌学 基礎2 4 地誌学 基礎3 5 地誌学 応用1 自然資源利用 6 地誌学 応用2 東南アジア 7 地誌学 応用3 日本 8 まとめ</p>	
国際・地域マネジメント演習Ⅰ	<p>(概要) 先行研究を検討して、研究計画を立案する。必要に応じて現地調査を行い、一次および二次資料を収集する。その後、集めた資料を整理・分析して成果をまとめる。成果がまとまり次第、報告・討論を行う。 (クラス分け/全15回) (2 稲岡 司) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人類生態学の視点から研究指導を行う。 (9 五十嵐 勉) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人文地理学の視点から研究指導を行う。 (24 辻 一成) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農業経営学の視点から研究指導を行う。 (25 藤村 美徳) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農村社会学の視点から研究指導を行う。 (39 中井 信介) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、生態人類学の視点から研究指導を行う。</p>	
国際・地域マネジメント演習Ⅱ	<p>(概要) 国際・地域マネジメント演習Ⅰに引き続き、調査と成果報告・討論を繰り返す。 (クラス分け/全15回) (2 稲岡 司) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人類生態学の視点から研究指導を行う。 (9 五十嵐 勉) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人文地理学の視点から研究指導を行う。 (24 辻 一成) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農業経営学の視点から研究指導を行う。 (25 藤村 美徳) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農村社会学の視点から研究指導を行う。 (39 中井 信介) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、生態人類学の視点から研究指導を行う。</p>	

<p>国際・地域マネジメント演習Ⅲ</p>	<p>(概要) 国際・地域マネジメント演習Ⅱに引き続き、調査と成果報告・討論を繰り返す。 (クラス分け/全15回) (2 稲岡 司) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人類生態学の視点から研究指導を行う。 (9 五十嵐 勉) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人文地理学の視点から研究指導を行う。 (24 辻 一成) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農業経営学の視点から研究指導を行う。 (25 藤村 美穂) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農村社会学の視点から研究指導を行う。 (39 中井 信介) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、生態人類学の視点から研究指導を行う。</p>	
<p>国際・地域マネジメント演習Ⅳ</p>	<p>(概要) 国際・地域マネジメント演習Ⅲに引き続き、調査と成果報告・討論を繰り返す。 (クラス分け/全15回) (2 稲岡 司) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人類生態学の視点から研究指導を行う。 (9 五十嵐 勉) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、人文地理学の視点から研究指導を行う。 (24 辻 一成) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農業経営学の視点から研究指導を行う。 (25 藤村 美穂) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、農村社会学の視点から研究指導を行う。 (39 中井 信介) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題について、生態人類学の視点から研究指導を行う。</p>	
<p>特別研究Ⅰ</p>	<p>設定した修士論文の研究課題に関して、研究の背景や意義を理解した上で研究計画を立案し、研究を実施する。また、既往の研究調査を整理し、基礎的な調査手法・実験手法を修得する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。 (3 有馬 進) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、食用作物の生理生態の解明と栽培技術に関連する課題の研究指導を行う。 (4 野間口真太郎) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動生態学と関連する課題の研究指導を行う。 (5 早川洋一) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、昆虫学と関連する課題の研究指導を行う。 (6 和田康彦) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物遺伝育種学と関連する課題の研究指導を行う。 (8 大島一里) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、農作物のウイルス病と関連する課題の研究指導を行う。 (10 鄭 紹輝) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物の生産生理に関連する課題の研究指導を行う。 (14 一色司郎) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、野菜園芸学と関連する課題の研究指導を行う。 (15 穴井 豊昭) 生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物分子育種学と関連する課題の研究指導を行う。</p>	

特別研究 I

(17 鈴木章弘)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、作物生理学と関連する課題の研究指導を行う。

(22 上埜喜八)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、循環型農業に関連する課題の研究指導を行う。

(26 草場基章)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物病理学、特に糸状菌病害と関連する課題の研究指導を行う。

(27 吉賀豊司)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、線虫学と関連する課題の研究指導を行う。

(28 福田伸二)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、果樹栽培・育種と関連する課題の研究指導を行う。

(32 江原史雄)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動管理学と関連する課題の研究指導を行う。

(35 徳田 誠)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、システム生態学と関連する課題の研究指導を行う。

(36 辻田 有紀)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、花卉園芸学と関連する課題の研究指導を行う。

(40 藤田大輔)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物改良学と関連する課題の研究指導を行う。

(41 山中賢一)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物繁殖学と関連する課題の研究指導を行う。

(42 渡邊啓史)
生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物遺伝育種学に関連する課題の研究指導を行う。

食資源環境科学に関して、研究の実践、指導を行い、食資源科学について論文指導を行う。

(1 長 裕幸)
数理科学的手法を用いて、土壌環境科学の課題の研究指導を行う。

(13 近藤 文義)
石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したりサイクル材料に関する研究指導を行う。

(18 田中 宗浩)
バイオマス及び食資源を対象とした農業環境工学手法を活用した研究計画の立案、研究指導を行う。

(23 稲葉 繁樹)
農業に関わる機械・ITC技術についての基本技術に関わる課題の研究指導を行う。

(38 阿南 光政)
水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。

(33 上野 大介)
農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。

(30 郡山 益実)
内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。

(29 原口 智和)
地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。

(37 宮本 英揮)
土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壌環境制御に関する研究指導を行う。

(34 弓削 こずえ)
食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。

<p>特別研究 I</p>	<p>設定した修士論文の研究課題に関して、研究の背景や意義を理解した上で研究計画を立案し、研究を実施する。また、既往の研究調査を整理し、基礎的な調査手法・実験手法を修得する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。</p> <p>(20 宗 伸明, 21 上田敏久) 生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、機能高分子化学の課題の研究指導を行う</p> <p>(12 小林元太, 16 後藤正利) 生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、応用微生物学の課題の研究指導を行う</p> <p>(19 永尾晃治) 生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食品栄養化学の課題の研究指導を行う</p> <p>(11 濱洋一郎) 生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食糧安全学の課題の研究指導を行う</p> <p>(7 林 信行, 31 野間誠司) 生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、生物資源利用学の課題の研究指導を行う</p> <p>(概要) 設定した修士論文の研究課題に関して、研究の背景や意義を理解した上で研究計画を立案し、研究を実施する。また、既往の研究調査を整理し、基礎的な調査手法・実験手法を修得する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。 (クラス分け/全15回) (2 稲岡 司) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人類生態学の視点から研究指導を行う。 (9 五十嵐 勉) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人文地理学の視点から研究指導を行う。 (24 辻 一成) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農業経営学の視点から研究指導を行う。 (25 藤村 美穂) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農村社会学の視点から研究指導を行う。 (39 中井 信介) 生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、生態人類学の視点から研究指導を行う。</p>
<p>特別研究 II</p>	<p>設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究Iに引き続き研究を実施するとともに、調査結果・実験結果を解析し、進捗状況を取りまとめて報告する。また、より高度な調査手法・実験手法を修得するとともに、必要に応じて研究計画を修正する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。</p> <p>設定した修士論文の研究課題に関して、研究の背景や意義を理解した上で研究計画を立案し、研究を実施する。また、既往の研究調査を整理し、基礎的な調査手法・実験手法を修得する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。</p> <p>(3 有馬 進) 特別研究Iに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、食用作物の生理生態の解明と栽培技術に関連する課題の研究指導を行う。 (4 野間口眞太郎) 特別研究Iに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動生態学と関連する課題の研究指導を行う。 (5 早川洋一) 特別研究Iに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、昆虫学と関連する課題の研究指導を行う。 (6 和田康彦) 特別研究Iに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物遺伝育種学と関連する課題の研究指導を行う。 (8 大島一里) 特別研究Iに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、農作物のウイルス病と関連する課題の研究指導を行う。</p>

特別研究Ⅱ

- (10 鄭 紹輝)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物の生産生理に関連する課題の研究指導を行う。
- (14 一色司郎)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、蔬菜園芸学と関連する課題の研究指導を行う。
- (15 穴井 豊昭)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物分子育種学と関連する課題の研究指導を行う。
- (17 鈴木章弘)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、作物生理学と関連する課題の研究指導を行う。
- (22 上埜喜八)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、循環型農業に関連する課題の研究指導を行う。
- (26 草場基章)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物病理学、特に糸状菌病害と関連する課題の研究指導を行う。
- (27 吉賀豊司)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、線虫学と関連する課題の研究指導を行う。
- (28 福田伸二)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、果樹栽培・育種と関連する課題の研究指導を行う。
- (32 江原史雄)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動管理学と関連する課題の研究指導を行う。
- (35 徳田 誠)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、システム生態学と関連する課題の研究指導を行う。
- (36 辻田 有紀)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、花卉園芸学と関連する課題の研究指導を行う。
- (40 藤田大輔)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物改良学と関連する課題の研究指導を行う。
- (41 山中賢一)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物繁殖学と関連する課題の研究指導を行う。
- (42 渡邊啓史)
特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物遺伝育種学に関連する課題の研究指導を行う。c

特別研究Ⅱ

特別研究Ⅰに引き続き、食資源環境科学に関して、研究の実践、指導を行い、食資源科学について論文指導を行う。

(1 長 裕幸)

数理科学的手法を用いて、土壤環境科学の課題の研究指導を行う。

(13 近藤 文義)

石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したリサイクル材料に関する研究指導を行う。

(18 田中 宗浩)

バイオマス及び食資源を対象とした農業環境工学手法を活用した研究計画の立案、研究指導を行う。

(23 稲葉 繁樹)

農業に関わる機械・ITC技術についての基本技術に関わる課題の研究指導を行う。

(38 阿南 光政)

水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。

(33 上野 大介)

農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。

(30 郡山 益実)

内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。

(29 原口 智和)

地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。

(37 宮本 英揮)

土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壤環境制御に関する研究指導を行う。

(34 弓削 こずえ)

食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。

設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究Ⅰに引き続き研究を実施するとともに、調査結果・実験結果を解析し、進捗状況を取りまとめて報告する。また、より高度な調査手法・実験手法を修得するとともに、必要に応じて研究計画を修正する。本科目は、主旨指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。

(20 宗 伸明, 21 上田敏久)

特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、機能高分子化学の課題の研究指導を行う

(12 小林元太, 16 後藤正利)

特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、応用微生物学の課題の研究指導を行う

(19 永尾晃治)

特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食品栄養化学の課題の研究指導を行う

(11 濱洋一郎)

特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食糧安全学の課題の研究指導を行う

(7 林 信行, 31 野間誠司)

特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、生物資源利用学の課題の研究指導を行う

<p>特別研究Ⅱ</p>	<p>(概要) 設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究Ⅰに引き続き研究を実施するとともに、調査結果・実験結果を解析し、進捗状況を取りまとめて報告する。また、より高度な調査手法・実験手法を修得するとともに、必要に応じて研究計画を修正する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。 (クラス分け/全15回) (2 稲岡 司) 特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人類生態学の視点から研究指導を行う。 (9 五十嵐 勉) 特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人文地理学の視点から研究指導を行う。 (24 辻 一成) 特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農業経営学の視点から研究指導を行う。 (25 藤村 美穂) 特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農村社会学の視点から研究指導を行う。 (39 中井 信介) 特別研究Ⅰに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、生態人類学の視点から研究指導を行う。</p>	
<p>特別研究Ⅲ</p>	<p>設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究Ⅱに引き続き研究を実施するとともに、研究の進捗状況を取りまとめて報告する。また、討議を通して研究の質を向上させる。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。 (3 有馬 進) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、食用作物の生理生態の解明と栽培技術に関連する課題の研究指導を行う。 (4 野間口真太郎) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動生態学と関連する課題の研究指導を行う。 (5 早川洋一) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、昆虫学と関連する課題の研究指導を行う。 (6 和田康彦) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物遺伝育種学と関連する課題の研究指導を行う。 (8 大島一里) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、農作物のウイルス病と関連する課題の研究指導を行う。 (10 鄭 紹輝) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物の生産生理に関連する課題の研究指導を行う。 (14 一色司郎) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、蔬菜園芸学と関連する課題の研究指導を行う。 (15 穴井 豊昭) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物分子育種学と関連する課題の研究指導を行う。 (17 鈴木章弘) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、作物生理学と関連する課題の研究指導を行う。 (22 上埜喜八) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、循環型農業に関連する課題の研究指導を行う。 (26 草場基章) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物病理学、特に糸状菌病害と関連する課題の研究指導を行う。 (27 吉賀豊司) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、線虫学と関連する課題の研究指導を行う。 (28 福田伸二) 特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、果樹栽培・育種と関連する課題の研究指導を行う。</p>	

特別研究Ⅲ

(32 江原史雄)
特別研究IIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動管理学と関連する課題の研究指導を行う。

(35 徳田 誠)
特別研究IIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、システム生態学と関連する課題の研究指導を行う。

(36 辻田 有紀)
特別研究IIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、花卉園芸学と関連する課題の研究指導を行う。

(40 藤田大輔)
特別研究IIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物改良学と関連する課題の研究指導を行う。

(41 山中賢一)
特別研究IIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物繁殖学と関連する課題の研究指導を行う。

(42 渡邊啓史)
特別研究IIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物遺伝育種学と関連する課題の研究指導を行う。

特別研究Ⅱに引き続き、食資源環境科学に関して、研究の実践、指導を行い、食資源科学について論文指導を行う。

(1 長 裕幸)
数理科学的手法を用いて、土壤環境科学の課題の研究指導を行う。

(13 近藤 文義)
石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したリサイクル材料に関する研究指導を行う。

(18 田中 宗浩)
バイオマス及び食資源を対象とした農業環境工学手法を活用した研究計画の立案、研究指導を行う。

(23 稲葉 繁樹)
農業に関わる機械・ITC技術についての基本技術に関わる課題の研究指導を行う。

(38 阿南 光政)
水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。

(33 上野 大介)
農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。

(30 郡山 益実)
内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。

(29 原口 智和)
地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。

(37 宮本 英揮)
土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壤環境制御に関する研究指導を行う。

(34 弓削 こずえ)
食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。

特別研究Ⅲ

設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究Ⅱに引き続き研究を実施するとともに、研究の進捗状況を取りまとめて報告する。また、討議を通して研究の質を向上させる。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。

(20 宗 伸明, 21 上田敏久)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、機能高分子化学の課題の研究指導を行う

(12 小林元太, 16 後藤正利)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、応用微生物学の課題の研究指導を行う

(19 永尾晃治)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食品栄養化学の課題の研究指導を行う

(11 濱洋一郎)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食糧安全学の課題の研究指導を行う

(7 林 信行, 31 野間誠司)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、生物資源利用学の課題の研究指導を行う

(概要)

設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究Ⅱに引き続き研究を実施するとともに、研究の進捗状況を取りまとめて報告する。また、討議を通して研究の質を向上させる。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。

(クラス分け/全15回)

(2 稲岡 司)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人類生態学の視点から研究指導を行う。

(9 五十嵐 勉)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人文地理学の視点から研究指導を行う。

(24 辻 一成)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農業経営学の視点から研究指導を行う。

(25 藤村 美穂)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農村社会学の視点から研究指導を行う。

(39 中井 信介)

特別研究Ⅱに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、生態人類学の視点から研究指導を行う。

<p>特別研究IV</p>	<p>設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究IIIに引き続き研究を実施するとともに、一連の成果を取りまとめて修士論文を作成し、発表する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。</p> <p>(3 有馬 進)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、食用作物の生理生態の解明と栽培技術に関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(4 野間口真太郎)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動生態学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(5 早川洋一)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、昆虫学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(6 和田康彦)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物遺伝育種学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(8 大島一里)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、農作物のウイルス病と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(10 鄭 紹輝)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物の生産生理に関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(14 一色司郎)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、蔬菜園芸学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(15 穴井 豊昭)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物分子育種学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(17 鈴木章弘)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、作物生理学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(22 上埜喜八)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、循環型農業に関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(26 草場基章)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物病理学、特に糸状菌病害と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(27 吉賀豊司)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、線虫学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(28 福田伸二)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、果樹栽培・育種と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(32 江原史雄)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物行動管理学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(35 徳田 誠)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、システム生態学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(36 辻田 有紀)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、花卉園芸学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(40 藤田大輔)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、熱帯作物改良学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(41 山中賢一)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、動物繁殖学と関連する課題の研究指導を行う。</p> <p>(42 渡邊啓史)</p> <p>特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生物関連産業および生物科学の問題・課題を取り上げ、植物遺伝育種学と関連する課題の研究指導を行う。</p>	
---------------	---	--

特別研究IV

特別研究Ⅲに引き続き、食資源環境科学に関して、研究の実践、指導を行い、食資源科学について論文指導を行う。

(1 長 裕幸)

数理科学的手法を用いて、土壤環境科学の課題の研究指導を行う。

(13 近藤 文義)

石炭灰など産業廃棄物の有効利用を取り上げ、環境に配慮したリサイクル材料に関する研究指導を行う。

(18 田中 宗浩)

バイオマス及び食資源を対象とした農業環境工学手法を活用した研究計画の立案、研究指導を行う。

(23 稲葉 繁樹)

農業に関わる機械・ITC技術についての基本技術に関わる課題の研究指導を行う。

(38 阿南 光政)

水理水文解析手法を用いて、農地防災機能を維持するための水利施設の管理・運用に関する研究指導を行う。

(33 上野 大介)

農地環境の保全に向け、環境中の化学物質を分析化学的手法により検出・解析する手法について研究指導を行う。

(30 郡山 益実)

内湾沿岸域の保全と有効利用を目指し、干潟域の生態系と物質循環に関する課題の研究指導を行う。

(29 原口 智和)

地域の抱える環境問題の解決を目指した地域環境保全に関する研究指導を行う。

(37 宮本 英揮)

土にまつわる環境問題を取り上げ、持続可能な食糧生産のための土壤環境制御に関する研究指導を行う。

(34 弓削 こずえ)

食料生産に不可欠な水資源の有効利用と保全を目指し、農業用水利用技術の高度化に関する課題の研究指導を行う。

設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究IIIに引き続き研究を実施するとともに、一連の成果を取りまとめて修士論文を作成し、発表する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。

(20 宗 伸明, 21 上田敏久)

特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、機能高分子化学の課題の研究指導を行う

(12 小林元太, 16 後藤正利)

特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、応用微生物学の課題の研究指導を行う

(19 永尾晃治)

特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食品栄養化学の課題の研究指導を行う

(11 濱洋一郎)

特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、食糧安全学の課題の研究指導を行う

(7 林 信行, 31 野間誠司)

特別研究IIIに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた生命化学および食糧科学の問題・課題を取り上げ、生物資源利用学の課題の研究指導を行う

<p>専 門 科 目</p>	<p>特別研究Ⅳ</p>	<p>(概要) 設定した修士論文の研究課題に関して、特別研究Ⅲに引き続き研究を実施するとともに、一連の成果を取りまとめて修士論文を作成し、発表する。本科目は、主指導教員の指導の下、副指導教員も参画して実施することにより、修士研究の過程を単位として実質化する。 (クラス分け/全15回) (2 稲岡 司) 特別研究Ⅲに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人類生態学の視点から研究指導を行う。 (9 五十嵐 勉) 特別研究Ⅲに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、人文地理学の視点から研究指導を行う。 (24 辻 一成) 特別研究Ⅲに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農業経営学の視点から研究指導を行う。 (25 藤村 美徳) 特別研究Ⅲに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、農村社会学の視点から研究指導を行う。 (39 中井 信介) 特別研究Ⅲに引き続き、生物資源科学を念頭に置いた、農業と農村のマネジメントに関わる問題を取り上げ、生態人類学の視点から研究指導を行う。</p>	
----------------------------	--------------	--	--

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等												
(農学研究科 生物資源科学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
1	専	教授	チョウ ヒロユキ 長 裕幸 <平成31年4月>		農学博士		食資源環境科学特論※ 土壌物理学特論 先端地水学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (昭和55年7月)	5日
	兼任	非常勤 講師	チョウ ヒロユキ 長 裕幸 <平成32年4月>		農学博士		土壌物理学特論 先端地水学特論	1・2後 1・2後	1 1	1 1	佐賀大学 農学研究科 非常勤講師 (平成32.4)	2日
2	専	教授	イナオカ ツカサ 稲岡 司 <平成31年4月>		保健学博士		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 国際・地域マネジメント特論※ 人間生態学特論 国際環境マネジメント特論 国際・地域マネジメント演習Ⅰ 国際・地域マネジメント演習Ⅱ 国際・地域マネジメント演習Ⅲ 国際・地域マネジメント演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前・後 1後 1・2後 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 0.4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成14年2月)	5日
	兼任	非常勤 講師	イナオカ ツカサ 稲岡 司 <平成31年4月>		保健学博士		人間生態学特論 国際環境マネジメント特論	1・2後 1・2前	1 1	1 1	佐賀大学 農学研究科 非常勤講師 (平成32.4)	2日
3	専	教授	アリマ ススム 有馬 進 <平成31年4月>		博士(農 学)		作物生産学特論 作物生態学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (昭和59年3月)	5日
	兼任	非常勤 講師	アリマ ススム 有馬 進 <平成31年4月>		博士(農 学)		作物生産学特論 作物生態学特論	1・2後 1・2後	1 1	1 1	佐賀大学 農学研究科 非常勤講師 (平成32.4)	2日

4	専	教授	ノマクチ シンタロウ 野間口 眞太郎 <平成31年4月>		理学博士	動物行動生態学特論 動物行動学特論 生物学演習Ⅰ 生物学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成5年4月)	5日
5	専	教授	ハヤカワ ヨウイチ 早川 洋一 <平成31年4月>		理学博士	生物学特論※ 昆虫分子生物学特論 先端昆虫分子生物学特論 生物学演習Ⅰ 生物学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.3 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成16年4月)	5日
6	専	教授	ワダ ヤスヒコ 和田 康彦 <平成31年4月>		博士(農学)	動物資源開発学特論 動物ゲノム情報学特論 動物遺伝育種学特論 生物学演習Ⅰ 生物学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成12年4月)	5日
7	専	教授	ハヤシ ノブユキ 林 信行 <平成31年4月>		博士(農学)	生命機能科学特論※ 食品科学工学特論 バイオマス利用特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成5年9月)	5日

8	専	教授	オオシマ カズサト 大島 一里 <平成31年4月>	農学博士	生物科学特論※ 植物ウイルス病学特論 植物ウイルス学特論 生物科学演習 I 生物科学演習 II 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III 特別研究 IV	1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.3 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成4年5月)	5日
9	専	教授	イガラシ ツトム 五十嵐 勉 <平成31年4月>	文学修士	国際・地域マネジメント特論※ 地域資源マネジメント特論 農村地理学特論 国際・地域マネジメント演習 I 国際・地域マネジメント演習 II 国際・地域マネジメント演習 III 国際・地域マネジメント演習 IV 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III 特別研究 IV	1後 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (昭和63年4月)	
10	専	教授	ヨシヒラ(テイ) シノウキ 吉平(鄭) 紹輝 <平成31年4月>	博士(農学)	熱帯農業資源学特論 熱帯資源植物利用学特論 生物科学演習 I 生物科学演習 II 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III 特別研究 IV	1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成16年7月)	5日
11	専	教授	ハマ ヨウイチロウ 濱 洋一郎 <平成31年4月>	博士(農学)	創成科学融合特論 創成科学 P B L 特論 生命機能科学特論※ 海洋資源化学特論 グリコバイオロジー特論 生命機能科学特別演習 I 生命機能科学特別演習 II 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III 特別研究 IV	1前 1前・後 1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	2 2 0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成4年5月)	5日
12	専	教授	コバヤシ ゲンタ 小林 元太 <平成31年4月>	博士(農学)	生命機能科学特論※ 応用微生物学特論 微生物学特論 生命機能科学特別演習 I 生命機能科学特別演習 II 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III 特別研究 IV	1後 1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成17年5月)	5日

13	専	教授	コンドウ フミヨン 近藤 文義 <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 環境地盤学特論 農地環境工学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成17年11月)	5日
14	専	教授	イッシキ シロウ 一色 司郎 <平成31年4月>	博士(農学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 蔬菜花卉園芸学特論 園芸植物資源開発学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前・後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	2 2 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成5年4月)	5日
15	専	教授	アナイ トヨアキ 穴井 豊昭 <平成31年4月>	博士(理学)	生物科学特論※ 植物ゲノム育種学特論 植物分子遺伝学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.2 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (昭和63年4月)	5日
16	専	教授	ゴトウ マサトシ 後藤 正利 <平成31年4月>	博士(農学)	生命機能科学特論※ 微生物遺伝学特論 真核微生物学特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成28年4月)	5日
17	専	教授	スズキ アキヒロ 鈴木 章弘 <平成31年4月>	博士(理学)	生物科学特論※ 植物環境応答学特論 応用植物生理学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.2 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成17年4月)	5日

18	専	教授	タナカ ムネヒロ 田中 宗浩 <平成31年4月>	博士(農学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 食資源環境科学特論※ 施設農業生産学特論 分光統計解析学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前・後 1後 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成9年7月)	5日
19	専	教授	ナガオ コウジ 永尾 晃治 <平成31年4月>	博士(農学)	生命機能科学特論※ 分子栄養学特論 脂質生化学特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成12年12月)	5日
20	専	教授	ソウ ノブアキ 宗 伸明 <平成31年4月>	博士(工学)	生命機能科学特論※ バイオセンシング特論 バイオ材料特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 教授 (平成23年4月)	5日
21	専	准教授	ウエダ トシヒサ 上田 敏久 <平成31年4月>	理学博士	生命機能科学特論※ 生物有機化学特論 分子生物学特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成1年3月)	5日
22	専	准教授	ウエノ キハチ 上埜 喜八 <平成31年4月>	博士(農学)	生産生態学特論 循環型農業生産学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成17年4月)	5日

23	専	准教授	イナバ シゲキ 稲葉 繁樹 <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 生産情報処理学特論 先端情報技術学特論 生産エンジニアリング特論 農用先端機械学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成2年1月)	5日
24	専	准教授	ツジ カズナリ 辻 一成 <平成31年4月>	博士(農学)	国際・地域マネジメント特論※ 農業経済学特論 農業ビジネスマネジメント特論 アジア比較農業特論 国際・地域マネジメント演習Ⅰ 国際・地域マネジメント演習Ⅱ 国際・地域マネジメント演習Ⅲ 国際・地域マネジメント演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成15年1月)	5日
25	専	准教授	フジムラ ミホ 藤村 美穂 <平成31年4月>	博士(社会学)	国際・地域マネジメント特論※ 農村社会学特論 ルーラル・デベロップメント特論 国際環境マネジメント特論 国際・地域マネジメント演習Ⅰ 国際・地域マネジメント演習Ⅱ 国際・地域マネジメント演習Ⅲ 国際・地域マネジメント演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成9年10月)	5日
26	専	准教授	クサバ モトアキ 草場 基章 <平成31年4月>	博士(農学)	植物病原学特論 植物感染病学特論 生物学演習Ⅰ 生物学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成10年4月)	5日

27	専	准教授	ヨシガ トヨシ 吉賀 豊司 <平成31年4月>	博士(農学)	線虫学特論 先端線虫科学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成11年10月)	5日
28	専	准教授	フクダ シンジ 福田 伸二 <平成31年4月>	博士(農学)	果樹園芸学特論 果樹生産学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成26年4月)	5日
29	専	准教授	ハラグチ トモカズ 原口 智和 <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 環境情報工学特論 水資源計画学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成17年8月)	5日
30	専	准教授	コオリヤマ マスミ 郡山 益実 <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 浅海環境工学特論 干潟生態環境学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成17年4月)	5日
31	専	准教授	ノマ セイジ 野間 誠司 <平成31年4月>	博士(農学)	生命機能科学特論※ 食品生化学特論 食糧流通貯蔵学特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成26年1月)	5日

32	専	准教授	エバラ フミオ 江原 史雄 <平成31年4月>	博士(農学)	家畜行動学特論 家畜管理学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成24年9月)	5日
33	専	准教授	ウエノ ダイスケ 上野 大介 <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 環境分析化学特論 先端環境分析化学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成17年10月)	5日
34	専	准教授	ユゲ コズエ 弓削 こずえ <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 農地農水計画学特論 応用水理学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成25年10月)	5日
35	専	准教授	トクダ マコト 徳田 誠 <平成31年4月>	博士(農学)	システム生態学特論 進化生態学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成23年10月)	5日
36	専	准教授	ツジタ ユキ 辻田 有紀 <平成31年4月>	博士(農学)	花卉園芸学特論 植物系統分類学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1・2前 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成26年10月)	5日

37	専	准教授	ミヤモト ヒデキ 宮本 英揮 <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 生産地盤工学特論 土質工学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平成22年5月)	5日
38	専	准教授	アナン ミツマサ 阿南 光政 <平成31年4月>	博士(農学)	食資源環境科学特論※ 水環境工学特論 利水解析学特論 食資源環境科学特別演習Ⅰ 食資源環境科学特別演習Ⅱ 食資源環境科学特別演習Ⅲ 食資源環境科学特別演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成28年4月)	5日
39	専	准教授	ナカイ シンスケ 中井 信介 <平成31年4月>	博士(学術)	国際・地域マネジメント特論※ 生態人類学特論 アジア地誌特論 国際・地域マネジメント演習Ⅰ 国際・地域マネジメント演習Ⅱ 国際・地域マネジメント演習Ⅲ 国際・地域マネジメント演習Ⅳ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2後 1・2前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成26年8月)	5日
40	専	准教授	フジタ ダイスケ 藤田 大輔 <平成31年4月>	博士(農学)	熱帯作物改良学特論 熱帯作物生理学特論 生物学演習Ⅰ 生物学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成27年4月)	5日

41	専	准教授	ヤマナカ ケンイチ 山中 賢一 <平成31年4月>	博士(農学)	動物発生学特論 動物繁殖生理学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 准教授 (平成23年4月)	5日
42	専	講師	ワタナベ サトシ 渡邊 啓一 <平成31年4月>	博士(農学)	植物ゲノム工学特論 植物ゲノム情報科学特論 生物科学演習Ⅰ 生物科学演習Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1前・後 2前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 8 8 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学研究科 講師 (平成24年7月)	5日
43	兼任	教授	ワタナベ ケイイチ 渡邊 啓一 <平成31年4月>	農学博士	創成科学融合特論 生命機能科学特論※ 生化学特論 タンパク質科学特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ	1前 1後 1・2前 1・2前 1前・後 2前・後	0.3 0.1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 先進健康科学研究科 教授 (昭和63年7月)	5日
44	兼任	教授	マツタ カスヨ 松下 一世 <平成31年4月>	修士(教育学)	ダイバーシティ・人権教育特論※	1前	0.5	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平19.4)	5日
45	兼任	教授	カノ ヒシ 河野 史 <平成31年4月>	博士(医学)	人体構造機能学概論※ 人体構造実習※	1前 1.2通	0.1 0.4	1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平19.2)	5日
46	兼任	教授	ワタリ カナリ 渡 孝則 <平成31年4月>	工学博士	理工学特別講義 知的財産特論 理工学概論※ 創成科学インターンシップS 創成科学インターンシップL	1・2前・後 1後 1前 1・2前・後 1・2前・後	2 2 0.1 1 2	1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.3)	5日
47	兼任	教授	カヘトモコ 長家 智子 <平成31年4月>	修士(教育学)	医学・看護学概論※ 看護理論※	1前 1前	0.4 0.3	1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平25.4)	5日
48	兼任	教授	フカキ タケ 古川 達也 <平成31年4月>	工学博士	創成科学PBL特論	1前・後・2前	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.4)	5日
49	兼任	教授	インマカツ 井嶋 克志 <平成31年4月>	工学博士	理工学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭60.10)	5日
50	兼任	教授	イカリ カシ 市川 尚志 <平成31年4月>	理学博士	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 理工学概論※	1前 1前・後・2前 1前	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平3.4)	5日
51	兼任	教授	スギヤマ アキラ 杉山 晃 <平成31年4月>	理学博士	創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平15.4)	5日
52	兼任	教授	オオシ ヨシ 大石 祐司 <平成31年4月>	工学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平6.3)	5日
53	兼任	教授	チヤイ ジンチン 柴 錦春 <平成31年4月>	工学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平8.4)	5日
54	兼任	教授	カキヤ リュウジ 梶木屋 龍治 <平成31年4月>	博士(理学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平20.9)	5日

55	兼任	教授	ツムラ タクシ 辻村 健 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平22.2)	5日
56	兼任	教授	イシマル カンジ 石丸 幹二 <平成31年4月>		薬学博士	創成科学融合特論 創成科学PBL特論	1前 1前・後	0.3 2	1	佐賀大学 農学部 教授 (平成2年6月)	5日
57	兼任	教授	タケキ シンイチ 只木 進一 <平成31年4月>		理学博士	情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.4)	5日
58	兼任	教授	ハナモト タクシ 花本 猛士 <平成31年4月>		理学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.7)	5日
59	兼任	教授	チャン ホー 張 (江越) 波 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.5	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.4)	5日
60	兼任	教授	テラモト ケンブ 寺本 顕武 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭63.4)	5日
61	兼任	教授	ノロ ヒロカズ 能城 浩和 <平成31年4月>		博士 (医学)	医学・看護学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平22.5)	5日
62	兼任	教授	ノノ コウイチ 野出 孝一 <平成31年4月>		博士 (医学)	医学・看護学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平15.10)	5日
63	兼任	教授	フナボト コウイチ 船久保 公一 <平成31年4月>		理学博士	理工学概論※ 物理学概論	1前 1後	0.1 1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平元.10)	5日
64	兼任	教授	ミヤノ アキオ 宮良 明男 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平元.4)	5日
65	兼任	教授	ハトリ ノブタカ 服部 信祐 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論 理工学概論※	1前 1前	0.4 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.4)	5日
66	兼任	教授	マツオ シゲル 松尾 繁 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平6.4)	5日
67	兼任	教授	オオイ トシユキ 大石 敏之 <平成31年4月>		博士 (工学)	電気電子工学概論※	1後	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平26.3)	5日
68	兼任	教授	ウエノ ナオヒロ 上野 直広 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平25.7)	5日
69	兼任	教授	タカムラ トシユキ 高椋 利幸 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.11)	5日
70	兼任	教授	クラマツ アキオ 倉岡 晃夫 <平成31年4月>		博士 (医学)	創成科学融合特論 医学・看護学概論※ 人体構造実習※ 人体構造機能学概論※	1前 1前・後・2前 1・2通 1前	2 0.3 0.2 1	1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平23.3)	5日
71	兼任	教授	コガ アケミ 古賀 明美 <平成31年4月>		博士 (医学)	看護理論※	1前	0.3	1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.10)	5日
72	兼任	教授	ハナダ エイサク 花田 英輔 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平26.10)	5日
73	兼任	教授	ハキハラ セイヂ 萩原 世也 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.4)	5日
74	兼任	教授	トヨガ イチヒコ 豊田 一彦 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論 電気電子工学概論※	1前 1後	0.4 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平23.4)	5日
75	兼任	教授	ハナダ ケンジ 半田 賢司 <平成31年4月>		理学博士	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平3.6)	5日
76	兼任	教授	キト シズホ 城戸 瑞穂 <平成31年4月>		博士 (歯学)	人体構造機能学概論※ 人体構造実習※	1前 1.2通	0.1 0.4	1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平28.2)	5日

77	兼任	教授	テイキョクウ 鄭 旭光 <平成31年4月>		工学博士		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平7.4)	5日
78	兼任	教授	コイワ マサキ 鯉川 雅之 <平成31年4月>		理学博士		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平4.4)	5日
79	兼任	教授	オクム ヒロシ 奥村 浩 <平成31年4月>		工学博士		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.3)	5日
80	兼任	教授	タケタ ミチノ 竹下 道範 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論 材料化学特論※	1前・後 1後	2 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平11.12)	5日
81	兼任	教授	シマ ノブオ 三島 伸雄 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平7.11)	5日
82	兼任	教授	ヤマシ ヒロユキ 山西 博幸 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 低平地沿岸海域研究セ ンター 教授 (平19.4)	5日
83	兼任	教授	ナカガワ ヤスヒロ 中川 泰宏 <平成31年4月>		博士 (理学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平24.10)	5日
84	兼任	教授	アノサキ ヤスヒサ 岡崎 泰久 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論 理工学概論※ 知能情報工学概論	1前・後 1前 1後	2 0.1 1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.6)	5日
85	兼任	教授	ムラマツ カスヒロ 村松 和弘 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論 電気電子工学概論※	1前 1後	0.3 1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平13.3)	5日
86	兼任	教授	コトノリ サトル 後藤 聡 <平成31年4月>		博士 (工学)		電気電子工学概論※	1後	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.4)	5日
87	兼任	教授	スズキ チエコ 鈴木 智恵子 <平成31年4月>		博士 (医学)		看護理論※	1前	0.2	1	佐賀大学 医学部 教授 (平27.7)	5日
88	兼任	教授	オオツ ヤスリ 大津 康徳 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平3.4)	5日
89	兼任	教授	コシマ ショウイチ 小島 昌一 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平19.4)	5日
90	兼任	教授	オオト ケイサク 大渡 啓介 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論 材料化学特論※	1前・後 1後	2 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平4.4)	5日
91	兼任	教授	キノエ マチ子 木上 洋一 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 海洋エネルギー研究セ ンター 教授 (平9.4)	5日
92	兼任	教授	フジノ ナルミ 藤野 成美 <平成31年4月>		博士 (保健学)		看護理論※	1前	0.2	1	佐賀大学 医学部 教授 (平25.4)	5日
93	兼任	教授	ホリ ヨシキ 堀 良彰 <平成31年4月>		博士 (情報工 学)		情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平25.4)	5日
94	兼任	教授	ミナモト テルヤ 皆本 晃弥 <平成31年4月>		博士 (数理学)		データサイエンス特論	1後	1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.4)	5日
95	兼任	教授	フクダ ノブヒ 福田 修 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平26.10)	5日
96	兼任	教授	アイマ シンイチ 相島 慎一 <平成31年4月>		博士 (医学)		医学・看護学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.2)	5日
97	兼任	教授	タカハシ トオル 田中 徹 <平成31年4月>		博士 (工学)		理工学概論※ 電気電子工学概論※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.4)	5日
98	兼任	准教授	ムラタ ユウゾウ 村田 祐造 <平成31年4月>		博士 (医学)		人体構造機能学概論※ 人体構造実習※	1前 1.2通	0.1 0.4	1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.12)	5日

99	兼任	准教授	オノキ イタ 尾崎 岩太 <平成31年4月>		博士 (医学)		医学・看護学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 保健管理センター 准教授 (平16.3)	5日
100	兼任	准教授	ムラバト マサカ 村久保 雅孝 <平成31年4月>		修士 (教育学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平13.4)	5日
101	兼任	准教授	ササキ シンイチ 佐々木 伸一 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論 電気電子工学概論※	1前・後 1後	2 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平13.4)	5日
102	兼任	准教授	エラ マサナ 江良 正直 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平10.4)	5日
103	兼任	准教授	ハラ シゲオミ 原 重臣 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平7.4)	5日
104	兼任	准教授	タカ カホキ 田中 高行 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (昭63.4)	5日
105	兼任	准教授	トミカ ヒロカ 富永 広貴 <平成31年4月>		博士 (理学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.4)	5日
106	兼任	教授	ウノ マサシ 海野 雅司 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平18.4)	5日
107	兼任	准教授	ニシヤマ エイスケ 西山 英輔 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平元.4)	5日
108	兼任	准教授	ナガノ エキオ 永野 幸生 <平成31年4月>		博士 (農 学)		生命機能科学特論※ 分子細胞生物学特論 細胞情報学特論 生命機能科学特別演習 I 生命機能科学特別演習 II	1後 1・2前 1・2前 1前・後 2前・後	0.1 1 1 2 2	1 1 1 1 1	佐賀大学 総合分析実験セン ター 准教授 (平成14年11月)	5日
109	兼任	准教授	ヒビノ ヨシツ 日比野 雄嗣 <平成31年4月>		理学博士		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平5.4)	5日
110	兼任	准教授	シロミ リョウ 塩見 憲正 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論 機械工学概論※	1前・後 1後	2 0.3	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
111	兼任	准教授	マワリ トシム 馬渡 俊文 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平2.4)	5日
112	兼任	特任准 教授	カワゾエ ヨシノリ 川添 嘉徳 <平成31年4月>		博士 (医 学)		生命機能科学特論 生命機能科学特別演習 I 生命機能科学特別演習 II	1後 1前・後 2前・後	0.1 2 2	1 1 1	佐賀大学 先進健康科学研究 科 特任准教授 (平成29年6月)	5日
113	兼任	准教授	イズミ キヨカ 泉 清高 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
114	兼任	准教授	スギ タケオ 杉 剛直 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論 電気電子工学概論※	1前・後 1後	2 0.1	1 1	佐賀大学 海洋エネルギー研究セ ンター 准教授 (平7.4)	5日
115	兼任	准教授	コタマ ヒロキ 兒玉 宏樹 <平成31年4月>		博士 (理学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 総合分析実験セン ター 准教授 (平18.11)	5日
116	兼任	准教授	イマイ ヤスカ 今井 康貴 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 海洋エネルギー研究セ ンター 教授 (平18.5)	5日
117	兼任	准教授	ヤマカ ヨシサ 山岡 禎久 <平成31年4月>		博士 (工学) 博士 (医学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.5)	5日

118	兼任	准教授	キト アキラ 木本 晃 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		電気電子工学概論※	1後	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平9.4)	5日
119	兼任	准教授	チバナ モイ 橘 基 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
120	兼任	准教授	マキ マコト 真木 一 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平14.8)	5日
121	兼任	准教授	リカイシ 李 海峰 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平21.4)	5日
122	兼任	准教授	コトカノ ノブヒロ 古藤田 信博 ＜平成31年4月＞		博士 (農学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平23.7)	5日
123	兼任	准教授	ナカノ ムリ 中尾 友香梨 ＜平成31年4月＞		博士 (比較社会 文化学)		多文化共生理解	1前	1	1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平20.10)	5日
124	兼任	准教授	ヒエイタ ヤスヒロ 日永田 泰啓 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 総合情報基盤セン ター 准教授 (平13.4)	5日
125	兼任	准教授	ヤダ ミツリ 矢田 光徳 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平12.12)	5日
126	兼任	准教授	コトカ リュウタロウ 後藤 隆太郎 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.5	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
127	兼任	准教授	ハラ ノグミ 原 めぐみ ＜平成31年4月＞		博士 (医学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平28.7)	5日
128	兼任	准教授	ハネシ ヒロシ 羽石 寛志 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン特論	1後	1	1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平15.4)	5日
129	兼任	准教授	イワタ ヨウイチ 石渡 洋一 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
130	兼任	准教授	オウチ ヒデオ 押川 英夫 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.7	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.6)	5日
131	兼任	准教授	フジタ ツグミ 藤田 亜美 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)		人体構造機能学概論※	1前	0.3	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平21.6)	5日
131	兼任	准教授	オオシマ フミヒロ 大島 史洋 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平9.4)	5日
132	兼任	准教授	ミツタケ ススム 光武 進 ＜平成31年4月＞		博士 (農 学)		創成科学PBL特論 生命機能科学特論※ バイオメンブレン機能特論 食糧安全学特論 生命機能科学特別演習Ⅰ 生命機能科学特別演習Ⅱ	1前・後 1後 1・2後 1・2後 1前・後 2前・後	2 0.1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 先進健康科学研究 科 准教授 (平成25年9月)	5日
133	兼任	准教授	ハシモト トキタカ 橋本 時忠 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平20.10)	5日
134	兼任	准教授	タカハシ トモ 高橋 智 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平18.4)	5日
135	兼任	准教授	ナリタ ケイキ 成田 貴行 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平18.4)	5日
136	兼任	准教授	モリタ シゲキ 森田 繁樹 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.1)	5日

137	兼任	准教授	イノヒデアキ 伊藤 秀昭 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平21.11)	5日
138	兼任	准教授	クマガイユキ 熊谷 有記 <平成31年4月>		博士 (保健学)		創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平23.4)	5日
139	兼任	准教授	オオノ マコト 大谷 誠 <平成31年4月>		博士 (工学)		情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 総合情報基盤セン ター 准教授 (平15.4)	5日
140	兼任	准教授	カキタ ヒデカ 川喜田 英孝 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
141	兼任	准教授	ハセガワ ヒロユキ 長谷川 裕之 <平成31年4月>		博士 (工学)		機械工学概論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平22.4)	5日
142	兼任	准教授	モリサガ シンタロウ 森貞 真太郎 <平成31年4月>		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平24.2)	5日
143	兼任	准教授	マツヤマ ナルモン MATSUYAMA NARUMOL <平成31年4月>		博士 (工学)		都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平25.11)	5日
144	兼任	准教授	ヒロトモ マサノリ 廣友 雅徳 <平成31年4月>		博士 (工学)		情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平25.4)	5日
145	兼任	准教授	タノ ヨシイ 只野 裕一 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平20.4)	5日
146	兼任	准教授	イノヘ タカウ 猪八重 拓郎 <平成31年4月>		博士 (工学)		都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.1)	5日
147	兼任	准教授	ナカムラ ケンタロウ 中村 健太郎 <平成31年4月>		博士 (数理科学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平28.1)	5日
148	兼任	准教授	タケミ シンヤ 武富 紳也 <平成31年4月>		博士 (工学)		機械工学概論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平23.4)	5日
149	兼任	准教授	ナカノチホノ ヒロアキ 中大窪 千晶 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平22.10)	5日
150	兼任	准教授	アノダ タクヲ 岡田 拓三 <平成31年4月>		博士 (理学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平24.4)	5日
151	兼任	准教授	カキヤ ケイ 仮屋 圭史 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平26.4)	5日
152	兼任	准教授	ヤマナ イヒロ 山内 一宏 <平成31年4月>		博士 (理学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平30.4)	5日
153	兼任	准教授	ミヤハラ マミコ 宮原 真美子 <平成31年4月>		博士 (工学)		都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平29.10)	5日
154	兼任	准教授	キムラ タカマ 木村 拓馬 <平成31年4月>		博士 (理学)		創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.4)	5日
155	兼任	准教授	オノノマ けん 大島 孝仁 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平30.4)	5日
156	兼任	講師	ペトルス ルー Petrus Roux <平成31年4月>		M. S. in Human Resource Management M. A. in Teaching English as a Foreign/Se cond Language		学術英語特論	1前・後	1	2	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平25.4)	5日

157	兼任	講師	イガ ケジ 石田 賢治 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論 機械工学概論※	1前・後 1後	2 0.3	1 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平10.4)	5日
158	兼任	講師	オウキ ミチ 大月 美佳 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.8	1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平13.4)	5日
159	兼任	講師	ネミ タクト 根上 武仁 <平成31年4月>		博士 (工学)		研究・職業倫理特論 創成科学PBL特論	1前 1前・後	1 2	2 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平12.4)	5日
160	兼任	講師	マシロ ユキ 猿子 幸弘 <平成31年4月>		博士 (数理学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平11.9)	5日
161	兼任	講師	キチ ヤスヒロ 菊池 泰弘 <平成31年4月>		博士 (理学)		人体構造実習※	1・2通	0.2	1	佐賀大学 医学部 講師 (平24.3)	5日
162	兼任	講師	ツジタ タダユキ 辻田 忠志 <平成31年4月>		博士(バイ オサイエ ンス)		生命機能科学特論※ 生命機能科学特別演習 I 生命機能科学特別演習 II	1後 1前・後 2前・後	0.1 2 2	1 1 1	佐賀大学 先進健康科学研究 科 講師 (平成27年8月)	5日
163	兼任	講師	カキ タカシ 加藤 孝盛 <平成31年4月>		博士 (数理学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平26.6)	5日
164	兼任	助教	シヤ タカ 塩谷 孝夫 <平成31年4月>		博士 (医学)		人体構造機能学概論※	1前	0.3	1	佐賀大学 医学部 助教 (平19.4)	5日
165	兼任	助教	カクホ ヨシノ 川久保 善智 <平成31年4月>		博士 (障害科 学)		人体構造実習※	1・2通	0.2	1	佐賀大学 医学部 助教 (平16.4)	5日
166	兼任	特任 助教	アサキ カル 荒木 薫 <平成31年4月>		博士 (医学)		ダイバーシティ・人権教育特論 ※	1後	0.5	1	佐賀大学 男女共同参画推進 室 特任助教 (平25.4)	5日
167	兼任	特任助 教	カワグチ シンイチ 川口 真一 <平成31年4月>		博士(工 学)		生命機能科学特論※ 生命機能科学特別演習 I 生命機能科学特別演習 II	1後 1前・後 2前・後	0.1 2 2	1 1 1	佐賀大学 先進健康科学研究 科 特任助教 (平成28年3月)	5日
168	兼任	非常勤 講師	ハンダ シュン 半田 駿 <平成31年4月>		理学博士		農業気象学特論	1・2前	1	1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	1日
169	兼任	非常勤 講師	コバヤシ ツネオ 小林 恒夫 <平成31年4月>		農学博士		地域農業オーガニゼーション特論 比較農政学特論	1・2前 1・2後	1 1	1 1	佐賀大学 非常勤講師 (平成31年4月)	1日
170	兼任	非常勤 講師	シラタケ ヨシハル 白武 義治 <平成31年4月>		農学博士		食料市場流通特論 国際・地域協同組合特論	1・2後 1・2前	1 1	1 1	佐賀大学 農学研究科 非常勤講師 (平成31年4月)	1日

国立大学法人佐賀大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
佐賀大学				佐賀大学				
教育学部				教育学部				
学校教育課程	120		480	学校教育課程	120		480	
芸術地域デザイン学部				芸術地域デザイン学部				
芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450	芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450	
経済学部				経済学部				
経済学科	110	—	440	経済学科	110	—	440	
経営学科	80	—	320	経営学科	80	—	320	
経済法学科	70	—	280	経済法学科	70	—	280	
医学部				医学部				
医学科	106	—	604	医学科	106	—	604	
看護学科	60	—	240	看護学科	60	—	240	
理工学部				理工学部				
数理科学科	30	—	120		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
物理科学科	40	—	160		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
知能情報システム学科	60	—	240		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
機能物質化学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
機械システム工学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
電気電子工学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
都市工学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
(3年次編入学)	—	3年次 20	40		—	3年次 0	0	平成33年4月学生募集停止
				理工学科	480	15	1,950	学部の設置(事前伺い)
農学部				農学部				
応用生物科学科	45	—	180		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
生物環境科学科	60	—	240		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
生命機能科学科	40	—	160		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
(3年次編入学)	—	3年次 10	20		—	3年次 0	0	平成33年4月学生募集停止
				生物資源科学科	145	—	580	学部の設置(事前伺い)
計	1,291	35	5,414	計	1,281	20	5,344	
佐賀大学大学院				佐賀大学大学院				
学校教育学研究科				学校教育学研究科				
教育実践探究専攻(P)	20	—	40	教育実践探究専攻(P)	20	—	40	
地域デザイン研究科				地域デザイン研究科				
地域デザイン専攻(M)	20	—	40	地域デザイン専攻(M)	20	—	40	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(M)	15	—	30		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
医科学専攻(D)	25	—	100	医科学専攻(D)	25	—	100	
看護学専攻(M)	16	—	32		0	—	0	平成31年4月学生募集停止

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
工学系研究科				→	工学系研究科				
数理科学専攻(M)	9	—	18		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
物理科学専攻(M)	15	—	30		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
知能情報システム学専攻(M)	16	—	32		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
循環物質化学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
電気電子工学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
都市工学専攻(M)	27	—	54		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
先端融合工学専攻(M)	36	—	72		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
システム創成科学専攻(D)	24	—	72		24	—	72		
					理工学研究科				研究科の設置(事前伺い)
					理工学専攻(M)				
					167	—	334		
農学研究科				→	農学研究科				
生物資源科学専攻(M)	40	—	80		0	—	0	0	平成31年4月学生募集停止
					生物資源科学専攻(M)				研究科の設置(事前伺い)
					32	—	64		
					先進健康科学研究科				研究科の設置(事前伺い)
					先進健康科学専攻(M)				
					52	—	104		
計					計				
	344	—	762		340	—	754		